

平成 27 年度 区民・事業者アンケート調査  
報 告 書

平成 28 年 3 月

板 橋 区



# 目次

I 区民アンケート 編.....	1
第1章 調査概要.....	2
1.1 調査の目的.....	2
1.2 調査方法.....	2
1.3 調査期間.....	2
1.4 回収状況.....	2
1.5 調査内容.....	2
1.6 本編の共通事項.....	3
第2章 調査結果の概要.....	5
2.1 ごみ出しや資源分別.....	5
2.2 拠点回収.....	5
2.3 「雑がみ」のリサイクル.....	6
2.4 プラスチック製容器包装の分別収集、リサイクル.....	6
2.5 家庭ごみの有料化.....	6
2.6 ごみ減量やリサイクル.....	6
2.7 集団回収.....	7
2.8 ごみ減量リサイクルの区の取り組み.....	8
第3章 回答世帯の属性.....	9
3.1 年代.....	9
3.2 住居形態.....	10
3.3 世帯人数.....	11
3.4 居住地域.....	12
第4章 ごみ出しや資源分別.....	13
4.1 集積所で困ったこと.....	13
4.2 ごみや資源で分別に迷うもの.....	15
第5章 拠点回収.....	16
5.1 紙パック・乾電池・食品用トレイ・ボトル容器の処理.....	16
5.2 古布・古着と廃食用油の拠点回収.....	18
5.3 使用済小型家電の拠点回収.....	20
第6章 雑がみのリサイクル.....	22
6.1 リサイクルできる「雑がみ」の品目.....	22
6.2 資源の日の「雑がみ」の排出.....	23
第7章 プラスチック製容器包装の分別収集、リサイクル.....	24
第8章 家庭ごみの有料化.....	25
8.1 家庭ごみの有料化についての考え.....	25
8.2 家庭ごみが有料化された場合に必要なこと.....	27
第9章 ごみ減量やリサイクル.....	30
9.1 レジ袋・マイバック.....	30
9.2 生ごみの処理.....	33
第10章 集団回収.....	39

1 0.1 集団回収への排出.....	39
1 0.2 新たに回収してほしい品目.....	40
1 0.3 集団回収へ排出をしていない理由.....	41
第1 1章 ごみ減量リサイクルの区の取り組み.....	42
1 1.1 板橋区の施策で知っているもの.....	42
1 1.2 「板橋かたつむり運動」(かたつむりのおやくそく).....	44
1 1.3 ごみの分け方・出し方や減量に関する情報源.....	45
1 1.4 板橋区によるごみ減量に関する情報提供・PR活動.....	46
1 1.5 板橋区が取り組むべきこと.....	47
<b>II 事業所アンケート 編.....</b>	<b>51</b>
第1章 調査概要.....	52
1.1 調査の目的.....	52
1.2 調査方法.....	52
1.3 調査期間.....	52
1.4 回収状況.....	52
1.5 調査内容.....	53
1.6 本編の共通事項.....	54
第2章 調査結果の概要.....	55
2.1 資源やごみの排出・処理状況.....	55
2.2 区収集へ資源やごみを出している事業所.....	55
2.3 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステム.....	56
2.4 民間委託収集にごみを排出している事業者.....	56
2.5 ごみ減量やりサイクルの取り組み.....	56
2.6 食品関連の事業所.....	57
2.7 販売店での消費者向けの取り組み.....	57
第3章 回答事業所の属性.....	58
3.1 業種.....	58
3.2 建物の形態.....	60
3.3 従業者数.....	61
3.4 延べ床面積.....	62
第4章 資源やごみの排出・処理状況.....	63
4.1 資源やごみの保管場所.....	63
4.2 資源やごみの出し方・処分方法.....	64
第5章 区収集への資源やごみの排出.....	66
5.1 区収集に排出しているごみ量.....	66
5.2 事業系シールの貼付.....	68
5.3 事業系シールを貼付しない理由.....	69
5.4 民間委託収集に変える条件.....	71
5.5 「日量50kg未満」の基準を引き下げ.....	73
第6章 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムの利用.....	75
6.1 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムの利便性.....	75
6.2 古紙以外に回収してほしい資源.....	76
第7章 民間委託収集にごみを排出している事業者.....	77
7.1 民間委託収集に排出しているごみ量.....	77

7.2 民間委託収集に排出している理由.....	79
第8章 ごみ減量やリサイクルの取り組み.....	81
8.1 ごみ減量・リサイクルの推進.....	81
8.2 ごみ減量・リサイクルを行う上での課題.....	83
8.3 ごみ情報の入手方法.....	85
8.4 板橋区に進めてほしい情報提供やPR活動.....	86
第9章 食品関連の事業所.....	88
9.1 食品廃棄物等多量発生事業者の該当.....	88
9.2 生ごみの排出量を抑えるための取り組み.....	89
9.3 生ごみの処理方法.....	90
第10章 販売店での消費者向けの取り組み.....	91
<b>資料編</b> .....	<b>93</b>
資料1 区民アンケート.....	94
資料1-1 自由記入欄の主な意見.....	94
資料1-2 クロス集計結果.....	99
資料1-3 区民アンケート用紙.....	131
資料2 事業所アンケート.....	139
資料2-1 自由記入欄の主な意見.....	139
資料2-2 クロス集計結果.....	142
資料2-3 事業所アンケート用紙.....	167



---

# Ⅰ 区民アンケート 編

---

# 第 1 章 調査概要

## 1.1 調査の目的

本調査は、板橋区の区民を対象にアンケートを行い、資源やごみの処理・リサイクルの方法、ごみ問題に対する取り組み、板橋区が行うリサイクル施策等に対する考えを把握することにより、今後の板橋区のごみ処理やリサイクルに関する施策や、一般廃棄物処理基本計画、一般廃棄物処理実施計画及び分別収集計画のための基礎資料を得るものである。

## 1.2 調査方法

平成 27 年 9 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為に抽出した 2,300 世帯と、家庭ごみ排出実態調査を実施した 118 世帯の合計 2,418 世帯を調査対象とし、調査票を送付及び回収し、分析を行った。調査票は無記名回答とした。

## 1.3 調査期間

住民基本台帳から無作為に抽出した 2,300 世帯は、平成 27 年 9 月 16 日に調査票を発送した。家庭ごみ排出実態調査を実施した 118 世帯は、家庭ごみ排出実態調査終了後の平成 27 年 10 月 28 日に調査票を配布した。いずれも、平成 28 年 1 月 29 日到着分までを集計対象とした。

## 1.4 回収状況

表 I-1 にアンケートの回収状況を示す。住民基本台帳より抽出した世帯からは 841 件、家庭ごみ排出実態調査を実施した世帯からは 69 件の合計 910 件を回収した。この内、907 件を有効回答として集計の対象とした。

表 I-1 区民アンケートの回収状況

	一般世帯	調査世帯	合計
①発送数	2,300 件	118 件	2,418 件
②宛先不明等	14 件		14 件
③母数 ①-②	2,286 件	118 件	2,404 件
④回収数	841 件	69 件	910 件
⑤回収率 ④÷③×100	36.8%	58.5%	37.9%
⑥有効回答数	838 件	69 件	907 件
⑦有効回答率 ⑥÷③×100	36.7%	58.5%	37.7%

## 1.5 調査内容

区民アンケートの質問項目を表 I-2 に示す。



表 I-2 区民アンケートの質問項目

質問番号	質問項目
問1	回答世帯の属性 年代、住居形態、世帯人数、居住地域
問2	ごみ出しや資源分別
問 2-1	集積所で困ったこと
問 2-2	ごみや資源で分別に迷うもの
問3	拠点回収
問 3-1	紙パック・乾電池・食品用トレイ・ボトル容器の処理
問 3-2(1)	古布・古着と廃食用油の拠点回収の利用
問 3-2(2)	古布・古着と廃食用油の拠点回収を利用したことない理由
問 3-3(1)	使用済小型家電の拠点回収の利用
問 3-3(2)	使用済小型家電の拠点回収を利用したことない理由
問4	「雑がみ」のリサイクル
問 4-1	リサイクルできる「雑がみ」の品目
問 4-2	資源の日の「雑がみ」の排出
問5	プラスチック製容器包装の分別収集、リサイクル
問6	家庭ごみの有料化
問 6-1	家庭ごみの有料化についての考え
問 6-2	家庭ごみが有料化された場合に必要なこと
問7	ごみ減量やリサイクル
問 7-1(1)	レジ袋の受取
問 7-1(2)	マイバックの利用
問 7-1(3)	マイバックを利用しない理由
問 7-2(1)	生ごみを出さないための工夫
問 7-2(2)	生ごみの水切りの有無
問 7-2(3)	生ごみの水切り方法
問 7-2(4)	調理くずや生ごみの処理
問 7-2(5)	生ごみ処理で使用したい方法
問8	集団回収
問 8-1	集団回収への排出
問 8-2	新たに回収してほしい品目
問 8-3	集団回収へ排出をしていない理由
問9	ごみ減量リサイクルの区の取り組み
問 9-1	板橋区の施策で知っているもの
問 9-2	「板橋かたつむり運動」(かたつむりのおやくそく)
問 9-3	ごみの分け方・出し方や減量に関する情報源
問 9-4	板橋区によるごみ減量に関する情報提供・PR活動
問 9-5	板橋区が取り組むべきこと
問10	ごみ問題やリサイクルに関するご意見・ご要望等

## 1.6 本編の共通事項

### (1) 表や図の留意事項

- ①表やグラフ中の比率の合計値が、四捨五入の関係上、100%にならない場合がある。
- ②表中で値が0のところは空欄としている。

③アンケートの設問には単一回答と複数回答があり、複数回答の「全体」は回答対象の世帯数を示しており、各選択肢の回答数の合計とは同じにならない。

(2) 世帯属性とのクロス集計のコメントについて

属性と問のクロス集計結果の特徴についてコメントを記述しているが、「無回答」や選択肢の「その他」のように属性に意味がない場合は評価対象から除いている。また、回答数が少ない選択肢については、的確な判断ができないため、詳細なコメントを記述していない。

## 第2章 調査結果の概要

---

### 2.1 ごみ出しや資源分別

#### (1) 集積所で困ったこと

「特に困っていない」の回答割合が最も高く 40.1%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「特に困っていない」の回答割合が最も高いが、住居形態別では『戸建て住宅』で、「通りがかりの人による投棄やポイ捨てがある」の回答割合が最も高い。また、年代別の『20歳代』は「特に困っていない」の回答割合が特に高く 61.9%である。

#### (2) ごみや資源で分別に迷うもの

ごみや資源で分別に迷うものを記入方式により調査した。最も記入件数が多かったのが「家電製品（30cm 四方未満）」（28件）で、「金属との複合製品」（27件）、「電池」（22件）と続いている。

### 2.2 拠点回収

#### (1) 紙パック・乾電池・食品用トレイ・ボトル容器の処理

回答割合が最も高かったのは、紙パックは「可燃ごみに出す」（61.5%）、乾電池は「不燃ごみに出す」（31.6%）、食品用トレイは「可燃ごみに出す」（61.5%）、ボトル容器は「可燃ごみに出す」（31.0%）であった。

#### (2) 古布・古着と廃食用油の拠点回収

拠点回収の利用については、「知らなかったので利用したことがない」の回答割合が最も高く過半数の 56.8%を占めている。世帯属性別でも、「知らなかったので利用したことがない」は全ての属性で最も回答割合が高く、年代別では、年代が下がるにつれて回答割合も高くなる傾向がある。

拠点回収を利用したことがない理由については、「自宅から遠いから」の回答割合が最も高く 35.7%を占めている。

#### (3) 使用済小型家電の拠点回収

「知らなかったので利用したことがない」の回答割合が最も高く過半数の 60.7%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「知らなかったので利用したことがない」の回答割合が最も高いが、住居形態別では『店舗・事業所付き住宅』で、「知らないが拠点回収場所が分かれば利用したい」の回答割合が最も高い。

使用済小型家電の拠点回収を利用したことない理由については、「該当する使用済小型家電はほとんど出ない、または少量だから」の回答割合が最も高く過半数の 52.4%を占めている。

## 2.3 「雑がみ」のリサイクル

### (1) リサイクルできる「雑がみ」の品目

「知らなかった」の回答割合が最も高く 48.0%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「知らなかった」の回答割合が最も高いが、年代別の『60 歳代』で、「一部の品目は知っていた」の回答割合が最も高く、年代別の『70 歳以上』と住居形態別の『店舗・事業所付き住宅』で、「よく知っていた」の回答割合が最も高い。

### (2) 資源の日の「雑がみ」の排出

「たまに出している」の回答割合が最も高く 36.9%を占めている。

## 2.4 プラスチック製容器包装の分別収集、リサイクル

廃プラスチックのさらなる資源化については、「できる範囲で行うべき」の回答割合が最も高く過半数の 68.0%を占めている。

## 2.5 家庭ごみの有料化

### (1) 家庭ごみの有料化についての考え

「どちらかといえば有料化に反対である」の回答割合が最も高く 38.3%を占めている。家庭ごみの有料化に肯定的な回答の「有料化すべきである。」と「どちらかといえば有料化に賛成である。」を合計すると 14.9%で、否定的な回答の「どちらかといえば有料化に反対である。」と「有料化すべきではない。」を合計すると 73.8%である。

### (2) 家庭ごみが有料化された場合に必要なこと

「不法投棄対策を強化する」の回答割合が最も高く過半数の 56.8%を占めている。

## 2.6 ごみ減量やリサイクル

### (1) レジ袋・マイバック

#### ① レジ袋の受取

「ほとんど受け取らない」の回答割合が最も高く過半数の 52.7%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「ほとんど受け取らない」の回答割合が最も高いが、世帯人数別では『1 人』で、「ほとんど受け取っている」の回答割合が最も高い。

#### ② マイバックの利用

「マイバッグを利用している」の回答割合が最も高く過半数の 66.9%を占めている。

#### ③ マイバックを利用しない理由

「もらったレジ袋を、家庭内のごみ出し袋などに利用するから」の回答割合が最も高く大多数の 81.3%を占めている。

## (2) 生ごみ処理

### ① 生ごみを出さないための工夫

「食材を買いすぎないようにする」の回答割合が最も高く過半数の 61.0%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「食材を買いすぎないようにする」の回答割合が最も高いが、年代別では『60 歳代』以上で、住居形態別では『店舗・事業所付き住宅』で、世帯人数別では『3 人』以上で、「食材・食品の在庫に注意して、消費・賞味期限切れを出さないようにする」の回答割合が最も高い。

### ② 生ごみの水切りの有無

「している」の回答割合が最も高く過半数の 74.5%を占めている。

### ③ 生ごみの水切り方法

「三角コーナーを使用している」の回答割合が最も高く過半数の 67.2%を占めている。

### ④ 調理くずや生ごみの処理

「可燃（燃やす）ごみに出している」の回答割合が最も高く大多数の 89.5%を占めている。過去調査と比べると「ディスポーザーを使っている」が徐々に高くなっている。

### ⑤ 生ごみ処理で使用したい方法

「特にない」の回答割合が最も高く過半数の 56.8%を占めている。

## 2.7 集団回収

### (1) 集団回収への排出

「出している」の回答割合が最も高く 41.7%を占めている。世帯属性別でも、半数程度の属性で「出している」の回答割合が最も高いが、年代別では『40 歳代』以下で、住居形態別では『戸建て住宅』と『ごみの保管場所のない集合住宅等』で、世帯人数別では『1 人』で、「出していない」の回答割合が最も高い。

### (2) 新たに回収してほしい品目

「なべ・やかん等の金属類」の回答割合が最も高く 41.0%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「なべ・やかん等の金属類」の回答割合が最も高いが、年代別の『30 歳代』では、「ペットボトル」の回答割合が最も高く、世帯人数別の『3 人』と『5 人以上』では、「雑がみ」の回答割合が最も高い。

### (3) 集団回収へ排出をしていない理由

「地域で行われているかどうか、情報がないから」の回答割合が最も高く過半数の 54.1%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「地域で行われているかどうか、情報がないから」の回答割合が最も高いが、年代別では『60 歳代』以上で、住居形態別では『戸

建て住宅』と『店舗・事業所付き住宅』で、世帯人数別では『4人』以上で、「週1回の区の資源回収を利用するから」の回答割合が最も高い。

## 2.8 ごみ減量リサイクルの区の取り組み

### (1) 板橋区の施策で知っているもの

「集団回収」の回答割合が最も高く 25.4%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「集団回収」の回答割合が最も高いが、年代別では『30歳代』以下で、住居形態別では『ごみの保管場所のない集合住宅等』で、世帯人数別では『1人』で、「拠点回収」の回答割合が最も高い。

### (2) 「板橋かたつむり運動」(かたつむりのおやくそく)

「名称も内容も知らない」の回答割合が最も高く過半数の 73.3%を占めている。平成24年度調査と比べて、「名称も内容も知っている」が 3.8%、「名称は知っているが、内容は知らない」が 8.1%高くなっている。

### (3) ごみの分け方・出し方や減量に関する情報源

「集積所の看板」の回答割合が最も高く過半数の 53.6%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「集積所の看板」の回答割合が最も高いが、年代別では『70歳以上』で、住居形態別では『店舗・事業所付き住宅』で、「広報いたばし」の回答割合が最も高い。

### (4) 板橋区によるごみ減量に関する情報提供・PR活動

「情報量・内容ともに不十分である」の回答割合が最も高く 45.3%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「情報量・内容ともに不十分である」の回答割合が最も高いが、年代別の『70歳以上』では、「情報量は十分だが、内容を分かりやすくしてほしい」の回答割合が最も高く、住居形態別の『店舗・事業所付き住宅』では、「内容は分かりやすいが、もっと情報量がほしい」の回答割合が最も高い。

### (5) 板橋区が取り組むべきこと

「ごみの分け方・出し方に関する情報提供・PRの充実」の回答割合が最も高く 47.7%を占めている。

拠点回収場所の追加を要望した方が回収場所を追加してほしい品目は、「使用済小型家電」の回答割合が最も高く 43.8%を占めている。世帯属性別でも、ほとんどの属性で「使用済小型家電」の回答割合が最も高いが、年代別の『40歳代』以下と、住居形態別の『ごみの保管場所のない集合住宅等』と、世帯人数別の『1人』では「乾電池」の回答割合が最も高い。

### 第3章 回答世帯の属性

問1 あなたご自身とご家庭についてお聞きします。

#### 3.1 年代

「⑤60歳代」(23.8%)の回答割合が最も高く、次いで「③40歳代」(22.9%)と「④50歳代」(21.6%)が続いている。

表 I-3 問1年代 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①20歳代	63	6.9%
②30歳代	168	18.5%
③40歳代	208	22.9%
④50歳代	196	21.6%
⑤60歳代	216	23.8%
⑥70歳以上	52	5.7%
無回答	4	0.4%
合計	907	100.0%

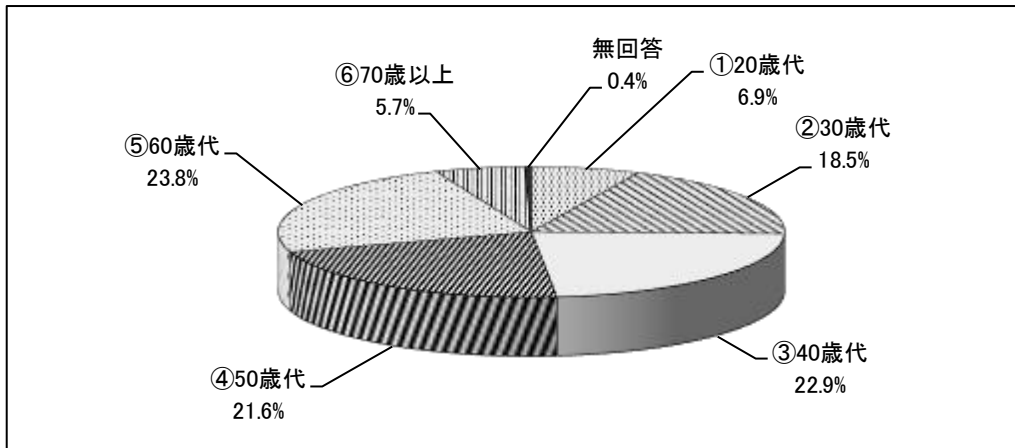


図 I-1 問1年代回答結果

### 3.2 住居形態

「②ごみの保管場所のある集合住宅等」(52.5%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「①戸建て住宅」(32.3%)、「③ごみの保管場所のない集合住宅等」(13.2%)と続いている。

表 I-4 問1 住居形態 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①戸建て住宅	293	32.3%
②ごみの保管場所のある集合住宅等	476	52.5%
③ごみの保管場所のない集合住宅等	120	13.2%
④店舗・事業所付き住宅	12	1.3%
⑤その他	1	0.1%
無回答	5	0.6%
合計	907	100.0%

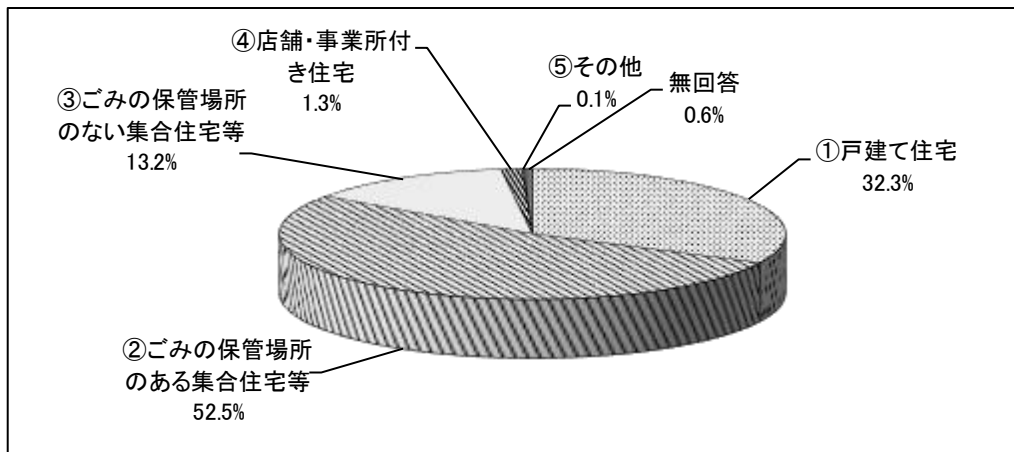


図 I-2 問1 住居形態 回答結果



### 3.3 世帯人数

「① 1人」(29.0%)の回答割合が最も高く、次いで「② 2人」(26.8%)、「③ 3人」(22.9%)と続いている。

表 I-5 問 1 世帯人数 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
① 1人	263	29.0%
② 2人	243	26.8%
③ 3人	208	22.9%
④ 4人	131	14.4%
⑤ 5人以上	61	6.7%
無回答	1	0.1%
合計	907	100.0%

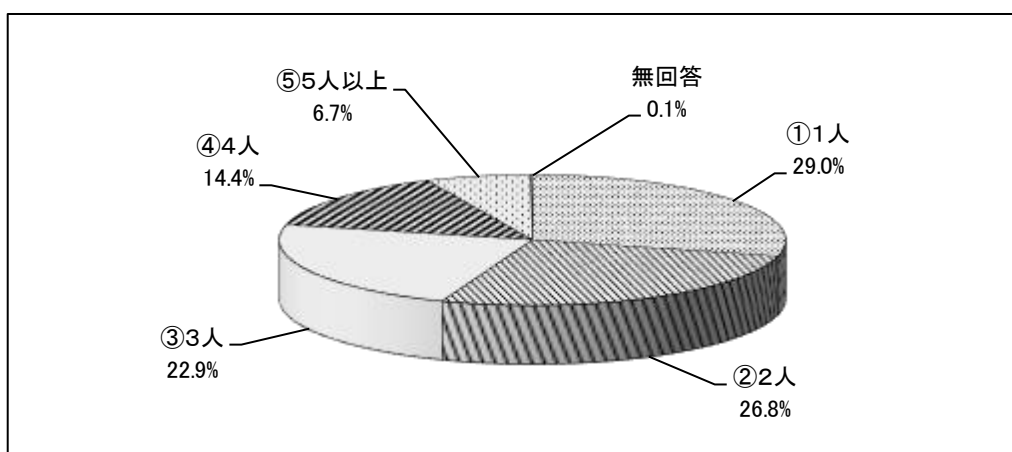


図 I-3 問 1 世帯人数 回答結果

### 3.4 居住地域

「清水町」(15.8%)の回答割合が最も高く、次いで「東新町」(12.6%)、「小豆沢」(11.9%)と続いている。

表 I-6 問1 居住地域 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
小豆沢	108	11.9%
熊野町	94	10.4%
志村	74	8.2%
徳丸	77	8.5%
清水町	143	15.8%
赤塚	95	10.5%
高島平	96	10.6%
東新町	114	12.6%
西台	53	5.8%
新河岸	44	4.9%
その他	2	0.2%
無回答	7	0.8%
合計	907	100.0%

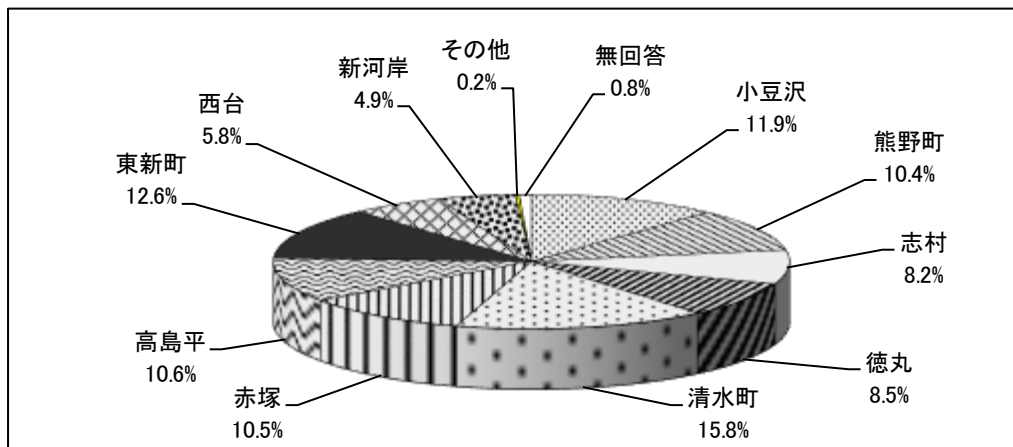


図 I-4 問1 居住地域 回答結果

## 第4章 ごみ出しや資源分別

問2 ごみ出しや資源分別についてお聞きします。

### 4.1 集積所で困ったこと

問2-1 ごみや資源の集積所で、困ったことはありますか。(〇はいくつでも)

「⑧特に困っていない」(40.1%)の回答割合が最も高く、次いで「⑥カラスなどにより荒らされる」(22.8%)、「⑤通りがかりの人による投棄やポイ捨てがある」(22.1%)と続いている。なお、「⑨その他」の具体的内容は「粗大ごみが出されている」(14件)、「不燃ごみを出す日が分かりにくい」(4件)、「不法投棄がある」(3件)、「資源を入れるコンテナが少ない」(2件)、「資源を持ち去る人がいる」(2件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「⑧特に困っていない」の回答割合が最も高いが、年代別では『⑥70歳以上』で、住居形態別では『①戸建て住宅』で、「⑤通りがかりの人による投棄やポイ捨てがある」の回答割合が最も高い。また、年代別の『①20歳代』は「⑧特に困っていない」の回答割合が特に高く61.9%である。

過去調査の同じ質問と比較したのが表I-8である。平成24年度調査と比べるとおおよそ同じような傾向であるが、「⑥カラスなどにより荒らされる」が3.0%高くなり、「⑧特に困っていない」が9.3%低くなっている。

表 I-7 問 2-1 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①分別が守られない	141	15.5%
②曜日が守られない	69	7.6%
③回収日の前日にごみを出す人がいる	126	13.9%
④資源を持ち去る人がいる	166	18.3%
⑤通りがかりの人による投棄やポイ捨てがある	200	22.1%
⑥カラスなどにより荒らされる	207	22.8%
⑦集積所を管理できる人がいない	55	6.1%
⑧特に困っていない	364	40.1%
⑨その他	87	9.6%
回答数(n=)	907	

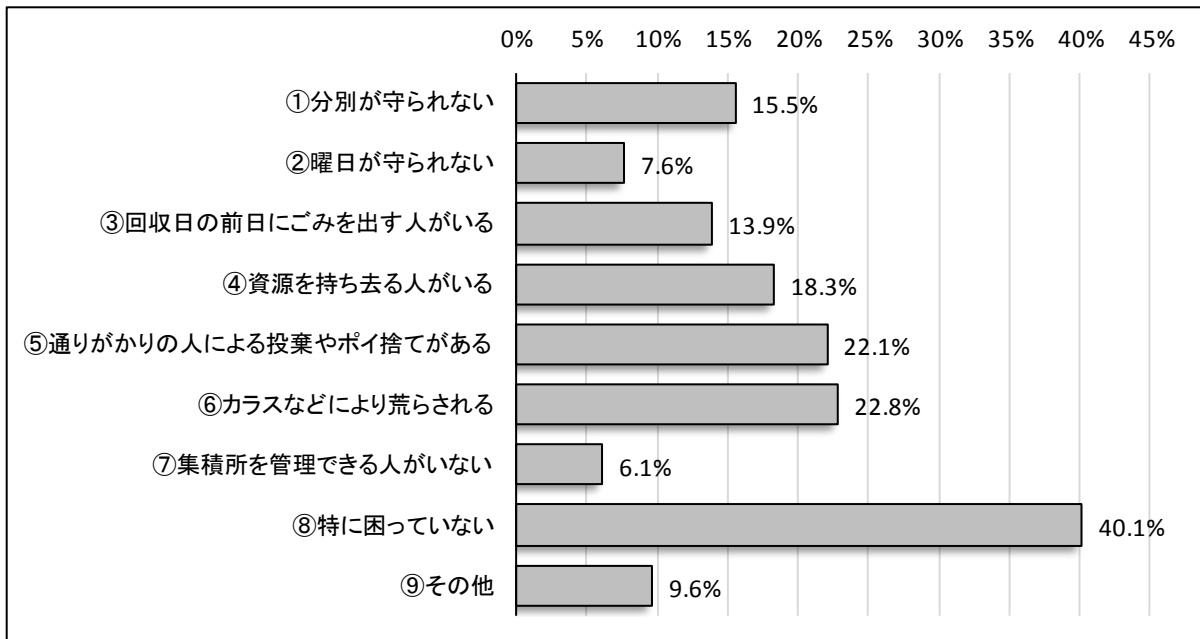


図 I-5 問 2-1 回答結果

表 I-8 過去調査との比較（問 2-1）

選択肢(複数回答)	H20 年度	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①分別が守られない	15.1%	18.1%	14.7%	15.5%
②曜日が守られない	6.9%	9.3%	7.0%	7.6%
③回収日の前日にごみを出す人がいる	12.0%	13.7%	14.0%	13.9%
④資源を持ち去る人がいる	13.9%	12.4%	17.9%	18.3%
⑤通りがかりの人による投棄やポイ捨てがある	22.3%	25.5%	21.7%	22.1%
⑥カラスなどにより荒らされる	19.8%	29.2%	19.8%	22.8%
⑦集積所を管理できる人がいない	4.6%	5.7%	3.7%	6.1%
⑧特に困っていない	48.0%	41.2%	49.4%	40.1%
⑨その他	8.1%	5.7%	8.5%	9.6%

#### 4.2 ごみや資源で分別に迷うもの

問 2-2 ごみや資源で分別に迷うもの、または以前迷ったことがあるものがあれば、下欄にご記入ください。

記入のあった品目で集計を行い、2件以上のものを件数順に表 I-9 のとおりまとめた。最も記入件数が多かったのが「家電製品 (30cm 四方未満)」(28 件) で、以下は「金属との複合製品」(27 件)、「電池」(22 件) と続いている。

表 I-9 問 2-2 回答結果

品目	件数	品目	件数
家電製品(30cm 四方未満)	28	刃物	3
金属との複合製品	27	おもちゃ	3
電池	22	雑誌・チラシ	3
プラスチック類	21	シャンプー等の容器	3
土	14	廃油	3
靴	12	牛乳パック	3
スプレー缶	11	CD	2
カイロ	10	お菓子の缶	2
家電製品(30cm 四方以上)	10	ガラス製品	2
油のびん・かん	9	缶のふた	2
びんのふた	9	ペットボトルのキャップ	2
化粧品のびん	8	乾燥剤	2
フライパン	7	ライター	2
アルミホイル	6	皮製品	2
陶器	6	ホチキスの針が付いた紙	2
電球・蛍光灯	5	塗料	2
布団	5	金属以外の複合製品	2
割れ物	5	長い棒	2
小型の家具	5	カーペット	2
傘	4	金属部品	2
衣類	4	ゴム	2
ガスボンベ	4	保冷材	2
		アルミトレイ	2
		アルミ袋	2

家電製品の具体的な記入例

※1 家電製品 (最大辺が 30cm 未満) : 炊飯器、アイロン、電話機、目覚まし時計、ラジオ、アイロン、バッテリーチャージャー、体重計、トースター、ゲーム機、電気ポット

※2 家電製品 (最大辺が 30cm 以上) : 電子レンジ、ラジカセ、加湿器、FAX、パソコン

## 第5章 拠点回収

問3 紙パックや古着、小型家電などの拠点回収についてお聞きします。

### 5.1 紙パック・乾電池・食品用トレイ・ボトル容器の処理

問3-1 紙パック・乾電池・食品用トレイ・ボトル容器（プラスチック製）はどのように処理していますか。下表の品目ごとに、主な処理方法の番号をお選びください。（○は1つずつ）

紙パックは、「①可燃ごみに出す」（61.5%）の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「④スーパー等の店頭回収」（23.0%）、「⑤ほとんど出ない」（6.4%）と続いている。世帯属性とのクロス集計（Pエラー! ブックマークが定義されていません。）では特徴的な傾向はなかった。

乾電池は、「②不燃ごみに出す」（31.6%）の回答割合が最も高く、次いで「③区の拠点回収」（27.6%）、「④スーパー等の店頭回収」（21.4%）と続いている。世帯属性とのクロス集計（Pエラー! ブックマークが定義されていません。）では、ほとんどの属性で「②不燃ごみに出す」の回答割合が最も高いが、年代別では『④50歳代』以上で、住居形態別では『①戸建て住宅』、『③ごみの保管場所のない集合住宅等』で、世帯人数別では『⑤5人以上』で、「③区の拠点回収」の回答割合が最も高い。

食品用トレイは、「①可燃ごみに出す」（61.5%）の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「④スーパー等の店頭回収」（23.2%）、「⑤ほとんど出ない」（4.9%）と続いている。世帯属性とのクロス集計（Pエラー! ブックマークが定義されていません。）では特徴的な傾向はなかった。

ボトル容器は、「①可燃ごみに出す」（31.0%）の回答割合が最も高く、次いで「③区の拠点回収」（24.5%）、「②不燃ごみに出す」（17.1%）と続いている。世帯属性とのクロス集計（Pエラー! ブックマークが定義されていません。）では、ほとんどの属性で「①可燃ごみに出す」の回答割合が最も高いが、年代別では『⑤60歳代』以上で、住居形態別では『④店舗・事業所付き住宅』で、世帯人数別では『③3人』で、「③区の拠点回収」の回答割合が最も高い。また、年代別では『①20歳代』は、「②不燃ごみに出す」が最も高い。

表 I-10 問3-1 回答結果

設問	選択肢							合計
	①可燃ごみに出す	②不燃ごみに出す	③区の拠点回収	④スーパー等の店頭回収	⑤ほとんど出ない	⑥その他	無回答	
紙パック	558	1	46	209	58	11	24	907
乾電池(マンガン、アルカリ)	9	287	250	194	100	39	28	907
食品用トレイ	558	36	33	210	44	5	21	907
ボトル容器(プラスチック製)	281	155	222	65	41	110	33	907

設問	選択肢							合計
	①可燃ごみに出す	②不燃ごみに出す	③区の拠点回収	④スーパー等の店頭回収	⑤ほとんど出ない	⑥その他	無回答	
紙パック	61.5%	0.1%	5.1%	23.0%	6.4%	1.2%	2.6%	100.0%
乾電池(マンガン、アルカリ)	1.0%	31.6%	27.6%	21.4%	11.0%	4.3%	3.1%	100.0%
食品用トレイ	61.5%	4.0%	3.6%	23.2%	4.9%	0.6%	2.3%	100.0%
ボトル容器(プラスチック製)	31.0%	17.1%	24.5%	7.2%	4.5%	12.1%	3.6%	100.0%

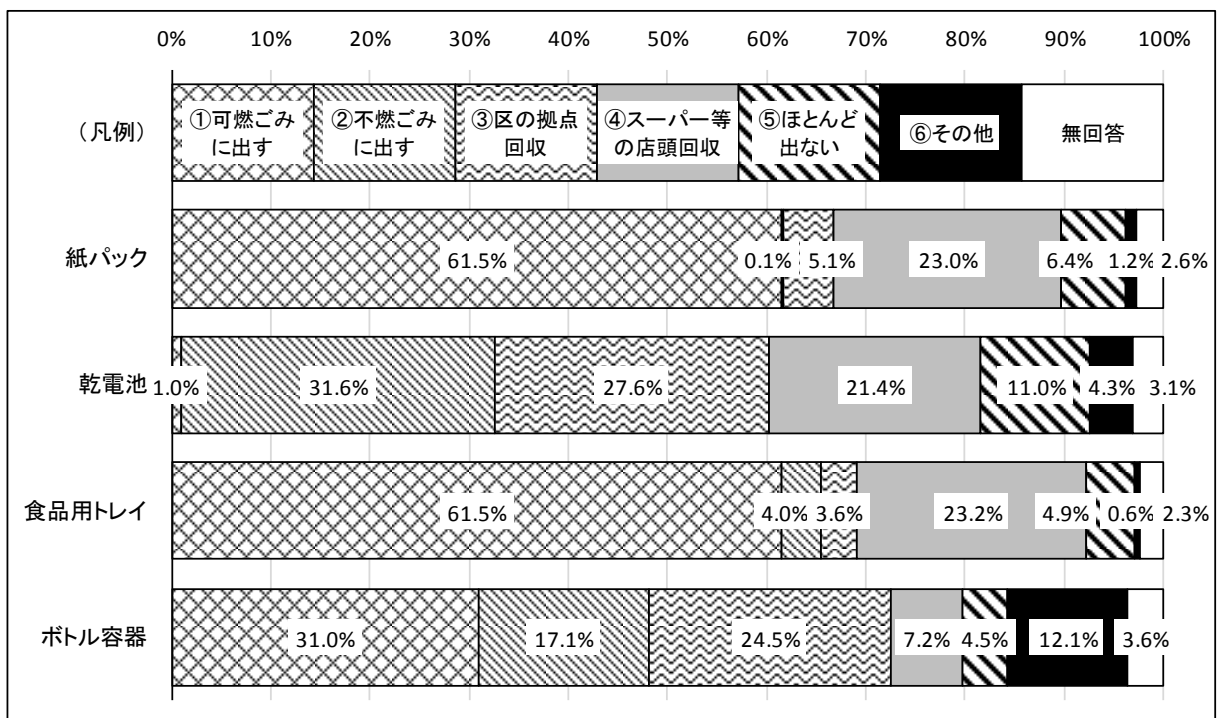


図 I-6 問 3-1 回答結果

## 5.2 古布・古着と廃食用油の拠点回収

問 3-2 古布・古着と廃食用油についてお聞きします。

区では公共施設 8 か所で、ご家庭から出た古布・古着と廃食用油の拠点回収を行っています。

### (1) 古布・古着と廃食用油の拠点回収の利用

問 3-2(1) この拠点回収をご存じですか。また、利用したことはありますか。(○は 1 つ)

「④知らなかったので利用したことがない」(56.8%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②知らないが拠点回収場所が分かれば利用したい」(19.2%)、「③知っているが利用したことがない」(12.3%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(P エラー! ブックマークが定義されていません。)でも、「④知らなかったので利用したことがない」は全ての属性で最も回答割合が高く、年代別では、年代が下がるにつれて、「④知らなかったので利用したことがない」の回答割合も高くなる傾向がある。

表 I-11 問 3-2(1) 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①知っていて利用したことがある	91	10.0%
②知らないが拠点回収場所が分かれば利用したい	174	19.2%
③知っているが利用したことがない	112	12.3%
④知らなかったので利用したことがない	515	56.8%
無回答	15	1.7%
合計	907	100.0%

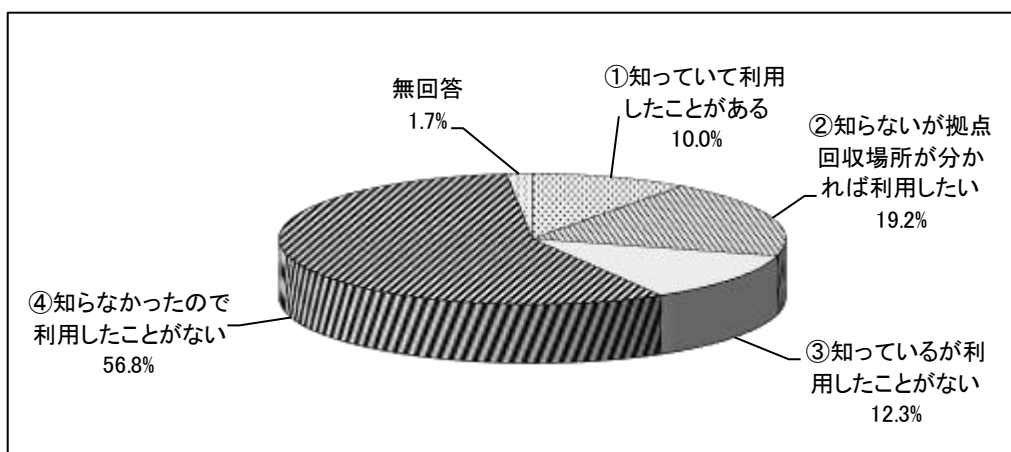


図 I-7 問 3-2(1) 回答結果



(2) 古布・古着と廃食用油の拠点回収を利用したことない理由

問 3-2 (2) 前問(1)で 3.に○をつけた方にお聞きします。

古布・古着と廃食用油の拠点回収を利用したことがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

「①自宅から遠いから」(35.7%)の回答割合が最も高く、次いで「②拠点まで持って行くのが面倒だから」(34.8%)、「③古布・古着や廃食用油はほとんど出ない、または少量だから」(31.3%)と続いている。なお、「⑤その他」の具体的内容は「拠点回収場所がわからない」(4件)、「集合住宅の集荷場所があるので」(3件)、「土日に回収していないので」(2件)、「古着屋に持って行くので」などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 I-12 問 3-2(2) 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①自宅から遠いから	40	35.7%
②拠点まで持って行くのが面倒だから(ごみに出すのが楽だから)	39	34.8%
③古布・古着や廃食用油はほとんど出ない、または少量だから	35	31.3%
④古布・古着は集団回収でリサイクルしているから	17	15.2%
⑤その他	13	11.6%
回答数(n=)	112	

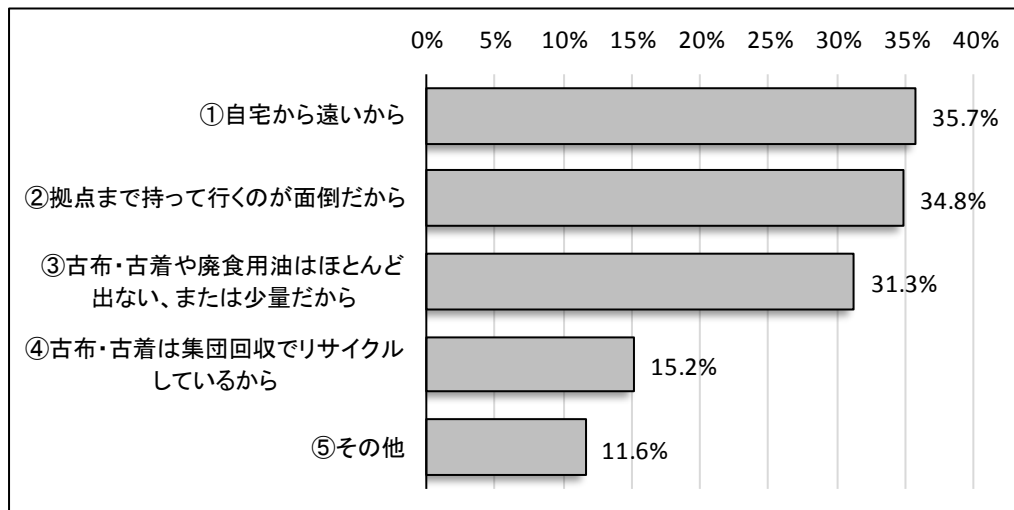


図 I-8 問 3-2(2) 回答結果

### 5.3 使用済小型家電の拠点回収

問 3-3 使用済小型家電についてお聞きします。

区では、公共施設 13 か所で、ご家庭から出た最大辺 30 cm未満で投入口 (30 cm×15 cm) に入る小型家電 (携帯電話、ゲーム機、デジカメなど) の拠点回収を行っています。

#### (1) 使用済小型家電の拠点回収の利用

問 3-3(1) この拠点回収をご存じですか。また、利用したことはありますか。(○は 1 つ)

「④知らなかったので利用したことがない」(60.7%) の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②知らないが拠点回収場所が分かれば利用したい」(19.1%)、「③知っているが利用したことがない」(11.4%) と続いている。

世帯属性とのクロス集計 (P エラー! ブックマークが定義されていません。) では、ほとんどの属性で「④知らなかったので利用したことがない」の回答割合が最も高いが、住居形態別では『④店舗・事業所付き住宅』で、「②知らないが拠点回収場所が分かれば利用したい」の回答割合が最も高い。

表 I-13 問 3-3(1) 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①知っているが利用したことがある	58	6.4%
②知らないが拠点回収場所が分かれば利用したい	173	19.1%
③知っているが利用したことがない	103	11.4%
④知らなかったので利用したことがない	551	60.7%
無回答	22	2.4%
合計	907	100.0%

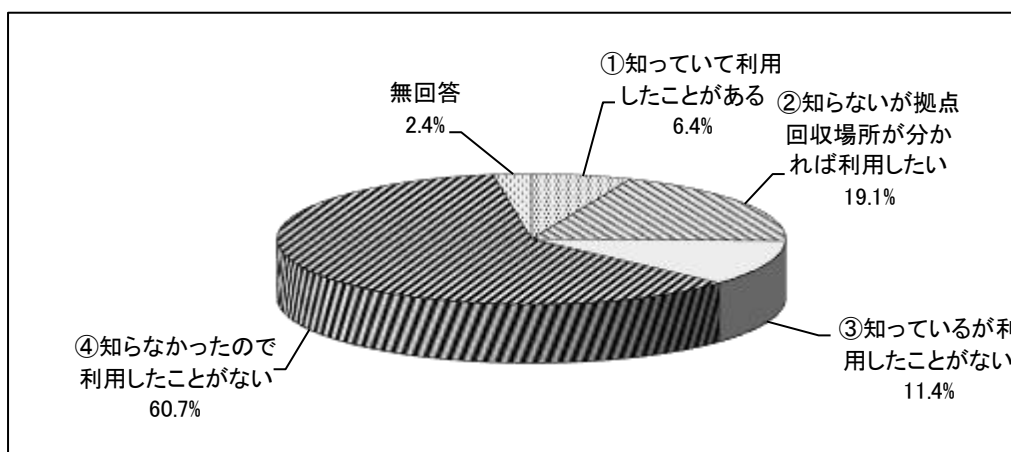


図 I-9 問 3-3(1) 回答結果

(2) 使用済小型家電の拠点回収を利用したことない理由

問 3-3 (2) 前問(1)で 3.に○をつけた方にお聞きします。

使用済小型家電の拠点回収を利用したことがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

「③該当する使用済小型家電はほとんど出ない、または少量だから」(52.4%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「④携帯電話ショップでの携帯電話回収や、リサイクルショップなどを利用しているから」(25.2%)、「①自宅から遠いから」(13.6%)と続いている。なお、「⑤その他」の具体的内容は「マンション内ごみ集積所に出す場所がある」、「場所がわからない」、「土日に回収をしていないため」、「個人情報that漏れないか不安なので」、「回収業者にて処理」などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「③該当する使用済小型家電はほとんど出ない、または少量だから」の回答割合が最も高いが、年代別では『⑤60歳代』で、世帯人数別では『③3人』で、「④携帯電話ショップでの携帯電話回収や、リサイクルショップなどを利用しているから」の回答割合が最も高い。

表 I-14 問 3-3(2) 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①自宅から遠いから	14	13.6%
②拠点まで持って行くのが面倒だから(ごみに出すのが楽だから)	11	10.7%
③該当する使用済小型家電はほとんど出ない、または少量だから	54	52.4%
④携帯電話ショップでの携帯電話回収や、リサイクルショップなどを利用しているから	26	25.2%
⑤その他	7	6.8%
回答数(n=)	103	

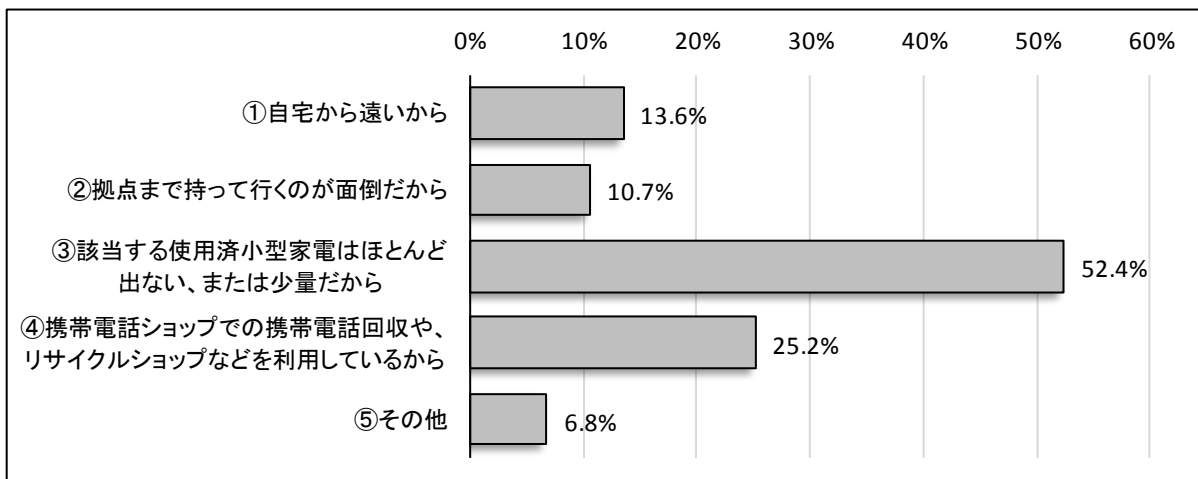


図 I-10 問 3-3(2) 回答結果

## 第6章 雑がみのリサイクル

問4 「雑がみ」のリサイクルについてお聞きします。

### 6.1 リサイクルできる「雑がみ」の品目

問4-1 あなたはリサイクルできる「雑がみ」の品目についてご存じでしたか。(○は1つ)

「③知らなかった」(48.0%)の回答割合が最も高く、次いで「②一部の品目は知っていた」(32.6%)、「①よく知っていた」(17.5%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「③知らなかった」の回答割合が最も高いが、年代別の『⑤60歳代』で、「②一部の品目は知っていた」の回答割合が最も高く、年代別の『⑥70歳以上』と住居形態別の『④店舗・事業所付き住宅』で、「①よく知っていた」の回答割合が最も高い。

表 I-15 問4-1 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①よく知っていた	159	17.5%
②一部の品目は知っていた	296	32.6%
③知らなかった	435	48.0%
無回答	17	1.9%
合計	907	100.0%

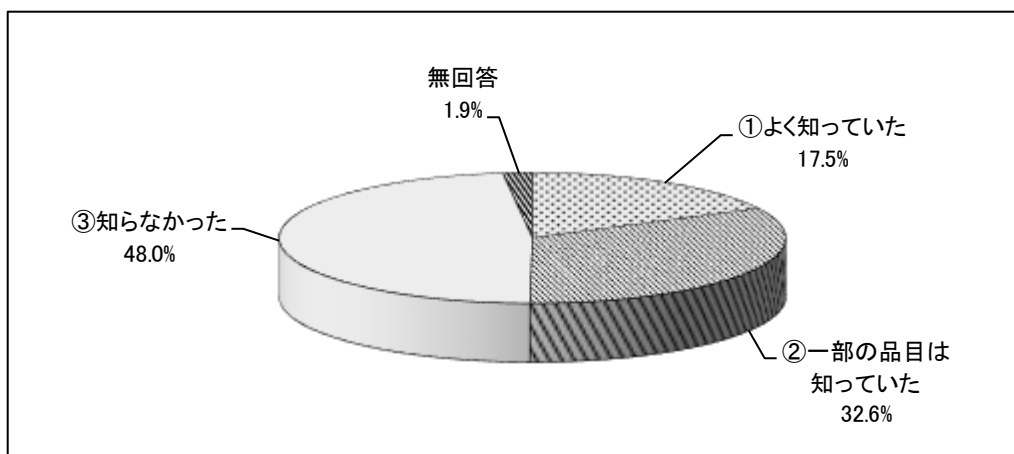


図 I-11 問4-1 回答結果

## 6.2 資源の日の「雑がみ」の排出

問 4-2 資源の日に「雑がみ」を出していますか。(○は1つ)

「②たまに出している」(36.9%)の回答割合が最も高く、次いで「③何が雑紙なのかよく分からないので出していない」(34.0%)、「①ほぼ毎日出している」(14.7%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 I-16 問 4-2 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①ほぼ毎日出している	133	14.7%
②たまに出している	335	36.9%
③何が雑がみなのかよく分からないので出していない	308	34.0%
④分別や排出方法が面倒なので出していない	80	8.8%
無回答	51	5.6%
合計	907	100.0%

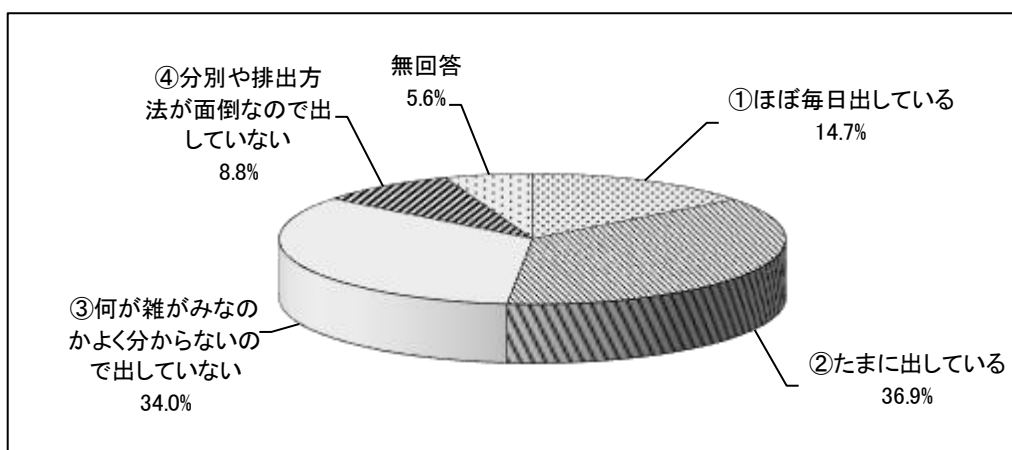


図 I-12 問 4-2 回答結果

## 第7章 プラスチック製容器包装の分別収集、リサイクル

問5 プラスチック製容器包装の分別収集、リサイクルについてお聞きします。

食品の袋、レジ袋、トレイ、弁当容器、洗剤ボトルといったプラスチック製容器包装は、現在可燃ごみとして収集し、熱回収しています。しかし、さらに細かく分別収集すれば、収集費用はかかりますが、資源化することもできます。あなたは、廃プラスチックのさらなる資源化についてどのように思いますか。（○は1つ）

「②できる範囲で行うべき」（68.0%）の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「①進んで行うべき」（15.8%）、「③必要ない」（14.4%）と続いている。

世帯属性とのクロス集計（Pエラー! ブックマークが定義されていません。）では特徴的な傾向はなかった。

表 I-17 問5 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①進んで行うべき	143	15.8%
②できる範囲で行うべき	617	68.0%
③必要ない	131	14.4%
無回答	16	1.8%
合計	907	100.0%

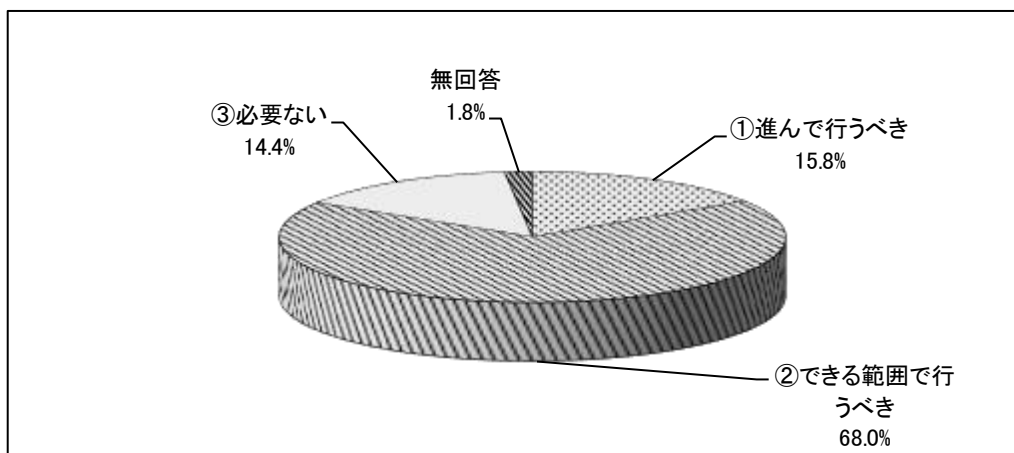


図 I-13 問5 回答結果

## 第8章 家庭ごみの有料化

問6 家庭ごみの有料化についてお聞きします。

### 8.1 家庭ごみの有料化についての考え

問6-1 家庭ごみの有料化について、どのように思われますか。(○は1つ)

「③どちらかといえば有料化に反対である」(38.3%)の回答割合が最も高く、次いで「④有料化すべきではない」(35.5%)、「②どちらかといえば有料化に賛成である」(12.8%)と続いている。

家庭ごみの有料化に肯定的な回答の「①有料化すべきである。」(2.1%)と「②どちらかといえば有料化に賛成である。」(12.8%)を合計すると14.9%で、否定的な回答の「③どちらかといえば有料化に反対である。」(38.3%)と「④有料化すべきではない。」(35.5%)を合計すると73.8%である。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「③どちらかといえば有料化に反対である」の回答割合が最も高いが、年代別では『①20歳代』と『④50歳代』で、世帯人数別では『②2人』で、「④有料化すべきではない」の回答割合が最も高い。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 I-19 と図 I-15 である。また、過去の調査結果と比べるとおおそ同じような傾向であるが、過去の調査と比べて、否定的な回答が増加傾向にある。

表 I-19 を肯定的な回答と否定的な回答で集約したのが表 I-20 である。過去の調査と比較すると否定的な回答割合が73.8%と最も高くなっている。

表 I-18 問6-1 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①有料化すべきである	19	2.1%
②どちらかといえば有料化に賛成である	116	12.8%
③どちらかといえば有料化に反対である	347	38.3%
④有料化すべきではない	322	35.5%
⑤よくわからない	86	9.5%
無回答	17	1.9%
合計	907	100.0%

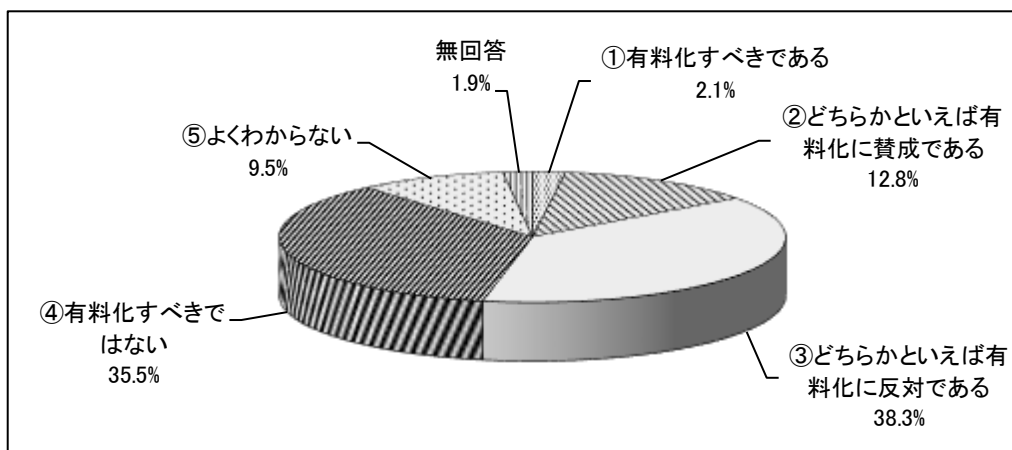


図 I-14 問 6-1 回答結果

表 I-19 過去調査との比較 (問 6-1)

選択肢	H20 年度	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①有料化すべきである	3.8%	3.4%	3.3%	2.1%
②どちらかといえば有料化に賛成である	17.1%	16.6%	15.6%	12.8%
③どちらかといえば有料化に反対である	32.8%	38.5%	38.5%	38.3%
④有料化すべきではない	27.5%	30.5%	34.1%	35.5%
⑤よくわからない	15.4%	9.5%	7.4%	9.5%
無回答	3.6%	1.5%	1.0%	1.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

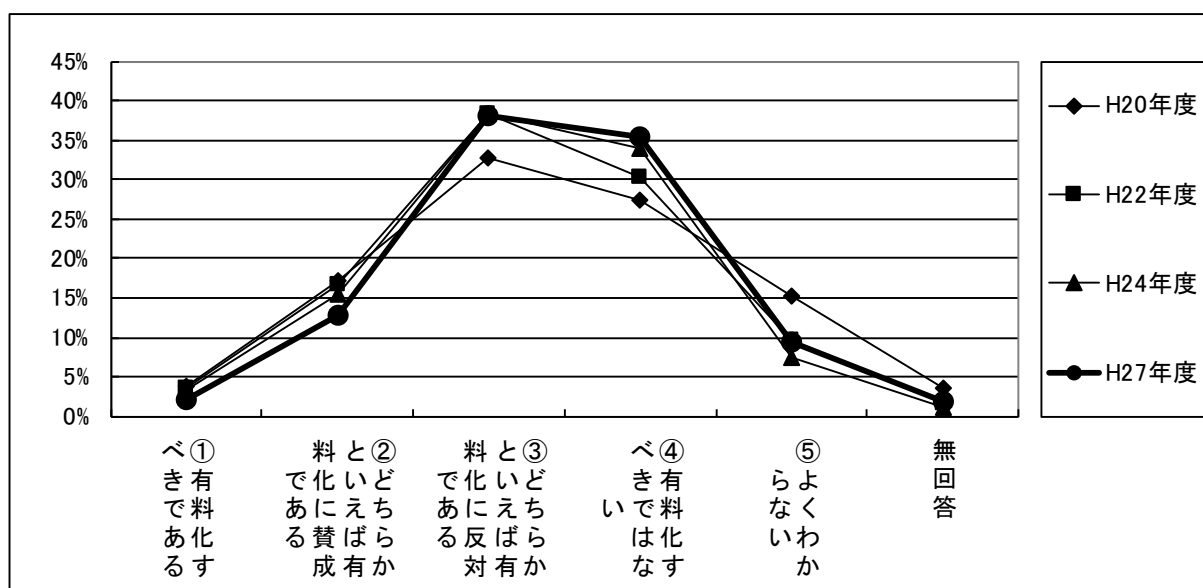


図 I-15 過去調査との比較 (問 6-1)

表 I-20 問 6-1 過去調査との比較 肯定的と否定的で集約 (問 6-1)

選択肢	H20 年度	H22 年度	H24 年度	H27 年度
肯定的(①と②合計)	20.9%	20.1%	18.9%	14.9%
否定的(③と④合計)	60.2%	68.9%	72.6%	73.8%
⑤よくわからない	15.4%	9.5%	7.4%	9.5%
無回答	3.6%	1.5%	1.0%	1.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



## 8.2 家庭ごみが有料化された場合に必要なこと

問 6-2 家庭ごみが有料になるとした場合、必要と思われることをお選びください。(〇はいくつでも)

「⑥不法投棄対策を強化する」(56.8%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「③負担が重くならないよう価格は低めにする」(52.8%)、「①資源は無料にする」(52.7%)と続いている。なお、「⑧その他」の具体的内容は「販売店の過剰包装をなくす」(3件)、「減免はしない」(2件)、「生ごみを肥料にできるようにする」(2件)、「袋の大きさを価格差をつける」(2件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

問 6-1 と問 6-2 でクロス集計をした結果が表 I-22 で、これを肯定的な回答と否定的な回答で集約したのが表 I-23 である。選択肢②③⑥⑧では否定的な回答よりも肯定的な回答の回答割合が高く、選択肢①④⑤⑦では肯定的な回答よりも否定的な回答の回答割合が高い。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 I-24 である。過去調査と比べるとおおよそ同じような傾向である。平成 24 年度調査と比べると、「⑤戸別収集などのサービスを同時に実施する」が 3.2%高くなり、「⑥不法投棄対策を強化する」が 4.8%低くなっている。

表 I-21 問 6-2 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①資源は無料にする	478	52.7%
②ごみ減量の効果を上げるためには、ある程度高めの料金を設定する	13	1.4%
③負担が重くならないよう価格は低めにする	479	52.8%
④社会的弱者への減免などを行う	244	26.9%
⑤戸別収集などのサービスを同時に実施する	128	14.1%
⑥不法投棄対策を強化する	515	56.8%
⑦よくわからない	49	5.4%
⑧その他	41	4.5%
回答数(n=)	907	

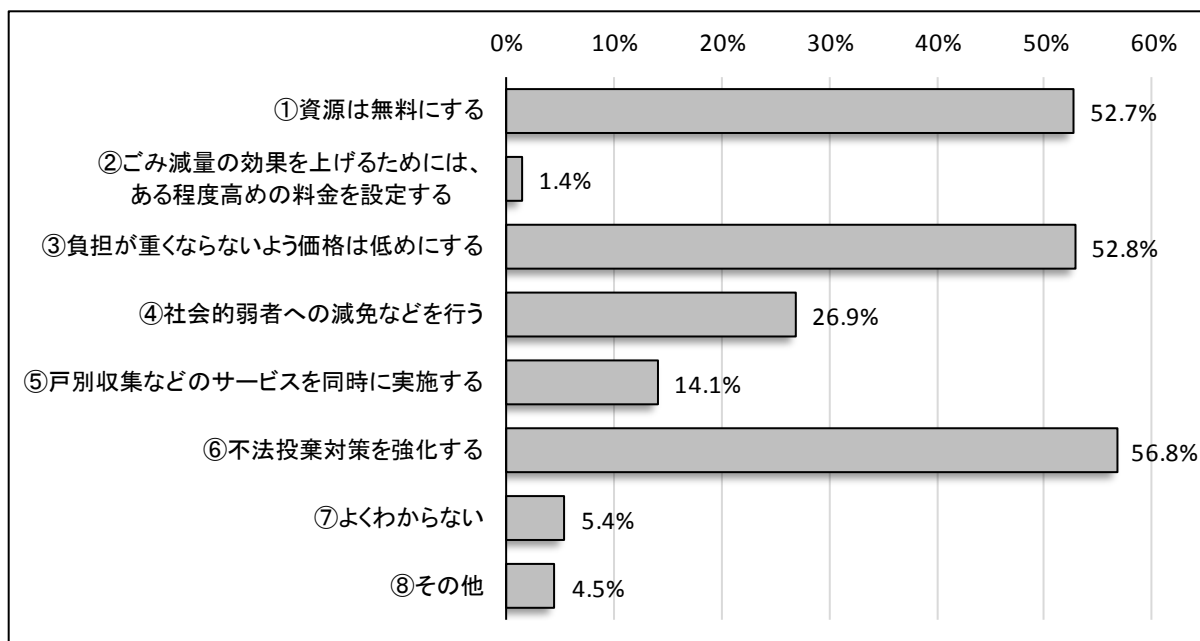


図 I-16 問 6-2 回答結果

表 I-22 問 6-1 と問 6-2 のクロス集計回答結果

選択肢	①資源は無料にする	②ごみ減量の効果を上げるためには、ある程度高めの料金を設定する	③負担が重くならないよう価格は低めにする	④社会的弱者への減免などを行う	⑤戸別収集などのサービスを同時に実施する	⑥不法投棄対策を強化する	⑦よくわからない	⑧その他	全体
①有料化すべきである。	9 47.4%	5 26.3%	10 52.6%	4 21.1%	3 15.8%	11 57.9%		2 10.5%	19 100.0%
②どちらかといえば有料化に賛成である。	63 54.3%	5 4.3%	64 55.2%	28 24.1%	16 13.8%	69 59.5%	1 0.9%	6 5.2%	116 100.0%
③どちらかといえば有料化に反対である。	191 55.0%		194 55.9%	98 28.2%	44 12.7%	198 57.1%	15 4.3%	12 3.5%	347 100.0%
④有料化すべきではない。	176 54.7%	1 0.3%	170 52.8%	93 28.9%	55 17.1%	188 58.4%	17 5.3%	17 5.3%	322 100.0%
⑤何とも言えない。わからない。	33 38.4%	2 2.3%	32 37.2%	18 20.9%	8 9.3%	40 46.5%	15 17.4%	1 1.2%	86 100.0%
無回答	6 35.3%		9 52.9%	3 17.6%	2 11.8%	9 52.9%	1 5.9%	3 17.6%	17 100.0%
合計	478 52.7%	13 1.4%	479 52.8%	244 26.9%	128 14.1%	515 56.8%	49 5.4%	41 4.5%	907 100.0%

表 I-23 問 6-1 と問 6-2 のクロス集計回答結果 肯定的と否定的で集計

集約した選択肢	①資源は無料にする	②ごみ減量の効果を上げるためには、ある程度高めの料金を設定する	③負担が重くならないよう価格は低めにする	④社会的弱者への減免などを行う	⑤戸別収集などのサービスを同時に実施する	⑥不法投棄対策を強化する	⑦よくわからない	⑧その他	全体
肯定的	72 53.3%	10 7.4%	74 54.8%	32 23.7%	19 14.1%	80 59.3%	1 0.7%	8 5.9%	135 100.0%
否定的	367 54.9%	1 0.1%	364 54.4%	191 28.6%	99 14.8%	386 57.7%	32 4.8%	29 4.3%	669 100.0%

表 I-24 過去調査との比較 (問 6-2)

選択肢(複数回答)	H20 年度	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①資源は無料にする	57.1%	53.0%	55.7%	52.7%
②ごみ減量の効果を上げるためには、ある程度高めの料金を設定する	3.0%	2.3%	2.2%	1.4%
③負担が重くならないよう価格は低めにする	54.9%	54.4%	53.6%	52.8%
④社会的弱者への減免などを行う	34.4%	28.4%	24.3%	26.9%
⑤戸別収集などのサービスを同時に実施する	13.3%	14.1%	10.9%	14.1%
⑥不法投棄対策を強化する	61.7%	58.6%	61.6%	56.8%
⑦よくわからない	4.2%	6.3%	5.4%	5.4%
⑧その他	6.8%	6.6%	8.0%	4.5%

## 第9章 ごみ減量やリサイクル

問7 ごみ減量やリサイクルについてお聞きします。

### 9.1 レジ袋・マイバック

問7-1 レジ袋・マイバックについてお聞きします。

#### (1) レジ袋の受取

問7-1(1) 買い物の際、レジ袋は受け取っていますか。(○は1つ)

「①ほとんど受け取らない」(52.7%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②ほとんど受け取っている」(39.0%)と続いている。なお、「③その他」の具体的内容は「有料の時は受け取らない」(17件)、「マイバックを持ってなかったとき」(11件)、「店によって」(9件)、「時と場合による」(6件)、「コンビニでは受け取るがスーパーはマイバック」(5件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「①ほとんど受け取らない」の回答割合が最も高いが、世帯人数別では『①1人』で、「②ほとんど受け取っている」の回答割合が最も高い。

表 I-25 問7-1(1) 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①ほとんど受け取らない	478	52.7%
②ほとんど受け取っている	354	39.0%
③その他	69	7.6%
無回答	6	0.7%
合計	907	100.0%

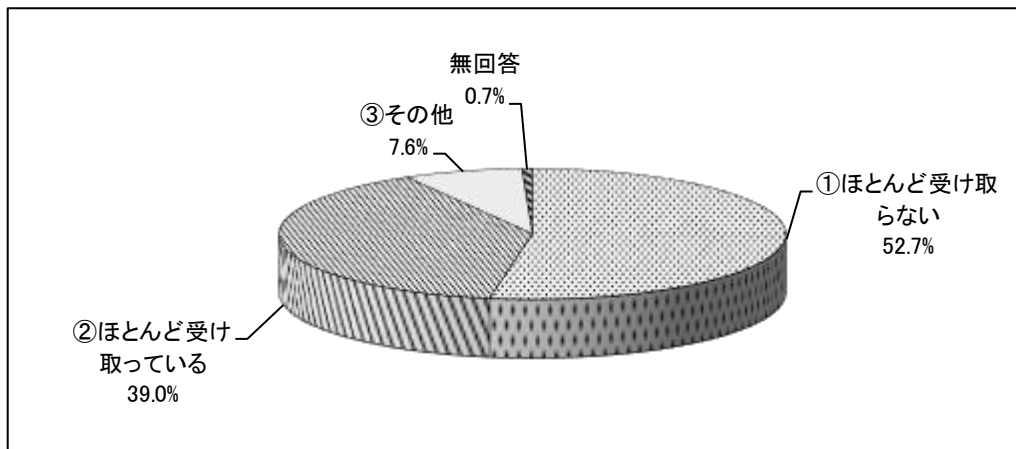


図 I-17 問7-1(1) 回答結果

## (2) マイバックの利用

問 7-1 (2) 買い物の際、マイバックは利用していますか。(○は1つ)

「①マイバッグを利用している」(66.9%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②マイバッグを利用していない」(28.2%)と続いている。なお、「③その他」の具体的内容は、「レジ袋を持参している」(12件)、「レジ袋が有料な場合に利用する」(7件)、「持っているときは使う」(4件)、「店による」(3件)、「お店によってマイバックを利用する」(2件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー! ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 I-26 問 7-1(2) 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①マイバッグを利用している	607	66.9%
②マイバッグを利用していない	256	28.2%
③その他	30	3.3%
無回答	14	1.5%
合計	907	100.0%

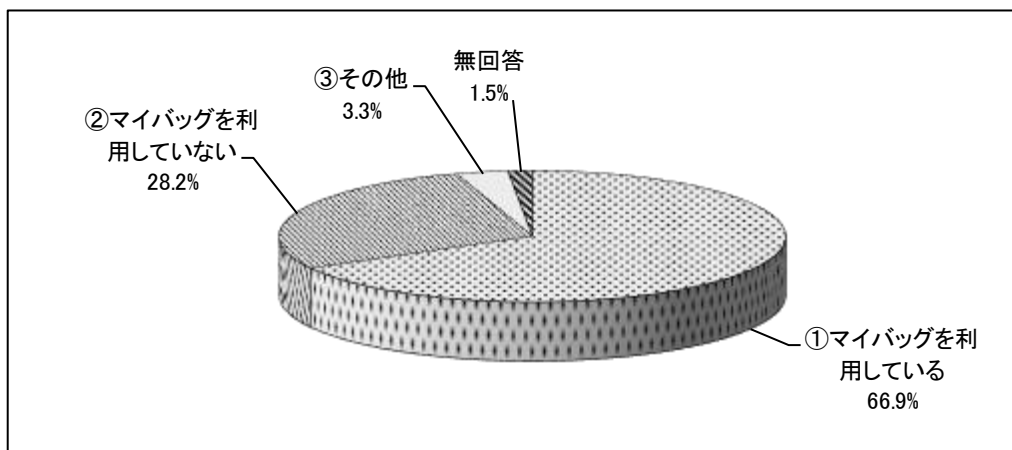


図 I-18 問 7-1(2) 回答結果

### (3) マイバックを利用しない理由

問 7-1 (3) 前問(2)で 2.に○をつけた方にお聞きします。

マイバックを利用しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

「①もらったレジ袋を、家庭内のごみ出し袋などに利用するから」(81.3%)の回答割合が最も高く大多数を占めており、次いで「④通勤・通学の帰りに店に寄るので、マイバックを持参できないから」(30.1%)、「②マイバックを持って行くのが面倒だから」(16.8%)と続いている。なお、「⑥その他」の具体的内容は「レジ袋を持参して利用しているので」(6件)、「レジ袋が必要なので」(3件)、「マイバックはエコではないから」(3件)、「持って行くのを忘れてしまう」(2件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー! ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 I-27 問 7-1(3) 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①もらったレジ袋を、家庭内のごみ出し袋などに利用するから	208	81.3%
②マイバックを持って行くのが面倒だから	43	16.8%
③マイバックを持って行っても、特にポイントなどの特典は付かないから	13	5.1%
④通勤・通学の帰りに店に寄るので、マイバックを持参できないから	77	30.1%
⑤何となく特に意識したことはない	28	10.9%
⑥その他	18	7.0%
回答数(n=)	256	

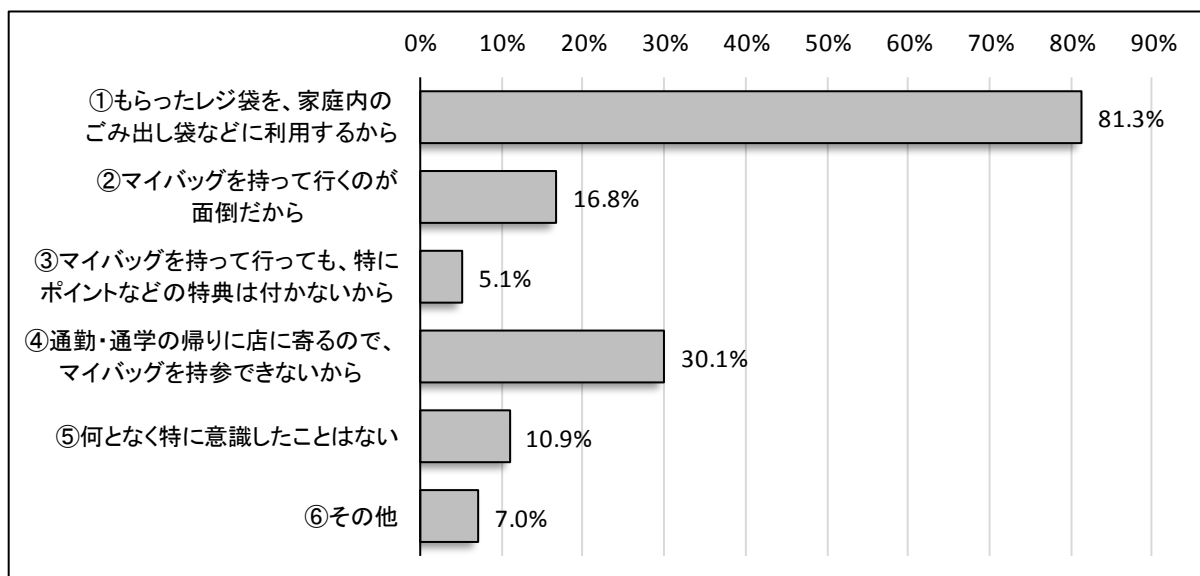


図 I-19 問 7-1(3) 回答結果

## 9.2 生ごみの処理

問 7-2 生ごみの処理についてお聞きます。

### (1) 生ごみを出さないための工夫

問 7-2 (1) ご家庭では、消費・賞味期限切れの食材、調理くずや食べ残しの生ごみを出さないための工夫をしていますか。(〇はいくつでも)

「①食材を買いすぎないようにする」(61.0%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②食材・食品の在庫に注意して、消費・賞味期限切れを出さないようにする」(55.9%)、「③食べきれ的分だけつくる」(39.9%)と続いている。なお、「⑥その他」の具体的内容は「賞味期限は気にしない」(5件)、「食べ残しをしない」(3件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「①食材を買いすぎないようにする」の回答割合が最も高いが、年代別では『⑤60歳代』以上で、住居形態別では『④店舗・事業所付き住宅』で、世帯人数別では『③3人』以上で、「②食材・食品の在庫に注意して、消費・賞味期限切れを出さないようにする」の回答割合が最も高い。

表 I-28 問 7-2(1) 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①食材を買いすぎないようにする	553	61.0%
②食材・食品の在庫に注意して、消費・賞味期限切れを出さないようにする	507	55.9%
③食べきれ的分だけつくる	362	39.9%
④根菜の葉も調理したり、皮を薄くむいたりなど、調理くずを減らすようにしている	157	17.3%
⑤余った食材を冷凍などして長持ちさせる	357	39.4%
⑥その他	17	1.9%
回答数(n=)	907	

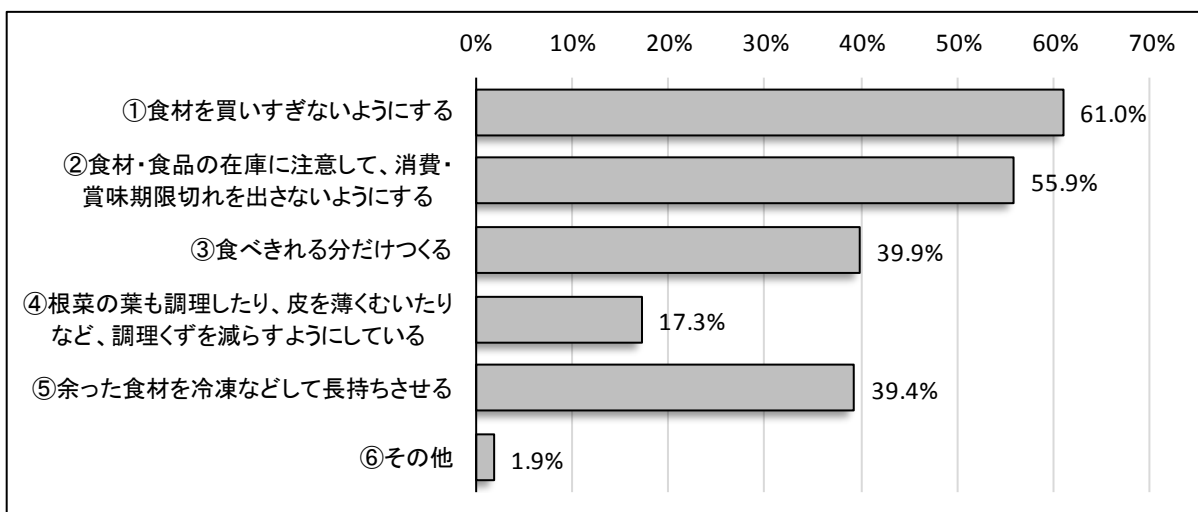


図 I-20 問 7-2(1) 回答結果

(2) 生ごみの水切りの有無

問 7-2 (2) 生ごみを出すとき、水切りをしていますか。(○は1つ)

「①している」(74.5%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②するときもある」(15.5%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 I-30 である。過去の調査結果と比べるとおおよそ同じような傾向である。平成 24 年度調査と比べると、「①している」が 3.3%低くなっている。

表 I-29 問 7-2(2) 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①している	676	74.5%
②するときもある	141	15.5%
③していない	83	9.2%
無回答	7	0.8%
合計	907	100.0%

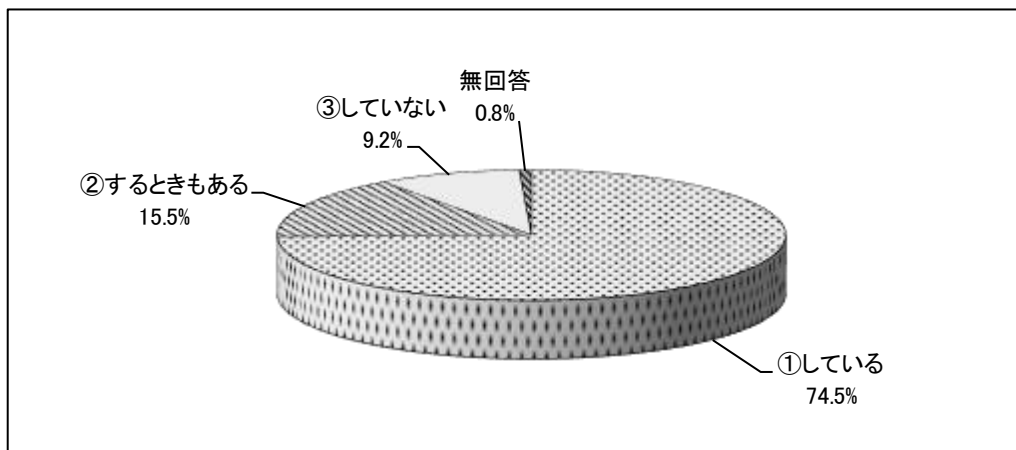


図 I-21 問 7-2(2) 回答結果

表 I-30 過去調査との比較 (問 7-2(2))

選択肢	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①している	76.4%	77.8%	74.5%
②するときもある	12.2%	14.0%	15.5%
③していない	4.9%	6.5%	9.2%
無回答	6.5%	1.6%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%



### (3) 生ごみの水切り方法

問 7-2 (3) 前問(2)で 1.か 2.に○をつけた方にお聞きします。生ごみの水切りはどのような方法でしていますか。(○はいくつでも)

「①三角コーナーを使用している」(67.2%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②しぼっている」(37.9%)、「④紙にくるんでいる」(26.9%)と続いている。なお、「⑤その他」の具体的内容は「ネットを使用」(8件)、「水につけない」(2件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー! ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 I-31 問 7-2(3) 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①三角コーナーを使用している	549	67.2%
②しぼっている	310	37.9%
③天日や風にさらして乾かしている	12	1.5%
④紙にくるんでいる	220	26.9%
⑤その他	21	2.6%
回答数(n=)	817	

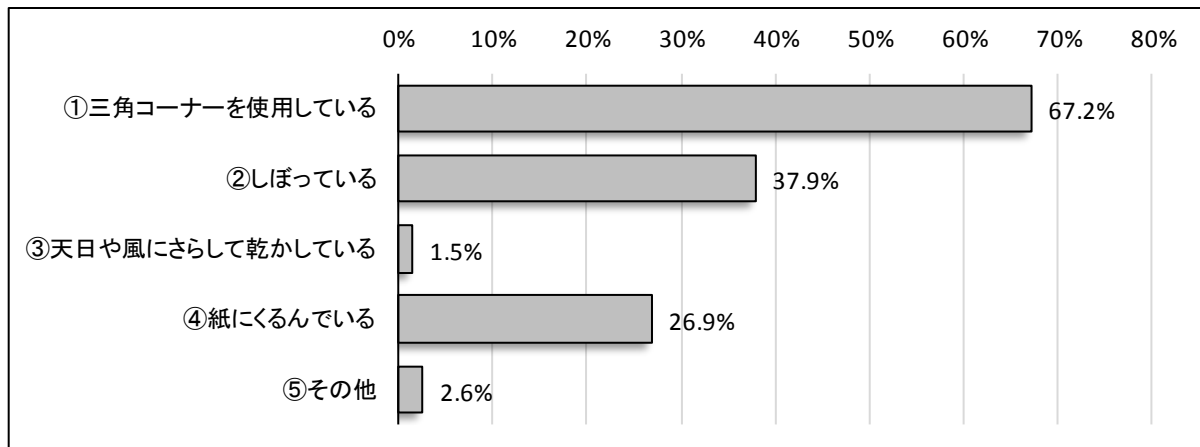


図 I-22 問 7-2(3) 回答結果

(4) 調理くずや生ごみの処理

問 7-2 (4) 調理くずや食べ残しの生ごみは、主にどのように処理していますか。(○は1つ)

「①可燃ごみに出している」(89.5%)の回答割合が最も高く大多数を占めており、次いで「⑤デスポーザーを使っている」(4.7%)、「⑥生ごみはほとんど出さない」(2.2%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー! ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 I-33 である。過去調査と比べるとおおよそ同じような傾向であり、「⑤デスポーザーを使っている」が徐々に高くなっている。平成 24 年度調査と比べると、「①可燃ごみに出している」が 3.2%低くなっている。

表 I-32 問 7-2(4) 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①可燃(燃やす)ごみに出している	812	89.5%
②庭などに埋めている	2	0.2%
③コンポスト容器(生ごみをたい肥化する容器)を使っている	6	0.7%
④生ごみ処理機(加熱やバクテリア等により、生ごみの容積を減少させる機器)を使っている	1	0.1%
⑤デスポーザーを使っている	43	4.7%
⑥生ごみはほとんど出さない	20	2.2%
⑦その他		
無回答	23	2.5%
合計	907	100.0%

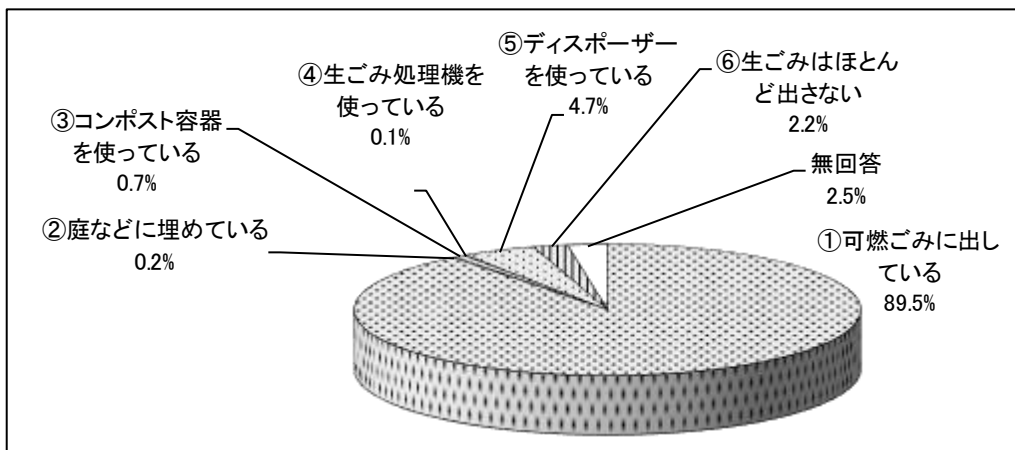


図 I-23 問 7-2(4) 回答結果

表 I-33 過去調査との比較（問 7-2(4)）

選択肢	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①可燃(燃やす)ごみに出している	87.1%	92.7%	89.5%
②庭などに埋めている	0.6%	0.3%	0.2%
③コンポスト容器(生ごみをたい肥化する容器)を使っている	0.3%	0.3%	0.7%
④生ごみ処理機(加熱やバクテリア等により、生ごみの容積を減少させる機器)を使っている	0.4%	0.0%	0.1%
⑤ディスポーザーを使っている	1.0%	2.1%	4.7%
⑥生ごみはほとんど出さない	2.5%	1.8%	2.2%
⑦その他	0.1%	0.9%	0.0%
無回答	8.0%	1.9%	2.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

(5) 生ごみ処理で使用したい方法

問 7-2 (5) 生ごみの処理で使用してみたい方法がありますか。以下からお選びください。(〇は  
いくつでも)

「⑤特にない」(56.8%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「③電気式の生ごみ処理機」(20.8%)、「②ベランダなどで段ボールや植木鉢を使った生ごみたい肥づくり」(9.9%)と続いている。なお、「④その他」の具体的内容は「ディスポーザー」(10件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー! ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 I-34 問 7-2(5) 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①庭でコンポスト容器を使った生ごみたい肥づくり	88	9.7%
②ベランダなどで段ボールや植木鉢を使った生ごみたい肥づくり	90	9.9%
③電気式の生ごみ処理機	189	20.8%
④その他	13	1.4%
⑤特にない	515	56.8%
回答数(n=)	907	

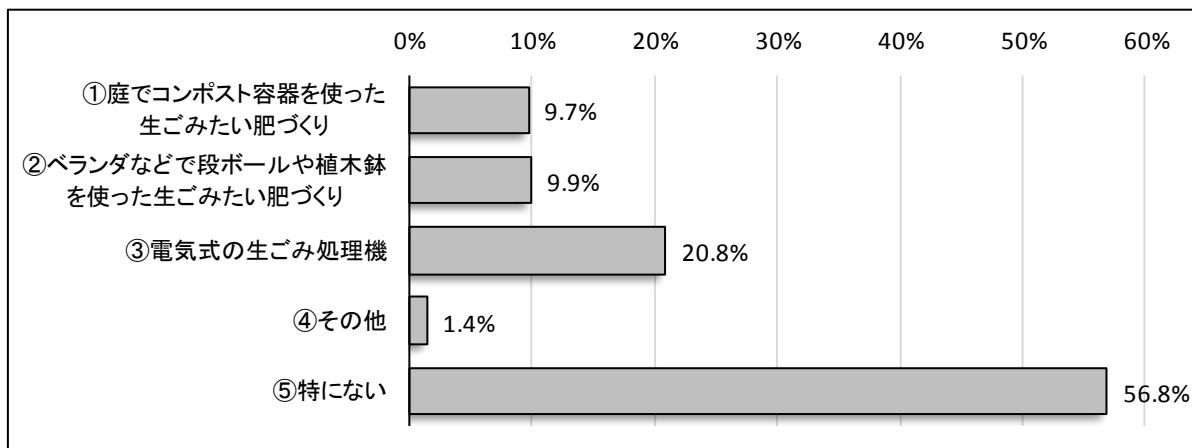


図 I-24 問 7-2(5) 回答結果

## 第10章 集団回収

問8 町会やPTA、集合住宅などが行っている資源の集団回収についてお聞きします。

### 10.1 集団回収への排出

問8-1 資源を集団回収に出していますか。(○は1つ)

「①出している」(41.7%)の回答割合が最も高く、次いで「②出していない」(39.7%)、「③分からない」(16.3%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、半数程度の属性で「①出している」の回答割合が最も高いが、年代別では『③40歳代』以下で、住居形態別では『①戸建て住宅』と『③ごみの保管場所のない集合住宅等』で、世帯人数別では『①1人』で、「②出していない」の回答割合が最も高い。

表 I-35 問8-1 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①出している	378	41.7%
②出していない	360	39.7%
③分からない	148	16.3%
無回答	21	2.3%
合計	907	100.0%

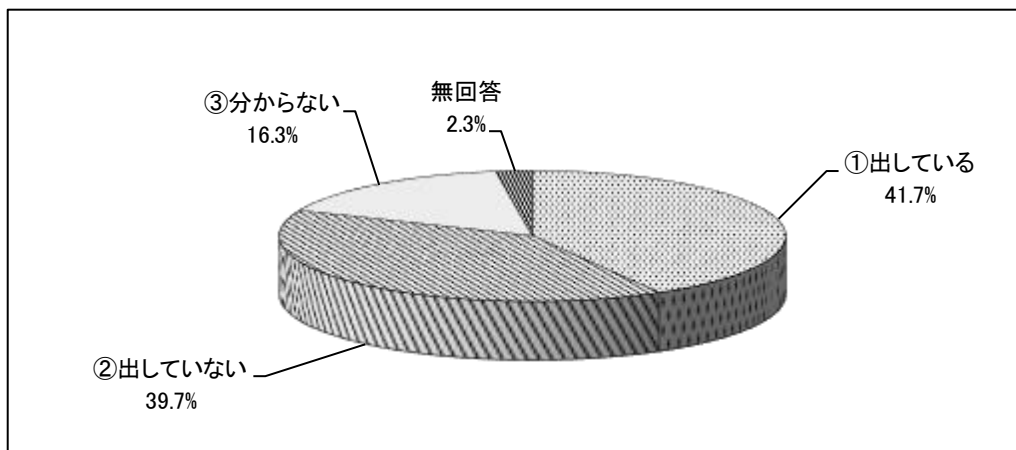


図 I-25 問8-1 回答結果

## 10.2 新たに回収してほしい品目

問8-2 前問8-1で1.に○をつけた方にお聞きします。集団回収で、新たに回収してほしい品目はありますか。(○はいくつでも)

「③なべ・やかん等の金属類」(41.0%)の回答割合が最も高く、次いで「①雑がみ」(34.1%)、「④ペットボトル」(28.0%)と続いている。なお、「⑤その他」の具体的内容は「食品トレイ」(4件)、「紙パック」(3件)、「びん」(3件)、「古布」(3件)、「古着」(3件)、「乾電池」(2件)、「段ボール」(2件)、「ペットボトルキャップ」(2件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「③なべ・やかん等の金属類」の回答割合が最も高いが、年代別の『②30歳代』では、「④ペットボトル」の回答割合が最も高く、世帯人数別の『③3人』と『⑤5人以上』では、「①雑がみ」の回答割合が最も高い。

表 I-36 問8-2 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①雑がみ	129	34.1%
②スチール缶	96	25.4%
③なべ・やかん等の金属類	155	41.0%
④ペットボトル	106	28.0%
⑤その他	35	9.3%
回答数(n=)	378	

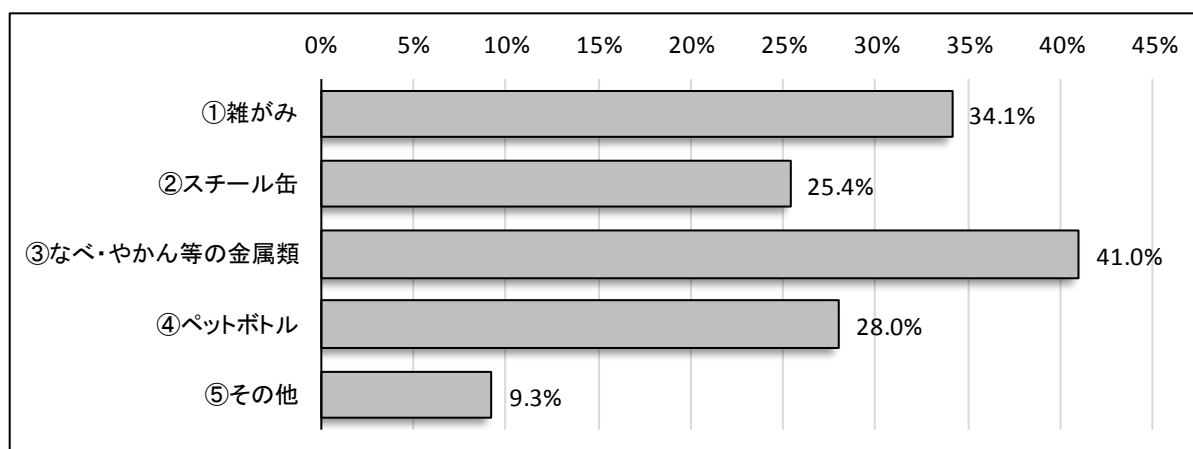


図 I-26 問8-2 回答結果

### 10.3 集団回収へ排出をしていない理由

問 8-3 前問 8-1 で 2、3 を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか。（〇はいくつでも）

「②地域で行われているかどうか、情報がないから」（54.1%）の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「③週 1 回の区の資源回収を利用するから」（43.9%）、「⑤出す場所がわからないから」（23.0%）と続いている。なお、「⑧その他」の具体的内容は「マンションの集積所に出している」（16 件）などである。

世帯属性とのクロス集計（P エラー! ブックマークが定義されていません。）では、ほとんどの属性で「②地域で行われているかどうか、情報がないから」の回答割合が最も高いが、年代別では『60 歳代』以上で、住居形態別では『①戸建て住宅』と『④店舗・事業所付き住宅』で、世帯人数別では『④ 4 人』以上で、「③週 1 回の区の資源回収を利用するから」の回答割合が最も高い。

表 I-37 問 8-3 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①地域で行われていないから	46	9.1%
②地域で行われているかどうか、情報がないから	275	54.1%
③週 1 回の区の資源回収を利用するから	223	43.9%
④集団回収の頻度が少ないから	23	4.5%
⑤出す場所がわからないから	117	23.0%
⑥出す曜日が区の行政回収と違うから	3	0.6%
⑦回収場所に持って行くのが面倒だから	53	10.4%
⑧その他	19	3.7%
回答数(n=)	508	

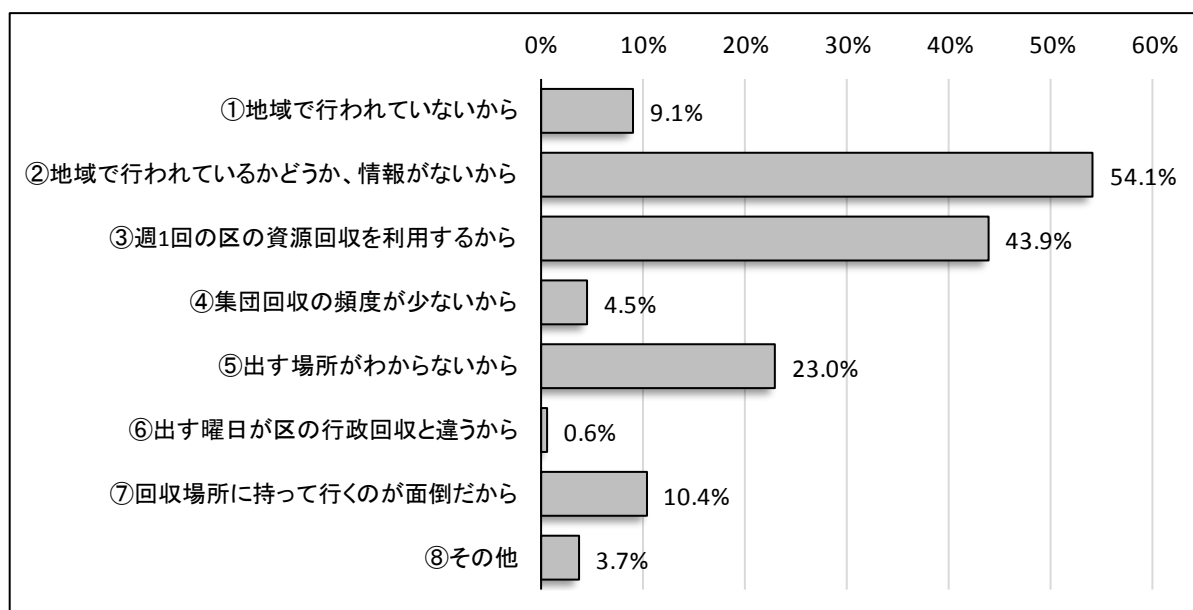


図 I-27 問 8-3 回答結果

## 第 11 章 ごみ減量リサイクルの区の取り組み

問 9 ごみ減量やリサイクルに関する区の取り組みについてお聞きします。

### 11.1 板橋区の施策で知っているもの

問 9-1 板橋区では、ごみの減量やリサイクルを促進するために様々なことを行っています。あなたの知っているものを以下からお選びください。(〇はいくつでも)

「⑨集団回収」(25.4%)の回答割合が最も高く、次いで「⑩拠点回収」(21.1%)、「⑦リサイクルプラザ」(17.8%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「⑩集団回収」の回答割合が最も高いが、年代別では『②30歳代』以下で、住居形態別では『③ごみの保管場所のない集合住宅等』で、世帯人数別では『①1人』で、「⑩拠点回収」の回答割合が最も高い。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 I-39 である。過去の調査と比べるとおおよそ同じような傾向であるが、平成 24 年度と比べて、「②ふれあい指導」、「⑨集団回収」以外は低くなっている。

表 I-38 問 9-1 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①いたばしエコ・ショップ	111	12.2%
②ふれあい指導	13	1.4%
③出前講座	12	1.3%
④グリーン購入	26	2.9%
⑤生ごみからたい肥づくり講習会	52	5.7%
⑥リサイクル推進員	23	2.5%
⑦リサイクルプラザ	161	17.8%
⑧ごみの収集日や粗大ごみ収集日などをEメールでお知らせするシステム	64	7.1%
⑨集団回収	230	25.4%
⑩拠点回収	191	21.1%
⑪地域コンポスト事業	22	2.4%
回答数(n=)	907	



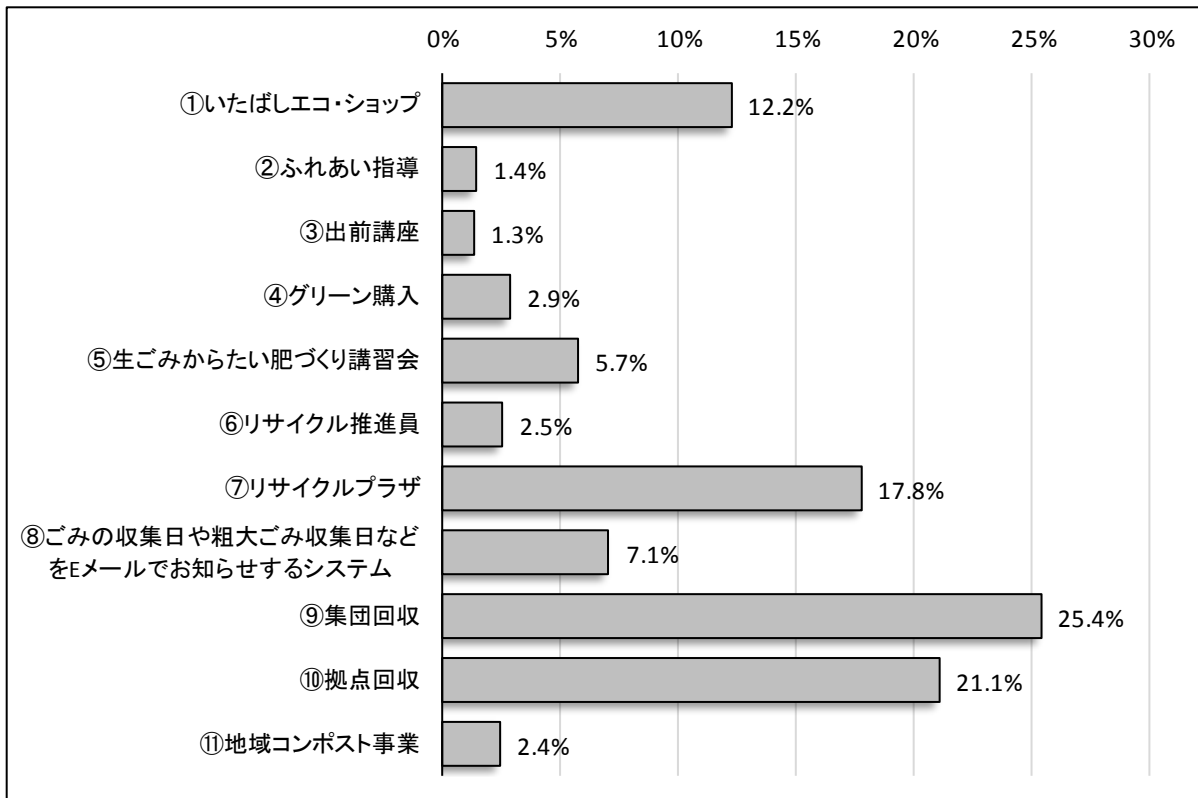


図 I-28 問 9-1 回答結果

表 I-39 過去調査との比較 (問 9-1)

選択肢(複数回答)	H20 年度	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①いたばしエコ・ショップ	16.6%	16.9%	17.7%	12.2%
②ふれあい指導	1.9%	1.6%	1.3%	1.4%
③出前講座	2.3%	1.3%	2.1%	1.3%
④グリーン購入	3.6%	5.2%	6.1%	2.9%
⑤生ごみからたい肥づくり講習会	-	7.0%	8.9%	5.7%
⑥リサイクル推進員	-	4.4%	6.0%	2.5%
⑦リサイクルプラザ	16.0%	12.4%	26.8%	17.8%
⑧ごみの収集日や粗大ごみ収集日などをEメールでお知らせするシステム	6.5%	6.3%	9.1%	7.1%
⑨集団回収	25.8%	26.4%	24.6%	25.4%
⑩拠点回収	-	19.2%	23.8%	21.1%
⑪地域コンポスト事業	-	-	2.7%	2.4%

「-」がある箇所は過去の調査では無かった設問

### 1 1.2 「板橋かたつむり運動」(かたつむりのおやくそく)

問 9-2 「板橋かたつむり運動」(かたつむりのおやくそく)をご存じですか。(○は1つ)

「③名称も内容も知らない」(73.3%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②名称は知っているが、内容は知らない」(15.8%)、「①名称も内容も知っている」(7.7%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

平成24年度と同じ質問と比較したのが表 I-41 である。平成24年度と比べて、「①名称も内容も知っている」が3.8%、「②名称は知っているが、内容は知らない」が8.1%高くなっている。

表 I-40 問 9-2 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①名称も内容も知っている	70	7.7%
②名称は知っているが、内容は知らない	143	15.8%
③名称も内容も知らない	665	73.3%
無回答	29	3.2%
合計	907	100.0%

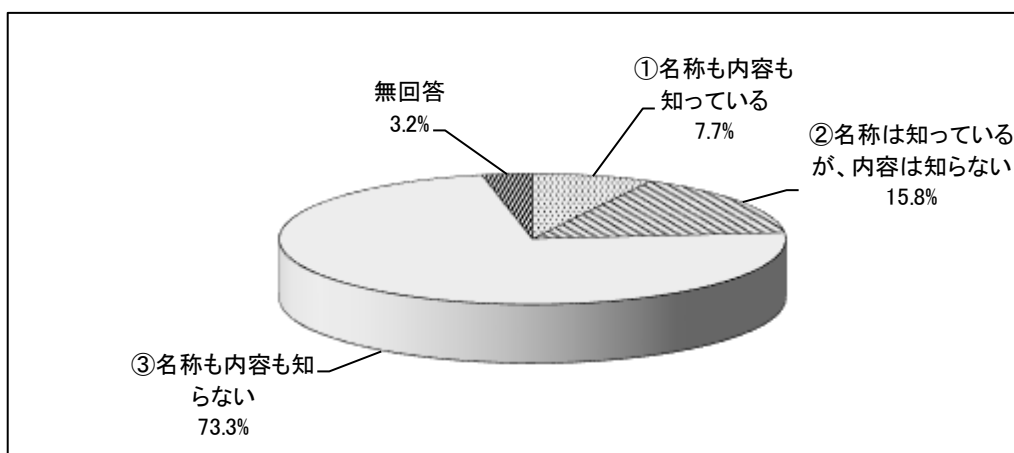


図 I-29 問 9-2 回答結果

表 I-41 過去調査との比較 (問 9-2)

選択肢	H24 年度	H27 年度
①名称も内容も知っている	3.9%	7.7%
②名称は知っているが、内容は知らない	7.7%	15.8%
③名称も内容も知らない	86.6%	73.3%
無回答	1.8%	3.2%
合計	100.0%	100.0%

### 1 1.3 ごみの分け方・出し方や減量に関する情報源

問9-3 あなたは、ごみの分け方・出し方や減量に関する情報を主にどこから得ていますか。  
(〇はいくつでも)

「③集積所の看板」(53.6%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「⑤広報いたばし」(28.8%)、「①冊子「かたつむりのおやくそくハンドブック」」(18.3%)と続いている。なお、「⑦その他」の具体的内容は「資源とごみの分け方・出し方」(16件)、「転入時に区からもらった資料」(8件)、「マンションの掲示板」(6件)、「回覧板」(2件)などである。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「③集積所の看板」の回答割合が最も高いが、年代別では『⑥70歳以上』で、住居形態別では『④店舗・事業所付き住宅』で、「⑤広報いたばし」の回答割合が最も高い。

表 I-42 問9-3 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①冊子「かたつむりのおやくそくハンドブック」	166	18.3%
②ごみ・資源の収集日や粗大ごみ収集日などを知らせるEメールサービス	22	2.4%
③集積所の看板	486	53.6%
④区のイベントやキャンペーン	20	2.2%
⑤広報いたばし(板橋区報)	261	28.8%
⑥区のホームページ	139	15.3%
⑦その他	49	5.4%
回答数(n=)	907	

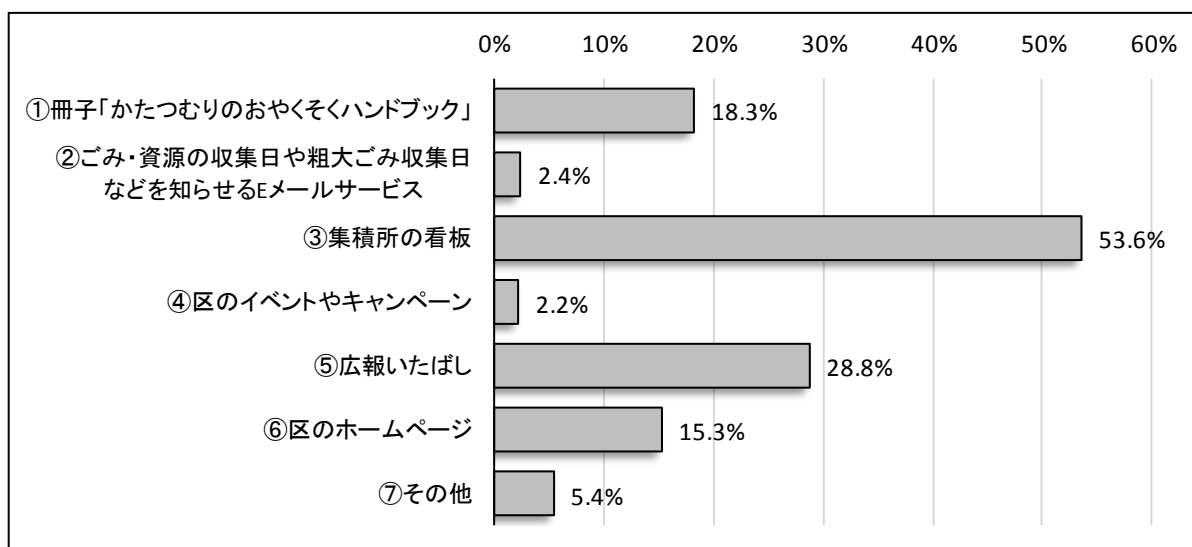


図 I-30 問9-3 回答結果

### 1 1.4 板橋区によるごみ減量に関する情報提供・PR活動

問9-4 あなたは、区によるごみ減量に関する情報提供・PR活動についてどう思われますか。  
(○は1つ)

「④情報量・内容ともに不十分である」(45.3%)の回答割合が最も高く、次いで「③内容は分かりやすいが、もっと情報量がほしい」(16.5%)、「②情報量は十分だが、内容を分かりやすくしてほしい」(16.4%)と続いている。

世帯属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「④情報量・内容ともに不十分である」の回答割合が最も高いが、年代別の『⑥70歳以上』では、「②情報量は十分だが、内容を分かりやすくしてほしい」の回答割合が最も高く、住居形態別の『④店舗・事業所付き住宅』では、「③内容は分かりやすいが、もっと情報量がほしい」の回答割合が最も高い。

表 I-43 問9-4 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①情報量・内容ともに十分である	115	12.7%
②情報量は十分だが、内容を分かりやすくしてほしい	149	16.4%
③内容は分かりやすいが、もっと情報量がほしい	150	16.5%
④情報量・内容ともに不十分である	411	45.3%
無回答	82	9.0%
合計	907	100.0%

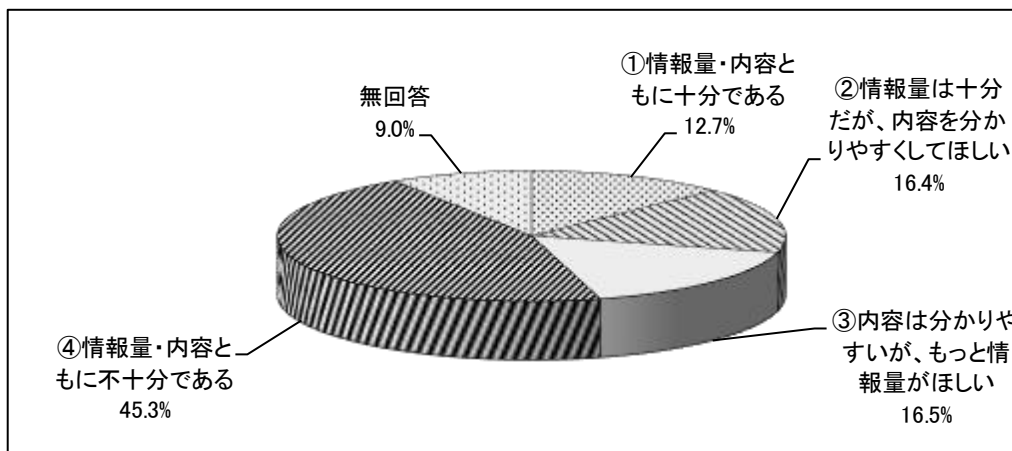


図 I-31 問9-4 回答結果

### 1 1.5 板橋区が取り組むべきこと

問 9-5 今後、ごみの減量やリサイクル、適正処理を一層進める上で、区はどのようなことに取り組むべきと思いますか。（〇は強く思われるものを3つまで）

「①ごみの分け方・出し方に関する情報提供・PRの充実」（47.7%）の回答割合が最も高く、次いで「⑨不法投棄対策の推進」（38.6%）、「⑬拠点回収場所の追加」（37.5%）と続いている。なお、「⑭その他」の具体的内容は「ボタン電池の回収」（2件）などである。

世帯属性とのクロス集計（Pエラー!ブックマークが定義されていません。）では特徴的な傾向はなかった。

表 I-44 問9-5 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①ごみの分け方・出し方に関する情報提供・PRの充実	433	47.7%
②ごみの3Rに関する情報提供・キャンペーンなどの展開	137	15.1%
③児童・生徒への環境教育の充実	156	17.2%
④成人を対象とした環境学習の充実	91	10.0%
⑤レジ袋や過剰包装の削減や店頭回収など販売店に対する働きかけ	217	23.9%
⑥製品のリサイクルなどに関するメーカー責任の強化など、国に対する法整備の要望	191	21.1%
⑦資源の持ち去り対策の徹底	135	14.9%
⑧正しい出し方をしていない人への指導の徹底	268	29.5%
⑨不法投棄対策の推進	350	38.6%
⑩集団回収に対する支援の充実	74	8.2%
⑪家庭での生ごみ減量対策	68	7.5%
⑫集積所での資源回収品目の追加	134	14.8%
⑬拠点回収場所の追加	340	37.5%
⑭その他	11	1.2%
回答数(n=)	907	

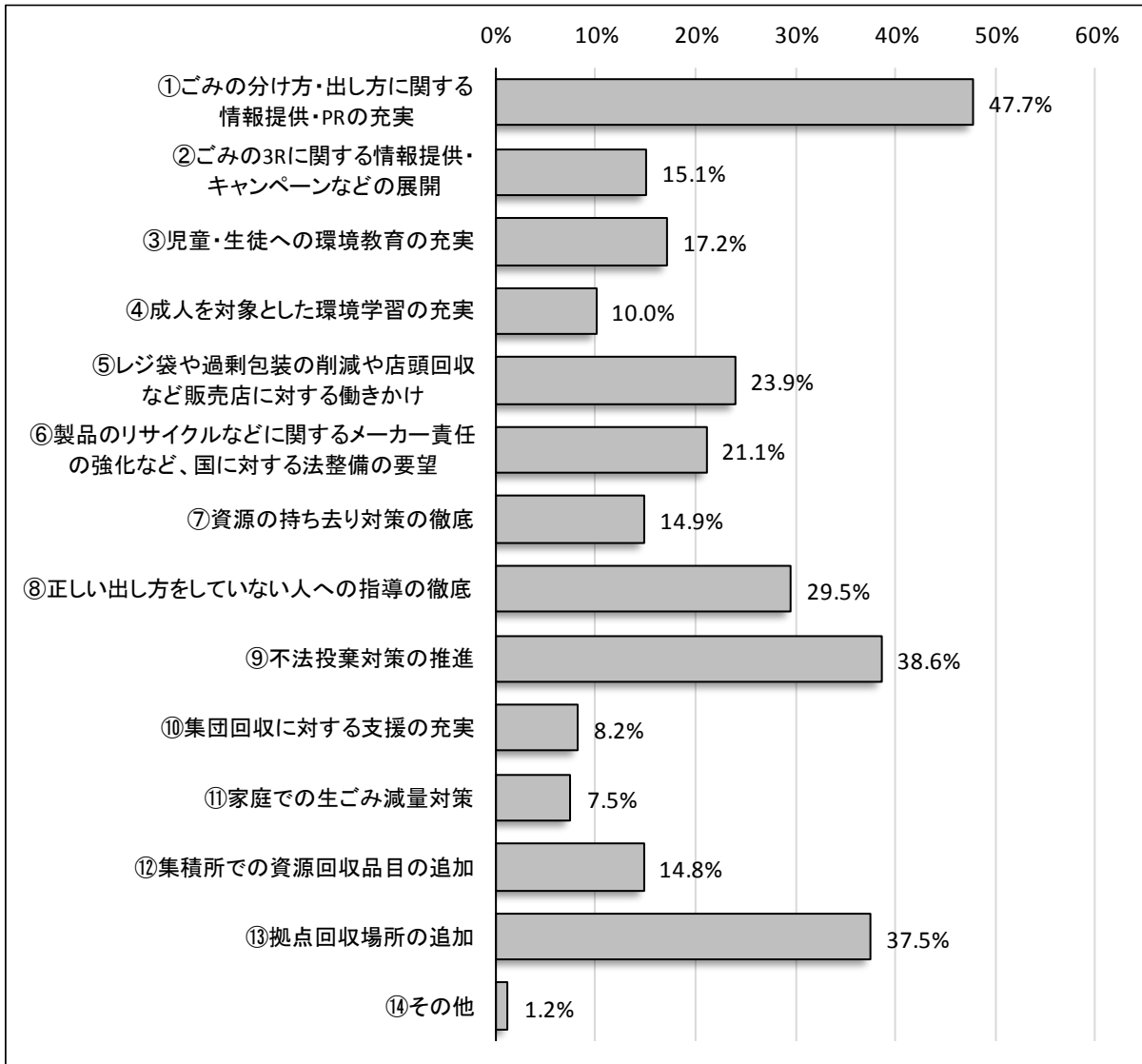


図 I-32 問9-5 回答結果

問 9-5 で「13.拠点回収場所の追加」を選択した場合は、回収場所を追加してほしい品目にも○をつけてください（複数可）

「使用済小型家電」（43.8%）の回答割合が最も高く、次いで「乾電池」（41.5%）、「古布・古着」（40.6%）と続いている。

世帯属性とのクロス集計（P エラー! ブックマークが定義されていません。）では、ほとんどの属性で「使用済小型家電」の回答割合が最も高いが、年代別の『③40 歳代』以下と、住居形態別の『③ごみの保管場所のない集合住宅等』と、世帯人数別の『① 1 人』では「乾電池」の回答割合が最も高い。

表 I-45 問 9-5 の回収場所を追加してほしい品目 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
紙パック	62	18.2%
乾電池	141	41.5%
食品用トレイ	73	21.5%
ボトル容器	33	9.7%
古布・古着	138	40.6%
廃食用油	83	24.4%
使用済小型家電	149	43.8%
回答数(n=)	340	

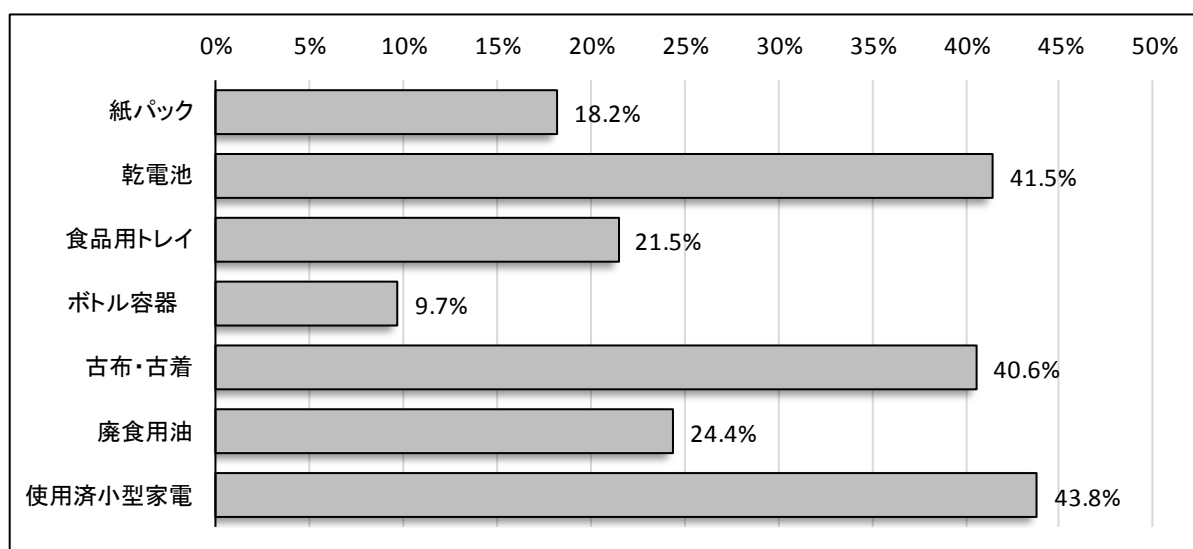


図 I-33 問 9-5 の回収場所を追加してほしい品目 回答結果





---

## II 事業所アンケート 編

---

## 第 1 章 調査概要

### 1.1 調査の目的

本調査は、板橋区の事業所を対象にアンケートを行い、資源やごみの処理・リサイクルの方法、ごみ問題に対する取り組み、板橋区が行うリサイクル施策等に対する考えを把握することにより、今後の板橋区のごみ処理やリサイクルに関する施策や、一般廃棄物処理基本計画、一般廃棄物処理実施計画及び分別収集計画のための基礎資料を得るものである。

### 1.2 調査方法

アンケートは、板橋区内の事業所を対象とした一般事業所 2,100 事業所と、事業所ごみ排出実態調査を実施した 120 事業所の合計 2,220 事業所を調査対象とし、調査票を郵送及び回収し、分析を行った。調査票は無記名回答とした。

一般事業所の調査対象の事業所は、板橋区の延床面積 3,000 m<sup>2</sup>以下の小規模事業所で、表 II-1 に示す業種別の 2,100 事業所とした。業種別の内訳件数は、「平成 24 年経済センサス」(総務省統計局)の板橋区における業種別の事業所比率から算出した。

表 II-1 一般事業所の業種別アンケート配布先

産業分類	事業所割合	送付数
建設業	8.7%	184
製造業	12.0%	252
情報通信業	1.2%	25
運輸業, 郵便業	4.4%	91
卸売業	6.6%	139
小売業	16.8%	353
金融業, 保険業	1.2%	24
不動産業, 物品賃貸業	8.4%	176
学術研究, 専門・技術サービス業	3.4%	72
飲食サービス業	13.5%	284
生活関連サービス業, 娯楽業	8.8%	185
教育, 学習支援業	2.7%	57
医療, 福祉	8.0%	167
サービス業(他に分類されないもの)	4.4%	91
合計	100.0%	2,100

### 1.3 調査期間

一般事業所の 2,100 事業所は、平成 27 年 10 月 16 日に調査票を発送した。事業所ごみ排出実態調査を実施した 120 事業所は、事業所ごみ排出実態調査終了後の平成 27 年 10 月 28 日に調査票を配布した。いずれも、平成 28 年 1 月 29 日到着分までを集計対象とした。

### 1.4 回収状況

表 II-2 にアンケートの回収状況を示す。一般事業所からは 838 件、事業所ごみ排出実態

調査を実施した世帯からは 65 件の合計 903 件を回収した。この内、延べ床面積 3,000 m<sup>2</sup>以上の事業所が 13 件、不十分な回答が 4 件あり、その合計 17 件を除いた 886 件を有効回答として集計の対象とした。

表 II-2 事業所アンケートの回収状況

	一般世帯	調査世帯	合計
①発送数	2,100 件	120 件	2,220 件
②宛先不明等	53 件		53 件
③母数 ①-②	2,047 件	120 件	2,167 件
④回収数	838 件	65 件	903 件
⑤回収率 ④÷③×100	40.9%	54.2%	41.7%
⑥有効回答数	822 件	64 件	886 件
⑦有効回答率 ⑥÷③×100	40.2%	53.3%	40.9%

## 1.5 調査内容

アンケートの質問項目を表 II-3 に示す。

表 II-3 事業所アンケートの質問項目

質問番号	質問項目
問1	回答事業所の属性 業種、建物の形態、従業者数、延べ床面積
問2	資源やごみの排出・処理状況
問 2-1	資源やごみの保管場所
問 2-2	資源やごみの出し方・処分方法
問3	区収集へ資源やごみを出している事業所
問 3-1	区収集に排出しているごみ量
問 3-2	事業系シールの貼付
問 3-3	事業系シールを貼付しない理由
問 3-4	民間委託収集に変える条件
問 3-5	「日量 50 kg未満」の基準を引き下げ
問4	板橋区オフィス・商店街リサイクルシステム
問 4-1	板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムの利便性
問 4-2	古紙以外に回収してほしい資源
問5	民間委託収集にごみを排出している事業者
問 5-1	民間委託収集に排出しているごみ量
問 5-2	民間委託収集に排出している理由
問6	ごみ減量やリサイクルの取り組み
問 6-1	ごみ減量・リサイクルの推進
問 6-2	ごみ減量・リサイクルを行う上での課題
問 6-3	ごみ情報の入手方法
問 6-4	板橋区に進めてほしい情報提供や PR 活動
問7	食品関連の事業所
問 7-1	食品廃棄物等多量発生事業者の該当
問 7-2	生ごみの排出量を抑えるための取り組み
問 7-3	生ごみの処理方法
問8	販売店での消費者向けの取り組み

## 1.6 本編の共通事項

### (1) 表や図の留意事項

- ①表やグラフ中の比率の合計値が、四捨五入の関係上、100%にならない場合がある。
- ②表中で値が0のところは空欄としている。
- ③アンケートの設問には単一回答と複数回答があり、複数回答の「全体」は回答対象の事業所数を示しており、各選択肢の回答数の合計とは同じにならない。

### (2) 業種の取り扱いについて

アンケートの業種分類の選択肢は平成24年度の事業所アンケートの業種分類を元にした。集計を行う際には、アンケート選択肢における業種分類を用いると、業種分類が細かいことにより特徴を把握しにくいので、集計には、集約した業態別分類を用いた。アンケート選択肢の業種分類と集計に用いた業態別分類の関係を表 II-4 に示す。

表 II-4 アンケート選択肢と集計に用いた業態別分類の関係

アンケート選択肢に用いた業種分類	集計に用いた業態別分類
①建設業	①建設業
②製造業	②製造業
③運輸・通信業	③運輸・通信業
④食料品卸売業	④卸売業
⑤その他卸売業	
⑥スーパーマーケット・生協・百貨店	⑤小売業
⑦コンビニエンスストア	
⑧食料品小売業	
⑨酒類小売業	
⑩その他小売業	
⑪ファミリーレストラン	⑥飲食店
⑫ファーストフード店	
⑬その他飲食サービス業	
⑭不動産業	⑧不動産業
⑮金融・保険業	⑦金融・保険業
⑯病院・医療機関	⑨サービス業・その他
⑰その他サービス業	
⑱その他	

### (3) 事業所属性ととのクロス集計のコメントについて

属性と問のクロス集計結果の特徴についてコメントを記述しているが、「無回答」や選択肢の「その他」のように属性に意味がない場合は評価対象から除いている。また、回答数が少ない選択肢については、的確な判断ができないため、詳細なコメントを記述していない。

## 第2章 調査結果の概要

---

### 2.1 資源やごみの排出・処理状況

#### (1) 資源やごみの保管場所

「自社だけの保管場所」の回答割合が最も高く 54.1%を占めている。

#### (2) 資源やごみの出し方・処分方法

半数以上の事業所が、可燃ごみ、不燃ごみ、資源を区の収集に出している。事業所属性別でも、可燃ごみ、不燃ごみ、資源の区収集への排出は全ての属性で回答割合が高い。区収集に出している回答割合が特に高いのは、業種別では『不動産業』、建物形態別では『住居と併用の事業所』である。従業者数別と延べ床面積別では、従業者数や延べ床面積が少なくなると区収集に出している回答割合も高くなる傾向がある。

### 2.2 区収集へ資源やごみを出している事業所

#### (1) 区収集に排出しているごみ量

一週間に区の収集に排出しているごみ量は、「5～10kg 未満」の回答割合が最も高く 23.9%を占めている。業種別では、『飲食店』が 28.3kg で最も多い。また、従業者数や延べ床面積が多くなれば重量も多くなる傾向がある。

#### (2) 事業系シールの貼付

「事業系シールを貼って排出している」の回答割合が最も高く過半数の 75.9%を占めているが、「事業系シールを貼らずに排出している」の回答も 20.9%と五分の一を占めている。事業所属性別でも、「事業系シールを貼って排出している」は全ての属性で最も回答割合が高い。「事業系シールを貼らずに排出している」で、特に回答割合が高いのは、業種別では『金融・保険業』、建物形態別では『住居と併用の事業所』、従業者数別では『5人未満』、延べ床面積別では『100㎡未満』である。平成24年度調査と比べて、「事業系シールを貼らずに排出している」が 7.2%高くなっている。

#### (3) 事業系シールを貼付しない理由

「ごみが少量だから」の回答割合が最も高く過半数の 55.8%を占めている。事業所属性別でも、ほとんどの属性で「ごみが少量だから」の回答割合が最も高いが、業種別の『小売業』と『金融・保険業』では、「家庭から出るごみと一緒に出しているから」の回答割合が最も高い。平成24年度調査と比べて、「ごみが少量だから」が 8.9%高くなっている。

#### (4) 民間委託収集に変える条件

「区の収集より安い料金設定」の回答割合が最も高く過半数の 60.5%を占めている。

(5) 「日量 50 kg未満」の基準を引き下げ

「わからない」の回答割合が最も高く 43.8%を占めている。事業所属性別でも、ほとんどの属性で「わからない」の回答割合が最も高いが、業種別では『不動産業』で、従業員数別では『30人以上』で、「基準の引き下げもやむを得ない」の回答割合が最も高い。平成 24 年度調査と比べて、「基準の引き下げは反対である」が 3.0%低くなっている。

## 2.3 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステム

(1) 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムの利便性

「特になし」の回答割合が最も高く過半数の 54.0%を占めている。

(2) 古紙以外に回収してほしい資源

「特になし」の回答割合が最も高く過半数の 65.1%を占めている。

## 2.4 民間委託収集にごみを排出している事業者

(1) 民間委託収集に排出しているごみ量

「100kg～」の回答割合が最も高く 16.6%を占めている。業種別の『小売業』が 330.8kg で最も多い。また、従業員数や延べ床面積が多くなれば重量も多くなる傾向がある。

(2) 民間委託収集に排出している理由

「その他」の回答割合が最も高く 30.1%を占めている。

## 2.5 ごみ減量やリサイクルの取り組み

(1) ごみ減量・リサイクルの推進

今よりもっと減量やリサイクルができるかについては、「何とも言えない。分からない」の回答割合が最も高く 44.1%を占めている。事業所属性別でも、ほとんどの属性で「何とも言えない。分からない」の回答割合が最も高いが、業種別の『運輸・通信業』で、「できると思う」の回答割合が最も高い。過去調査と比べると、「できると思う」が減少傾向であり、「何とも言えない。分からない」が増加傾向である。

(2) ごみ減量・リサイクルを行う上での課題

「特になし」の回答割合が最も高く 34.7%を占めている。平成 24 年度調査と比べると、「資源を分別するのに手間がかかる」が 9.5%、「従業員の教育が徹底しない」が 10.0%低くなっている。

(3) ごみ情報の入手方法

「集積所の掲示」の回答割合が最も高く 33.6%を占めている。事業所属性別でも、ほとんどの属性で「集積所の掲示」の回答割合が最も高いが、業種別では『金融・保険業』、『不動産業』、『サービス業・その他』で、従業員数別では『10～29人』以上で、延べ床面積別

では『300～1,000 m<sup>2</sup>未満』以上で、「区のホームページ」の回答が最も高い。

#### (4) 板橋区に進めてほしい情報提供やPR活動

「特にほしい情報は無い」の回答割合が最も高く 33.4%を占めている。事業所属性別でも、ほとんどの属性で「特にほしい情報は無い」の回答割合が最も高いが、業種別では『金融・保険業』と『不動産業』で、建物形態別では『共同ビル』で、従業者数別では『10～29人』以上で、延べ床面積別では『1,000～3,000 m<sup>2</sup>未満』で、「事業系ごみの正しい分け方や適正処理の方法、法制度に関する情報」の回答割合が最も高い。

## 2.6 食品関連の事業所

### (1) 食品廃棄物等多量発生事業者の該当

「該当しない」の回答割合が最も高く大多数の 80.5%を占めている。

### (2) 生ごみの排出量を抑えるための取り組み

「特に行っている取り組みはない」の回答割合が最も高く 23.4%を占めている。

### (3) 生ごみの処理方法

「他のごみと一緒に区の可燃ごみ収集に出す」の回答割合が最も高く過半数の 52.7%を占めている。

## 2.7 販売店での消費者向けの取り組み

環境問題に貢献するために、消費者に対してどのような取り組みを行っているかについては、「食品トレイの削減など簡易包装の推進」、「買い物袋持参の奨励（レジ袋の削減）」、「レジ袋が必要かどうかの確認」の設問は、「行っている」が最も回答率が高い。「使い捨て容器や製品の販売の自粛、リターナブル容器等の積極的な取り扱い」、「ペットボトルや食品トレイの消費者からの回収」、「再生紙や再生ポリエステル衣料など、再生品を用いた商品の積極的な販売」、「エコマーク製品等、環境にやさしい商品の積極的な販売」、「電気製品などの修理サービスの充実」の設問は「行っていない」が最も回答率が高い。

上記以外に独自で行っている取り組みの主な内容では、「リサイクル インクカードリッジの回収」、「蛍光管の回収」、「電池の回収」、「人や環境に優しい洗剤の輸入、販売」、「梱包用紙の再利用」の記入があった。

### 第3章 回答事業所の属性

問1 貴事業所の概要についてお聞きします。

#### 3.1 業種

回答の集計結果は表 II-5 のとおりで、これを業態別に集計したのが表 II-6 である。業態別では、「⑨サービス業・その他」(36.1%)の回答割合が最も高く、次いで「②製造業」(17.2%)、「⑤小売業」(10.4%)と続いている。

表 II-5 問1-1 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①建設業	84	9.5%
②製造業	152	17.2%
③運輸・通信業	28	3.2%
④食料品卸売業	16	1.8%
⑤その他卸売業	60	6.8%
⑥スーパーマーケット・生協・百貨店	3	0.3%
⑦コンビニエンスストア		
⑧食料品小売業	16	1.8%
⑨酒類小売業	5	0.6%
⑩その他小売業	68	7.7%
⑪ファミリーレストラン	6	0.7%
⑫ファーストフード店	2	0.2%
⑬その他飲食サービス業	49	5.5%
⑭不動産業	59	6.7%
⑮金融・保険業	12	1.4%
⑯病院・医療機関	95	10.7%
⑰その他サービス業	220	24.8%
⑱その他	5	0.6%
無回答	6	0.7%
合計	886	100.0%



表 II-6 問 1-1 回答結果（業態別）

選択肢	回答数	回答割合
①建設業	84	9.5%
②製造業	152	17.2%
③運輸・通信業	28	3.2%
④卸売業	76	8.6%
⑤小売業	92	10.4%
⑥飲食店	57	6.4%
⑦金融・保険業	12	1.4%
⑧不動産業	59	6.7%
⑨サービス業・その他	320	36.1%
無回答	6	0.7%
合 計	886	100.0%

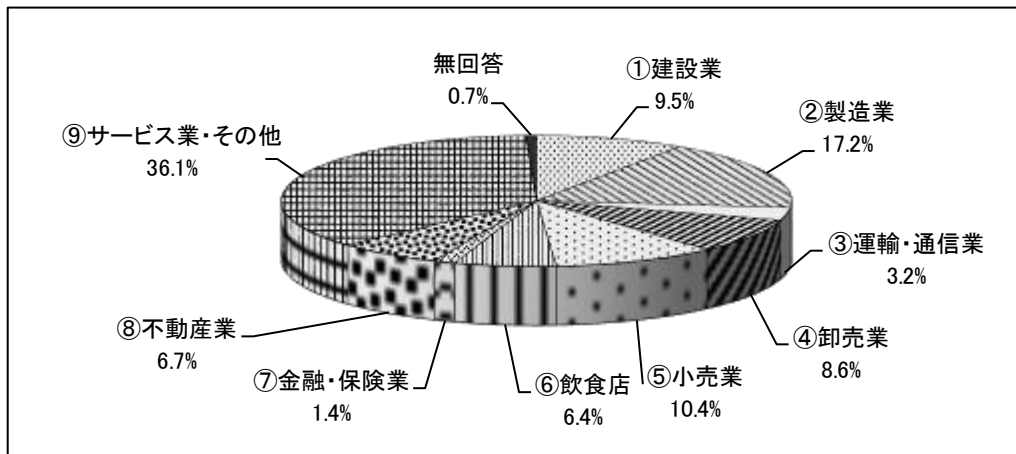


図 II-1 問 1-1 回答結果（集計用）

### 3.2 建物の形態

「④住居と併用の事業所」(29.0%)の回答割合が最も高く、次いで「①1社占有使用の建物」(27.7%)、「③集合住宅(マンション)にテナントとして入居」(27.3%)と続いている。

表 II-7 問 1-2 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①1社占有使用の建物	245	27.7%
②共同ビル	115	13.0%
③集合住宅(マンション)にテナントとして入居	242	27.3%
④住居と併用の事業所	257	29.0%
⑤その他	17	1.9%
無回答	10	1.1%
合計	886	100.0%

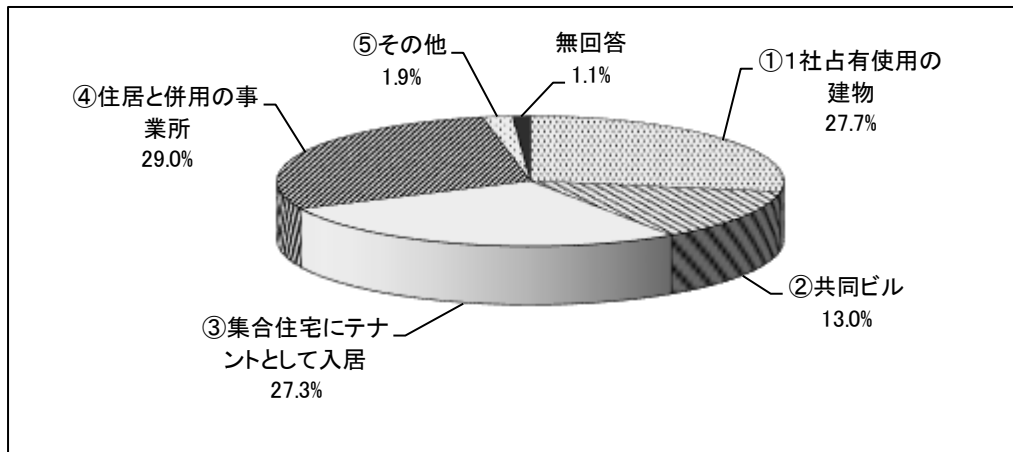


図 II-2 問 1-2 回答結果

### 3.3 従業者数

「①5人未満」(56.1%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②5～9人」(20.3%)、「③10～29人」(18.2%)と続いている。

表 II-8 問 1-3 回答結果

集計	回答数	回答割合
①5人未満	497	56.1%
②5～9人	180	20.3%
③10～29人	161	18.2%
④30人以上	39	4.4%
無回答	9	1.0%
合計	886	100.0%

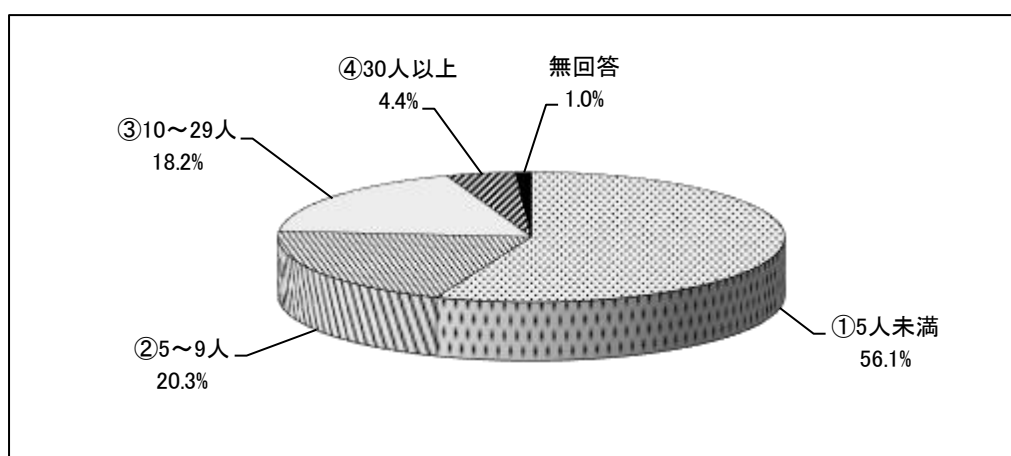


図 II-3 問 1-3 回答結果

### 3.4 延べ床面積

「⑤3,000 m<sup>2</sup>以上」という回答が13件あったが今回の調査対象は延床面積3,000 m<sup>2</sup>以下の小規模事業所なので集計から除外した。

「①100 m<sup>2</sup>未満」(54.4%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②100～300 m<sup>2</sup>未満」(24.9%)、「③300～1,000 m<sup>2</sup>未満」(13.3%)と続いている。

表 II-9 問1-4 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①100 m <sup>2</sup> 未満	482	54.4%
②100～300 m <sup>2</sup> 未満	221	24.9%
③300～1,000 m <sup>2</sup> 未満	118	13.3%
④1,000～3,000 m <sup>2</sup> 未満	38	4.3%
⑤3,000 m <sup>2</sup> 以上		
無回答	27	3.0%
合計	886	100.0%

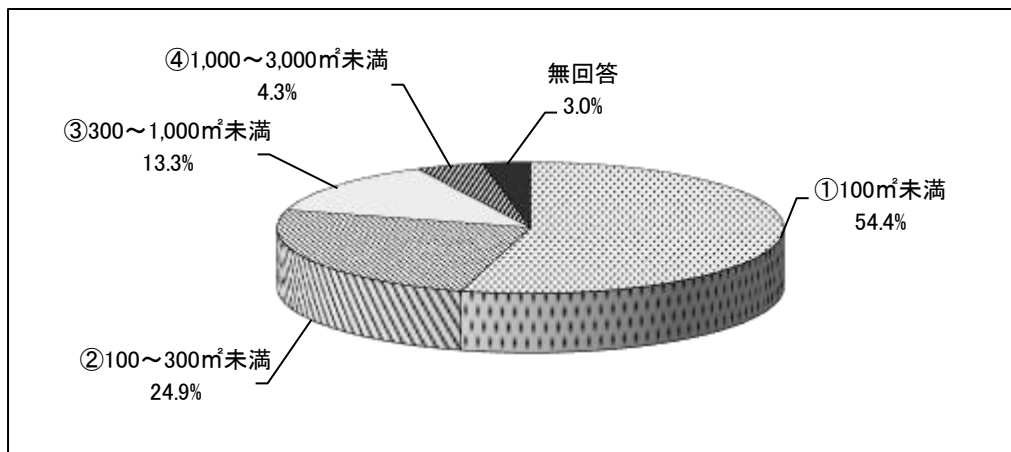


図 II-4 問1-4 回答結果

## 第4章 資源やごみの排出・処理状況

### 4.1 資源やごみの保管場所

問2 貴事業所での資源やごみの排出・処理状況等についてお聞きます。

問2-1 貴事業所の資源やごみの保管場所はどのようになっていますか。(〇は1つ)

「①自社だけの保管場所」(54.1%)の回答割合が最も高く、次いで「③住居の保管場所と同じ場所」(23.5%)、「④保管場所は特にない」(12.4%)と続いている。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 II-11 である。過去調査と比べるとおおよそ同じような傾向である。

表 II-10 問 2-1 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①自社だけの保管場所	479	54.1%
②他社と共同の保管場所	60	6.8%
③住居の保管場所と同じ場所	208	23.5%
④保管場所は特にない	110	12.4%
⑤その他	2	0.2%
無回答	27	3.0%
合計	886	100.0%

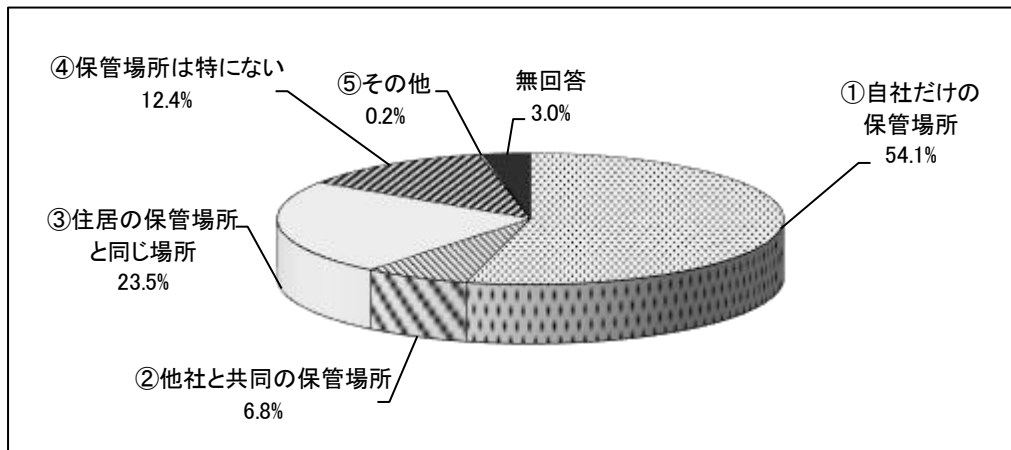


図 II-5 問 2-1 回答結果

表 II-11 過去調査との比較(問 2-1)

選択肢	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①自社だけの保管場所	47.8%	54.3%	54.1%
②他社と共同の保管場所	8.8%	7.4%	6.8%
③住居の保管場所と同じ場所	28.9%	23.7%	23.5%
④保管場所は特にない	10.7%	10.5%	12.4%
⑤その他	0.9%	3.1%	0.2%
無回答	3.0%	1.0%	3.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

## 4.2 資源やごみの出し方・処分方法

問 2-2 次の(1)～(9)の資源やごみの出し方・処理方法別に該当するものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

半数以上の事業所が、可燃ごみ、不燃ごみ、資源を区の収集に出している。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)でも、可燃ごみ、不燃ごみ、資源の区収集への排出は全ての属性で回答割合が高い。区収集に出している回答割合が特に高いのは、業種別では『⑧不動産業』、建物形態別では『④住居と併用の事業所』である。従業者数別と延べ床面積別では、従業者数や延べ床面積が少なくなると区収集に出している回答割合も高くなる傾向がある。

平成 24 年度調査の同じ質問の結果はの表 II-14 とおりである。

表 II-12 問 2-2 回答結果 (件数)

設問	選択肢			合計
	①あり	②なし	無回答	
(1)区の可燃ごみ収集に出している	686	149	51	886
(2)区の不燃ごみ収集に出している	561	234	91	886
(3)区の資源収集に出している	545	242	99	886
(4)板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムに出している	63	601	222	886
(5)民間のリサイクル業者に引渡している	181	490	215	886
(6)自社で廃棄物処理業者に委託処理している	301	415	170	886
(7)建物の管理会社が廃棄物処理業者に委託処理している	27	613	246	886
(8)自ら清掃工場に持ち込んでいる	37	626	223	886
(9)自らの施設で処理している	16	641	229	886

表 II-13 問 2-2 回答結果 (割合)

設問	選択肢			合計
	①あり	②なし	無回答	
(1)区の可燃ごみ収集に出している	77.4%	16.8%	5.8%	100.0%
(2)区の不燃ごみ収集に出している	63.3%	26.4%	10.3%	100.0%
(3)区の資源収集に出している	61.5%	27.3%	11.2%	100.0%
(4)板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムに出している	7.1%	67.8%	25.1%	100.0%
(5)民間のリサイクル業者に引渡している	20.4%	55.3%	24.3%	100.0%
(6)自社で廃棄物処理業者に委託処理している	34.0%	46.8%	19.2%	100.0%
(7)建物の管理会社が廃棄物処理業者に委託処理している	3.0%	69.2%	27.8%	100.0%
(8)自ら清掃工場に持ち込んでいる	4.2%	70.7%	25.2%	100.0%
(9)自らの施設で処理している	1.8%	72.3%	25.8%	100.0%

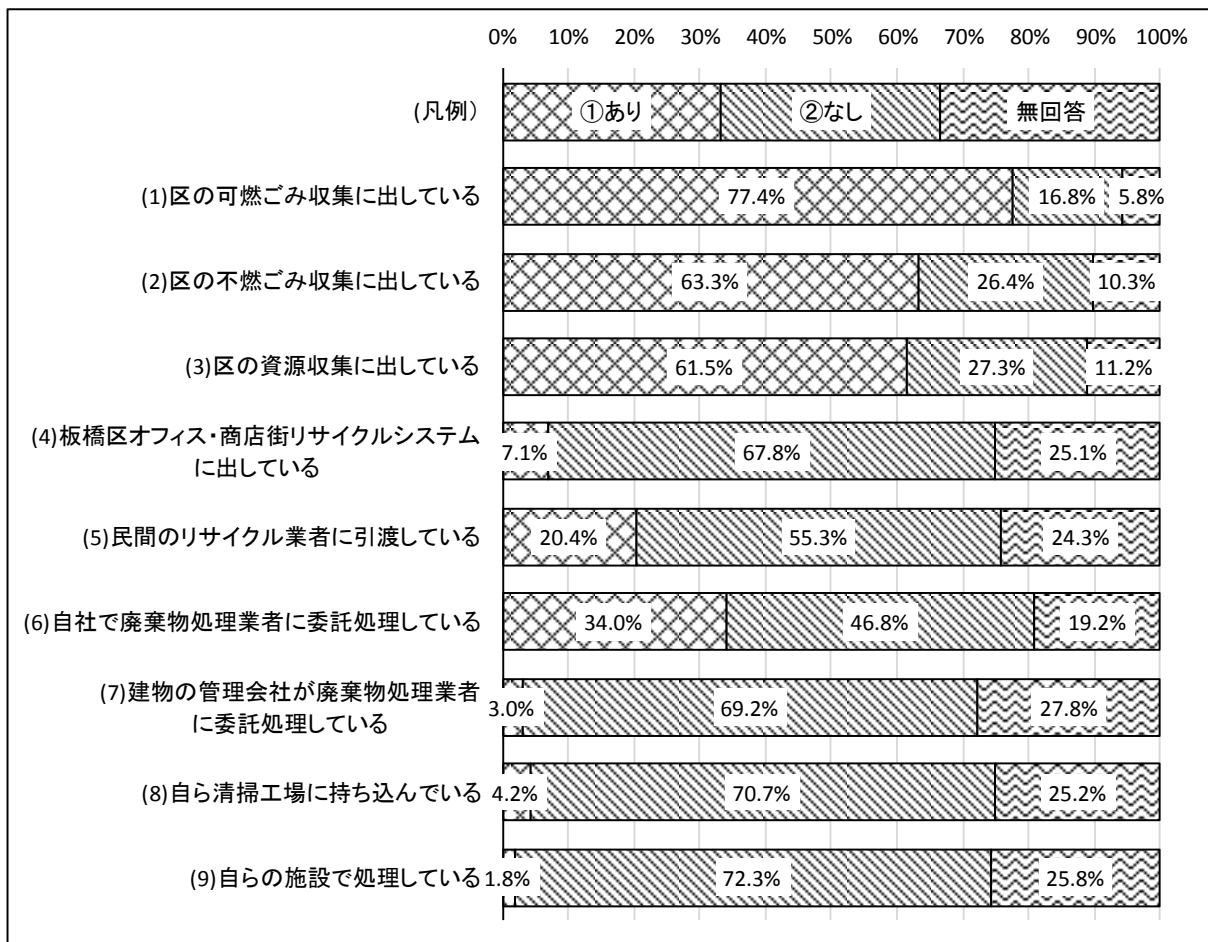


図 II-6 問 2-2 回答結果

表 II-14 平成 24 年度調査結果 (問 2-2)

設問	選択肢			合計
	①あり	②なし	無回答	
(1)区の可燃ごみ収集に出している	73.1%	17.9%	9.0%	100.0%
(2)区の不燃ごみ収集に出している	63.4%	23.5%	13.0%	100.0%
(3)区の資源収集に出している	57.3%	26.6%	16.1%	100.0%
(4)板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムに出している	6.3%	56.9%	36.8%	100.0%
(5)民間のリサイクル業者に引渡している	18.6%	47.2%	34.2%	100.0%
(6)自社で廃棄物処理業者に委託処理している	32.9%	36.1%	31.0%	100.0%
(7)建物の管理会社が廃棄物処理業者に委託処理している	2.1%	57.7%	40.2%	100.0%
(8)自ら清掃工場に持ち込んでいる	3.6%	57.6%	38.8%	100.0%
(9)自らの施設で処理している	1.8%	58.3%	39.9%	100.0%

## 第5章 区収集への資源やごみの排出

問3 区の収集に資源やごみを排出している事業所にお聞きします。

### 5.1 区収集に排出しているごみ量

問3-1 一週間に区の収集に排出しているごみ量は、どのくらいでしょうか。おおよその量でお答えください。

「5～10kg 未満」(23.9%)の回答割合が最も高く、次いで「1～5kg 未満」(21.9%)、「10～20kg 未満」(19.0%)と続いている。なお、全体の平均重量は15.4kgである。

属性別の平均袋数を表 II-16～表 II-19 に示す。業種別では、『⑥飲食店』が28.3kgで最も多い。従業者数や延べ床面積が多くなれば重量も多くなる傾向がある。

表 II-15 問3-1 回答結果

一週間あたりのごみ量	回答数	回答割合
0～1kg 未満	42	6.0%
1～5kg 未満	154	21.9%
5～10kg 未満	168	23.9%
10～20kg 未満	134	19.0%
20～30kg 未満	55	7.8%
30～40kg 未満	41	5.8%
40～50kg 未満	23	3.3%
50～100kg 未満	40	5.7%
100kg～	10	1.4%
無回答	37	5.3%
合計	704	100.0%

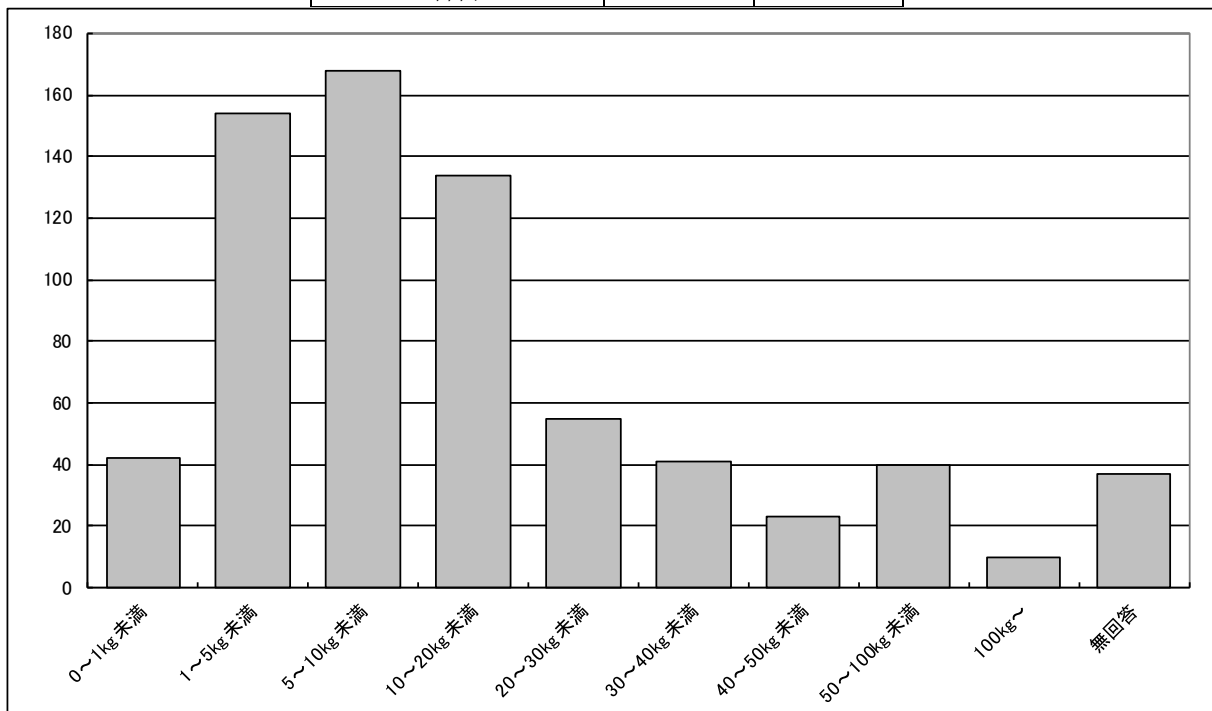




図 II-7 1問 3-1 回答結果

表 II-16 問 3-1 属性別の平均重量（業種別）

属性	平均重量 (kg)
①建設業	10.4
②製造業	17.4
③運輸・通信業	13.4
④卸売業	13.2
⑤小売業	14.7
⑥飲食店	28.3
⑦金融・保険業	15.0
⑧不動産業	13.1
⑨サービス業・その他	15.0
無回答	15.8
全体	15.4

表 II-17 問 3-1 属性別の平均重量（建物形態別）

属性	平均重量 (kg)
①社占有使用の建物	20.9
②共同ビル	12.8
③集合住宅にテナントとして入居	12.6
④住居と併用の事業所	13.4
⑤その他	39.1
無回答	10.6
全体	15.4

表 II-18 問 3-1 属性別の平均重量（従業者数別）

属性	平均重量 (kg)
①5人未満	11.0
②5～9人	17.6
③10～29人	28.6
④30人以上	31.6
無回答	15.1
全体	15.4

表 II-19 問 3-1 属性別の平均重量（延べ床面積別）

属性	平均重量 (kg)
①100 m <sup>2</sup> 未満	10.9
②100～300 m <sup>2</sup> 未満	19.1
③300～1,000 m <sup>2</sup> 未満	24.8
④1,000～3,000 m <sup>2</sup> 未満	46.6
⑤3,000 m <sup>2</sup> 以上	
無回答	12.4
全体	15.4

## 5.2 事業系シールの貼付

問3-2 区の収集に排出される際、事業系シールを貼っていますか。(○は1つ)

「②事業系シールを貼って排出している」(75.9%)の回答割合が最も高く過半数を占めているが、「①事業系シールを貼らずに排出している」(20.9%)の回答も五分の一を占めている。

事業所属性とのクロス集計(P エラー! ブックマークが定義されていません。)でも、「②事業系シールを貼って排出している」は全ての属性で最も回答割合が高い。「①事業系シールを貼らずに排出している」で、特に回答割合が高いのは、業種別では『⑦金融・保険業』(40.0%)、建物形態別では『④住居と併用の事業所』(29.8%)、従業者数別では『①5人未満』(26.8%)、延べ床面積別では『①100㎡未満』(26.4%)である。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 II-21 である。平成 24 年度調査結果と比べると「①事業系シールを貼らずに排出している」が 7.2%高くなっている。

表 II-20 問 3-2 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①事業系シールを貼らずに排出している	147	20.9%
②事業系シールを貼って排出している	534	75.9%
無回答	23	3.3%
合計	704	100.0%

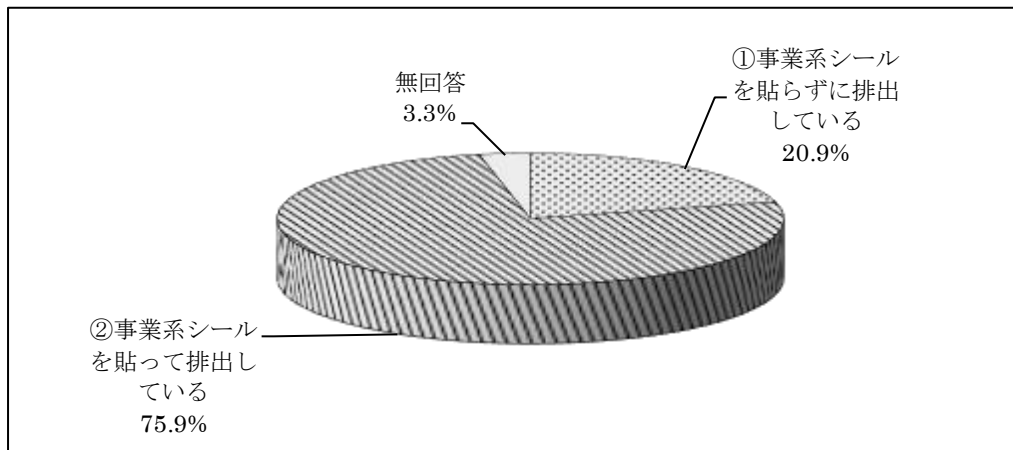


図 II-8 問 3-2 回答結果

表 II-21 過去調査との比較 (問 3-2)

選択肢	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①事業系シールを貼らずに排出している	25.2%	13.7%	20.9%
②事業系シールを貼って排出している	70.5%	82.8%	75.9%
無回答	4.3%	3.5%	3.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

### 5.3 事業系シールを貼付しない理由

問3-3 前問3-2で「1.事業系シールを貼らずに排出」に○をつけた事業所の方にお聞きします。事業系シールを貼らずに出す理由は何ですか。（最も強い理由ひとつに○）

「①ごみが少量だから」（55.8%）の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②家庭から出るごみと一緒に出しているから」（29.9%）、「⑤その他」（6.8%）と続いている。なお、「⑤その他」の具体的内容は「資源のみだから」（5件）などである。

事業所属性とのクロス集計（Pエラー! ブックマークが定義されていません。）では、ほとんどの属性で「①ごみが少量だから」の回答割合が最も高いが、業種別の『⑤小売業』と『⑦金融・保険業』では、「②家庭から出るごみと一緒に出しているから」の回答割合が最も高い。

問3-1と問3-3のクロス集計を表II-23に示す。ほとんどの重量で「①ごみが少量だから」の回答割合が最も高いが、『30～40kg 未満』と『40～50kg 未満』は「②家庭から出るごみと一緒に出しているから」の回答割合が最も高い。

過去調査の同じ質問と比較したのが表II-24である。平成24年度調査結果と比べると「①ごみが少量だから」が8.9%高くなっている。

表 II-22 問3-3 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①ごみが少量だから	82	55.8%
②家庭から出るごみと一緒に出しているから	44	29.9%
③有料であることを知らなかったから	6	4.1%
④費用を支払いたくないから		
⑤その他	10	6.8%
無回答	5	3.4%
合計	147	100.0%

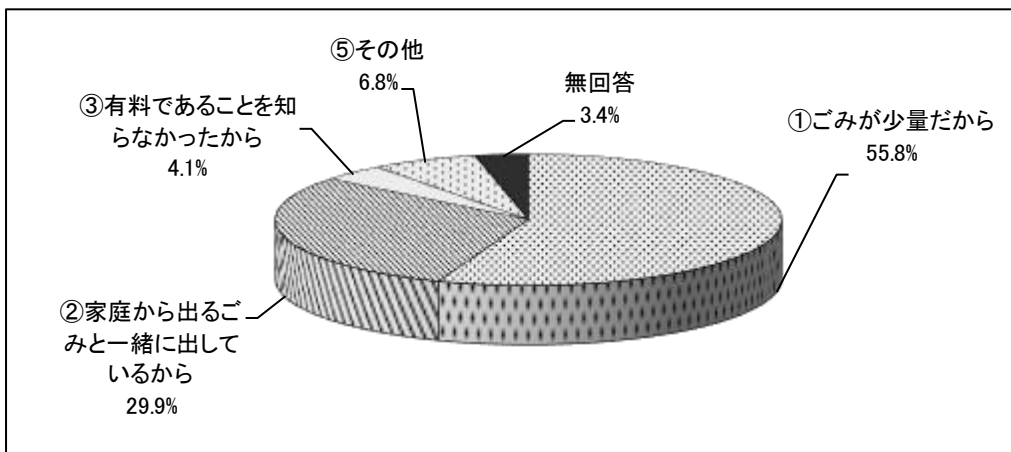


図 II-9 問3-3 回答結果

表 II-23 3-1 と問 3-3 のクロス集計回答結果

選択肢 (単一回答)		①ごみが少量だから	②家庭から出るごみと一緒に出しているから	③有料であることを知らなかったから	④費用を支払いたくないから	⑤その他	無回答	合計
重量	0～1kg 未満	12 54.5%	8 36.4%	1 4.5%		1 4.5%		22 100.0%
	1～5kg 未満	30 69.8%	8 18.6%	3 7.0%			2 4.7%	43 100.0%
	5～10kg 未満	18 58.1%	10 32.3%	1 3.2%		2 6.5%		31 100.0%
	10～20kg 未満	12 60.0%	4 20.0%	1 5.0%		3 15.0%		20 100.0%
	20～30kg 未満	3 42.9%	3 42.9%			1 14.3%		7 100.0%
	30～40kg 未満	1 16.7%	2 33.3%			2 33.3%	1 16.7%	6 100.0%
	40～50kg 未満	1 33.3%	2 66.7%					3 100.0%
	50～100kg 未満	2 50.0%	1 25.0%			1 25.0%		4 100.0%
	100kg～		1 100.0%					1 100.0%
	無回答	3 30.0%	5 50.0%				2 20.0%	10 100.0%
全体	82 55.8%	44 29.9%	6 4.1%		10 6.8%	5 3.4%	147 100.0%	

表 II-24 過去調査との比較 (問 3-3)

選択肢	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①ごみが少量だから	58.8%	47.3%	56.2%
②家庭から出るごみと一緒に出しているから	33.7%	31.1%	30.1%
③有料であることを知らなかったから	0.5%	4.1%	4.1%
④費用を支払いたくないから		1.4%	
⑤その他	4.8%	5.4%	6.8%
無回答	2.1%	10.8%	2.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

#### 5.4 民間委託収集に変える条件

問 3-4 どのような条件があれば、区の収集から民間委託による収集に変えようと思いますか。(〇はいくつでも)

「②区の収集より安い料金設定」(60.5%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「③区の収集より柔軟な回収日時設定」(25.9%)、「①一般処理業者の情報」(21.7%)と続いている。なお、「④その他」の具体的内容は「ごみの量が多くなったら」(4件)、「個人情報が漏れないなら」(2件)、「少量でも回収してくれるなら」(2件)などである。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

問 3-1 と問 3-4 のクロス集計結果を表 II-26 に示す。

表 II-25 問 3-4 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①一般処理業者の情報(安全な業者の紹介)	153	21.7%
②区の収集より安い料金設定	426	60.5%
③区の収集より柔軟な回収日時設定(頻度・時間帯)	182	25.9%
④その他	20	2.8%
回答数(n=)	704	

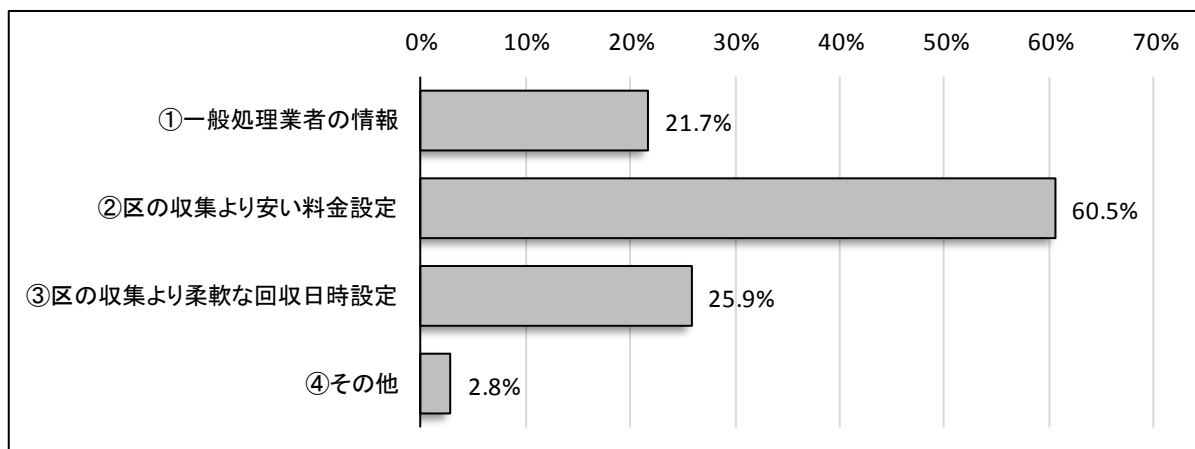


図 II-10 問 3-4 回答結果

表 II-26 問 3-1 と問 3-4 のクロス集計

選択肢 (複数回答)		①一般処理 業者の情報 (安全な業 者の紹介)	②区の収集 より安い料 金設定	③区の収集 より柔軟な 回収日時設 定(頻度・時 間帯)	④その他	全体
重 量	0～1kg 未満	9 21.4%	15 35.7%	7 16.7%	2 4.8%	42
	1～5kg 未満	29 18.8%	74 48.1%	34 22.1%	6 3.9%	154
	5～10kg 未満	35 20.8%	102 60.7%	38 22.6%	4 2.4%	168
	10～20kg 未満	35 26.1%	101 75.4%	42 31.3%	3 2.2%	134
	20～30kg 未満	9 16.4%	42 76.4%	12 21.8%		55
	30～40kg 未満	12 29.3%	29 70.7%	13 31.7%	1 2.4%	41
	40～50kg 未満	4 17.4%	16 69.6%	9 39.1%	1 4.3%	23
	50～100kg 未満	12 30.0%	25 62.5%	16 40.0%	1 2.5%	40
	100kg～	2 20.0%	7 70.0%	3 30.0%	1 10.0%	10
	無回答	6 16.2%	15 40.5%	8 21.6%	1 2.7%	37
全体		153 21.7%	426 60.5%	182 25.9%	20 2.8%	704

### 5.5 「日量 50 kg未満」の基準を引き下げ

問 3-5 本区では、事業規模が常時使用従業員数で 20 人以下、かつ、平均排出日量が 50 kg 未満の事業者について、家庭ごみの収集に支障の無い範囲で収集を行っています。

廃棄物処理法上の事業者の自己処理責任を徹底する観点から、「日量 50 kg 未満」の基準を引き下げることとも今後の方向性として考えられますが、どう思われますか。（○は 1 つ）

「④わからない」（43.8%）の回答割合が最も高く、次いで「②基準の引き下げもやむを得ない」（24.4%）、「③基準の引き下げは反対である」（12.5%）と続いている。肯定的な回答の「①基準の引き下げは必要である」（10.1%）と「②基準の引き下げもやむを得ない」（24.4%）の合計は 34.5%である。

事業所属性とのクロス集計（P エラー! ブックマークが定義されていません。）では、ほとんどの属性で「④わからない」の回答割合が最も高いが、業種別では『⑧不動産業』で、従業員数別では『④30 人以上』で、「②基準の引き下げもやむを得ない」の回答割合が最も高い。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 II-28 である。過去調査と比べるとおおよそ同じような傾向である。平成 24 年度調査と比べると、「③基準の引き下げは反対である」が 3.0%低くなっている。

問 3-1 と問 3-5 のクロス集計結果を表 II-29 に示す。

表 II-27 問 3-5 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①基準の引き下げは必要である	71	10.1%
②基準の引き下げもやむを得ない	172	24.4%
③基準の引き下げは反対である	88	12.5%
④わからない	308	43.8%
無回答	65	9.2%
合計	704	100.0%

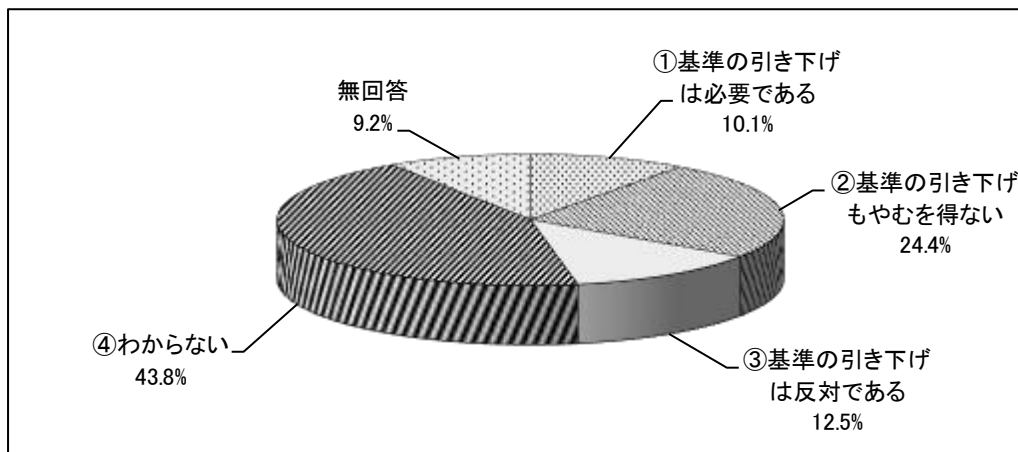


図 II-11 問 3-5 回答結果

表 II-28 過去調査との比較（問 3-5）

選択肢	H24 年度	H27 年度
①基準の引き下げは必要である	8.3%	10.1%
②基準の引き下げもやむを得ない	23.1%	24.4%
③基準の引き下げは反対である	15.5%	12.5%
④わからない	44.5%	43.8%
無回答	8.5%	9.2%
合計	100.0%	100.0%

表 II-29 問 3-1 と問 3-5 のクロス集計

選択肢 (単一回答)		①基準の引き下げは必要である	②基準の引き下げもやむを得ない	③基準の引き下げは反対である	④わからない	無回答	合計
重量	0～1kg 未満	7 16.7%	9 21.4%	4 9.5%	17 40.5%	5 11.9%	42 100.0%
	1～5kg 未満	20 13.0%	37 24.0%	11 7.1%	71 46.1%	15 9.7%	154 100.0%
	5～10kg 未満	18 10.7%	40 23.8%	19 11.3%	79 47.0%	12 7.1%	168 100.0%
	10～20kg 未満	9 6.7%	37 27.6%	21 15.7%	57 42.5%	10 7.5%	134 100.0%
	20～30kg 未満	4 7.3%	12 21.8%	11 20.0%	25 45.5%	3 5.5%	55 100.0%
	30～40kg 未満	3 7.3%	10 24.4%	5 12.2%	20 48.8%	3 7.3%	41 100.0%
	40～50kg 未満	2 8.7%	3 13.0%	5 21.7%	10 43.5%	3 13.0%	23 100.0%
	50～100kg 未満	2 5.0%	15 37.5%	9 22.5%	12 30.0%	2 5.0%	40 100.0%
	100kg～	1 10.0%	3 30.0%	3 30.0%	2 20.0%	1 10.0%	10 100.0%
	無回答	5 13.5%	6 16.2%		15 40.5%	11 29.7%	37 100.0%
	全体	71 10.1%	172 24.4%	88 12.5%	308 43.8%	65 9.2%	704 100.0%



## 第6章 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムの利用

問4 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムを利用されている事業所にお聞きします。

### 6.1 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムの利便性

問4-1 板橋区オフィス・商店街リサイクルシステムについて、利便性が悪い点がありますか。以下からお選びください。（〇はいくつでも）

「⑤特になし」（54.0%）の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②回収頻度が少ない」（15.9%）、「①料金が高い」（14.3%）と続いている。なお、「⑤特になし」の具体的内容は「場所が少し離れている。」などである。

事業所属性とのクロス集計（Pエラー! ブックマークが定義されていません。）では特徴的な傾向はなかった。

表 II-30 問4-1 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①料金が高い	9	14.3%
②回収頻度が少ない	10	15.9%
③回収品目が少ない	7	11.1%
④その他	1	1.6%
⑤特になし	34	54.0%
回答数(n=)	63	

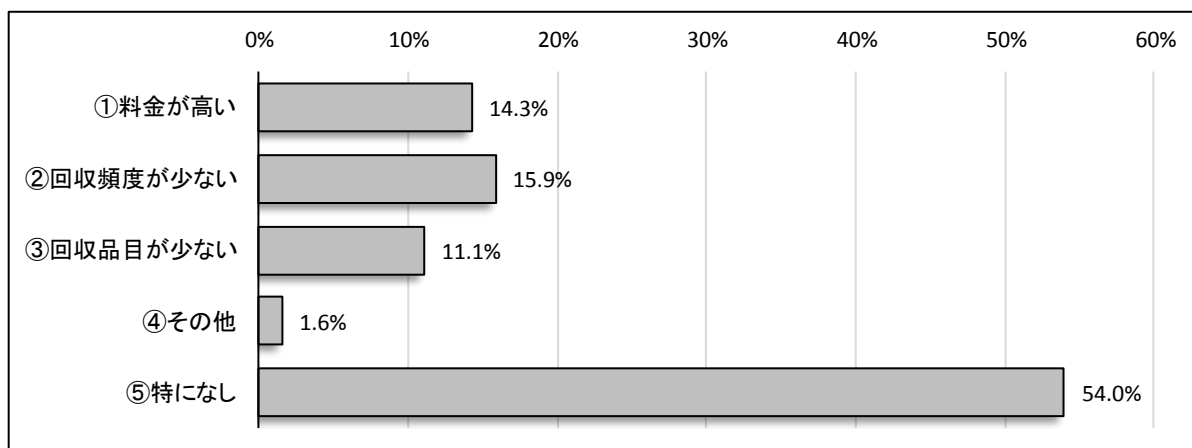


図 II-12 問4-1 回答結果

## 6.2 古紙以外に回収してほしい資源

問 4-2 古紙以外に回収してほしい資源がありますか。

「⑤特になし」(65.1%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②かん」(14.3%)、「③ペットボトル」(14.3%)と続いている。なお、「④その他」の具体的内容は「電池」(3件)などである。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー! ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 II-31 問 4-2 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①びん	8	12.7%
②かん	9	14.3%
③ペットボトル	9	14.3%
④その他	7	11.1%
⑤特になし	41	65.1%
回答数(n=)	63	

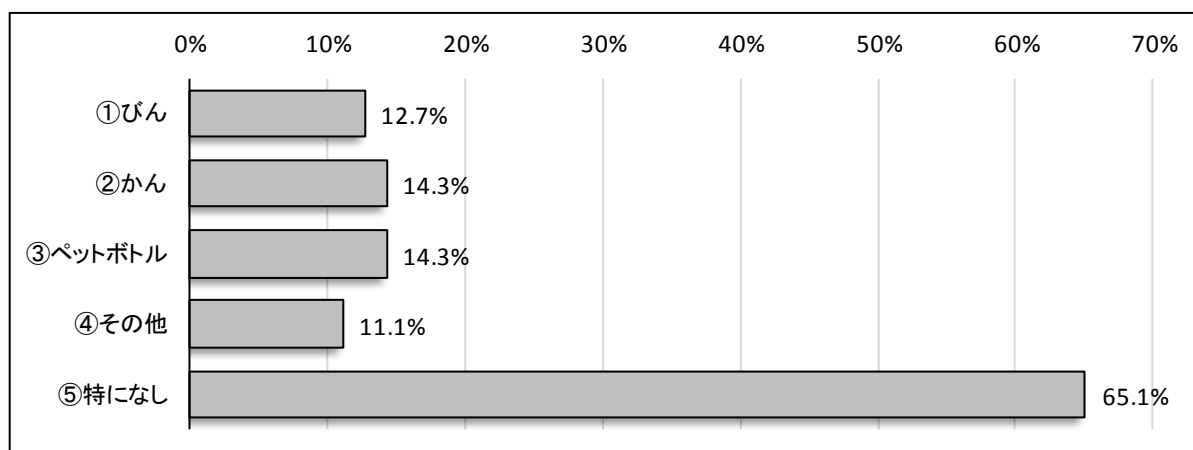


図 II-13 問 4-2 回答結果

## 第7章 民間委託収集にごみを排出している事業者

問5 民間委託による収集にごみを排出している事業所にお聞きします。

### 7.1 民間委託収集に排出しているごみ量

問5-1 一週間に民間委託収集に排出しているごみ量は、どのくらいでしょうか。おおよその量でお答えください。

「100kg～」(16.6%)の回答割合が最も高く、次いで「50～100kg 未満」(11.3%)、「10～20kg 未満」(9.4%)と続いている。なお、全体の平均重量は154.9kgである。

属性別の平均袋数を表 II-33～表 II-36 に示す。業種別では、『⑤小売業』が330.8kgで最も多い。従業者数や延べ床面積が多くなれば重量も多くなる傾向がある。

表 II-32 問5-1 回答結果

一週間あたりのごみ量	回答数	回答割合
0～1kg 未満	21	6.6%
1～5kg 未満	27	8.5%
5～10kg 未満	23	7.2%
10～20kg 未満	30	9.4%
20～30kg 未満	26	8.2%
30～40kg 未満	17	5.3%
40～50kg 未満	11	3.4%
50～100kg 未満	36	11.3%
100kg～	53	16.6%
無回答	75	23.5%
合計	319	100.0%

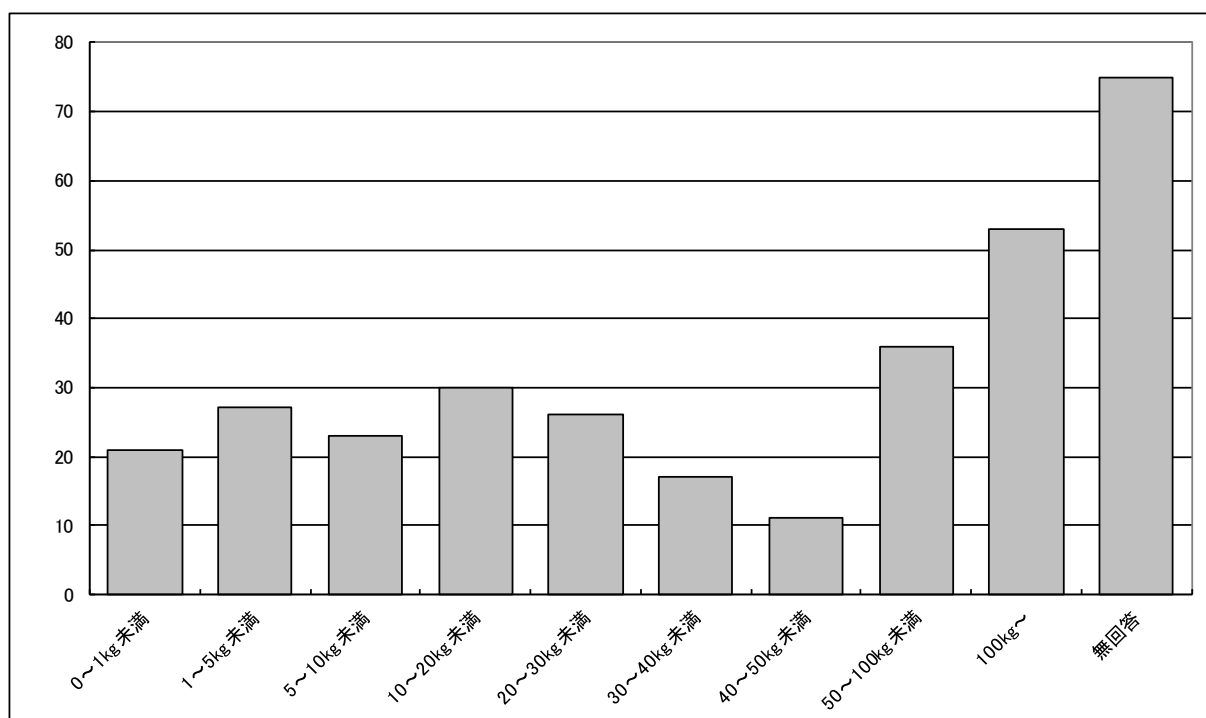


図 II-14 問 5-1 回答結果

表 II-33 問 5-1 属性別の平均重量（業種別）

属性	平均重量 (kg)
①建設業	70.4
②製造業	266.3
③運輸・通信業	270.0
④卸売業	108.4
⑤小売業	330.8
⑥飲食店	235.3
⑦金融・保険業	18.8
⑧不動産業	14.5
⑨サービス業・その他	72.5
無回答	
全体	154.9

表 II-34 問 5-1 属性別の平均重量（建物形態別）

属性	平均重量 (kg)
①社占有使用の建物	232.5
②共同ビル	133.4
③集合住宅にテナントとして入居	110.5
④住居と併用の事業所	87.3
⑤その他	124.0
無回答	64.5
全体	154.9

表 II-35 問 5-1 属性別の平均重量（従業者数別）

属性	平均重量 (kg)
①5 人未満	53.0
②5～9 人	156.3
③10～29 人	186.5
④30 人以上	412.6
無回答	5.4
全体	154.9

表 II-36 問 5-1 属性別の平均重量（延べ床面積別）

属性	平均重量 (kg)
①100 m <sup>2</sup> 未満	40.8
②100～300 m <sup>2</sup> 未満	128.4
③300～1,000 m <sup>2</sup> 未満	300.1
④1,000～3,000 m <sup>2</sup> 未満	362.5
⑤3,000 m <sup>2</sup> 以上	
無回答	21.3
全体	154.9

## 7.2 民間委託収集に排出している理由

問5-2 民間委託による収集に資源やごみを出している理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「⑧その他」(30.1%)の回答割合が最も高く、次いで「②収集日の融通がきくから」(26.0%)、「③収集時間の融通がきくから」(18.2%)と続いている。なお、「⑧その他」の具体的内容は「感染性医療廃棄物だから」(28件)、「産業廃棄物だから」(10件)、「区が収集してくれないから」(5件)、「機密文書だから」(5件)、「個人情報だから」(4件)、「区の収集に出せないごみだから」(3件)などである。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

問5-1と問5-2のクロス集計を表II-38に示す。「②収集日の融通がきくから」では『30～40kg未満』(52.9%)の回答割合が高い。

表 II-37 問5-2 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①コストが安いから	44	13.8%
②収集日の融通がきくから	83	26.0%
③収集時間の融通がきくから	58	18.2%
④商店街などで共同で委託しているから	4	1.3%
⑤本社や本部で一括して契約しているから	55	17.2%
⑥ごみ集積所まで運ぶ必要がないから	53	16.6%
⑦分別の必要がないから	29	9.1%
⑧その他	96	30.1%
回答数(n=)	319	

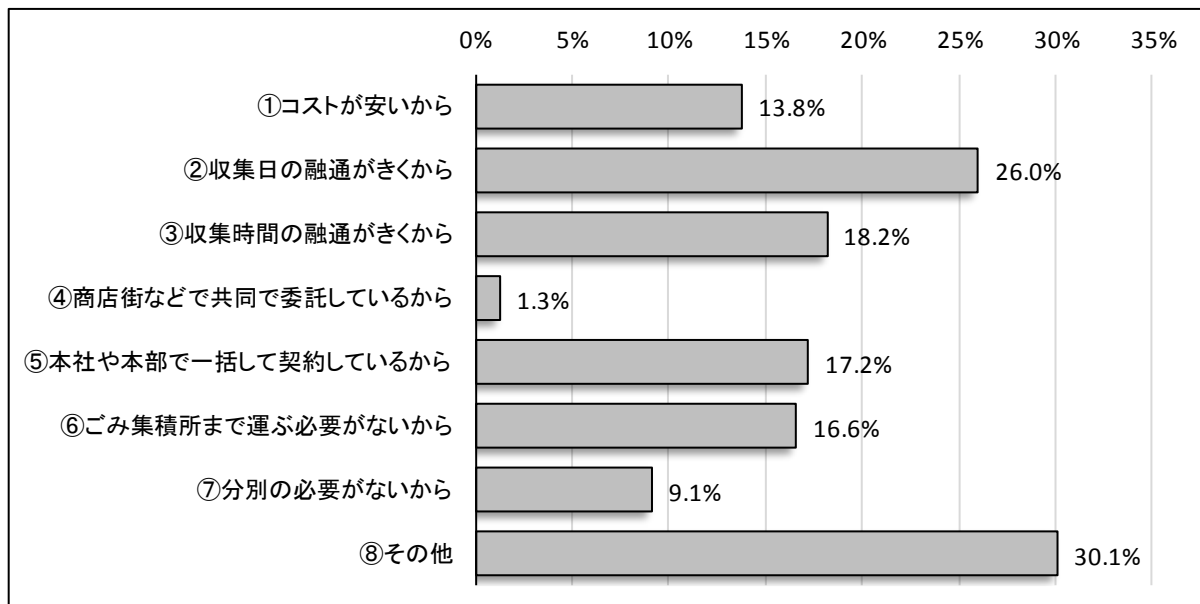


図 II-15 問5-2 回答結果

表 II-38 問 5-1 と問 5-2 のクロス集計

選択肢 (複数回答)		①コスト が安いから	②収集日 の融通が きくから	③収集時 間の融通 がきくから	④商店街 などで共 同で委託 している から	⑤本社や 本部で一 括して契 約してい るから	⑥ごみ集 積所まで 運ぶ必要 がないか ら	⑦分別の 必要がな いから	⑧その他	全体
重量	0～1kg 未満	1 4.8%	4 19.0%	4 19.0%		1 4.8%	1 4.8%		14 66.7%	21
	1～5kg 未満	2 7.4%	4 14.8%	2 7.4%		1 3.7%	7 25.9%	3 11.1%	17 63.0%	27
	5～10kg 未満	3 13.0%	3 13.0%	2 8.7%	1 4.3%	2 8.7%	3 13.0%	1 4.3%	10 43.5%	23
	10～20kg 未満	7 23.3%	11 36.7%	8 26.7%	1 3.3%	6 20.0%	7 23.3%	6 20.0%	6 20.0%	30
	20～30kg 未満	8 30.8%	11 42.3%	9 34.6%		2 7.7%	5 19.2%	1 3.8%	7 26.9%	26
	30～40kg 未満	5 29.4%	9 52.9%	3 17.6%		3 17.6%	3 17.6%	4 23.5%	4 23.5%	17
	40～50kg 未満	2 18.2%	5 45.5%	4 36.4%		4 36.4%	3 27.3%	1 9.1%	1 9.1%	11
	50～100kg 未満	5 13.9%	6 16.7%	8 22.2%		9 25.0%	6 16.7%	3 8.3%	14 38.9%	36
	100kg～	7 13.2%	21 39.6%	14 26.4%	1 1.9%	18 34.0%	14 26.4%	4 7.5%	10 18.9%	53
	無回答	4 5.3%	9 12.0%	4 5.3%	1 1.3%	9 12.0%	4 5.3%	6 8.0%	13 17.3%	75
全体	44 13.8%	83 26.0%	58 18.2%	4 1.3%	55 17.2%	53 16.6%	29 9.1%	96 30.1%	319	

## 第8章 ごみ減量やリサイクルの取り組み

問6 すべての事業所に、ごみ減量やリサイクルの取り組みについてお聞きします。

### 8.1 ごみ減量・リサイクルの推進

問6-1 貴事業所のごみは、今よりもっと減量やリサイクルができますか。（○は1つ）

「③何とも言えない。分からない」（44.1%）の回答割合が最も高く、次いで「②思わない」（29.7%）、「①できると思う」（20.8%）と続いている。

事業所属性とのクロス集計（Pエラー!ブックマークが定義されていません。）では、ほとんどの属性で「③何とも言えない。分からない」の回答割合が最も高いが、業種別の『③運輸・通信業』で、「①できると思う」の回答割合が最も高い。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 II-40 である。過去調査と比べると「①できると思う」が減少傾向であり、「③何とも言えない。分からない」が増加傾向である。

表 II-39 問6-1 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①できると思う	184	20.8%
②思わない	263	29.7%
③何とも言えない。分からない	391	44.1%
無回答	48	5.4%
合計	886	100.0%

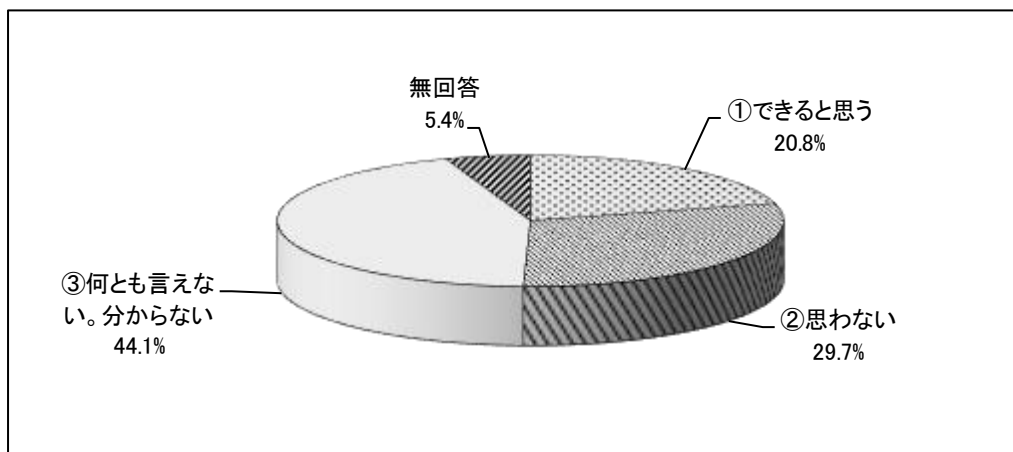


図 II-16 問6-1 回答結果

表 II-40 過去調査との比較（問 6-1）

選択肢	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①できると思う	29.4%	26.2%	20.8%
②思わない	26.2%	26.9%	29.7%
③何とも言えない。分からない	33.0%	39.1%	44.1%
無回答	11.5%	7.8%	5.4%
合計	100.1%	100.0%	100.0%



## 8.2 ごみ減量・リサイクルを行う上での課題

問 6-2 ごみ減量やリサイクルを進める上で、課題となっていることはありますか。主なものを2つまであげてください。(〇は2つまで)

「⑨特になし」(34.7%)の回答割合が最も高く、次いで「⑦資源物の発生量が少なく量がまとまらない」(25.3%)、「⑥分別・保管などをする場所がない」(15.2%)と続いている。なお、「⑧その他」の具体的内容は「外国人への教育が難しい」(2件)などである。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

過去調査の同じ質問と比較したのが表 II-42 である。過去調査と比べるとおおよそ同じような傾向である。平成 24 年度調査と比べると、「④資源を分別するのに手間がかかる」が 9.5%、「⑤従業員の教育が徹底しない」が 10.0%低くなっている。

表 II-41 問 6-2 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①人手が不足している	61	6.9%
②どのようなリサイクル業者に頼んだらよいか分からない	89	10.0%
③コストがかかる	121	13.7%
④資源を分別するのに手間がかかる	124	14.0%
⑤従業員の教育が徹底しない	39	4.4%
⑥分別・保管などをする場所がない	135	15.2%
⑦資源物の発生量が少なく量がまとまらない	224	25.3%
⑧その他	11	1.2%
⑨特になし	307	34.7%
回答数(n=)	886	

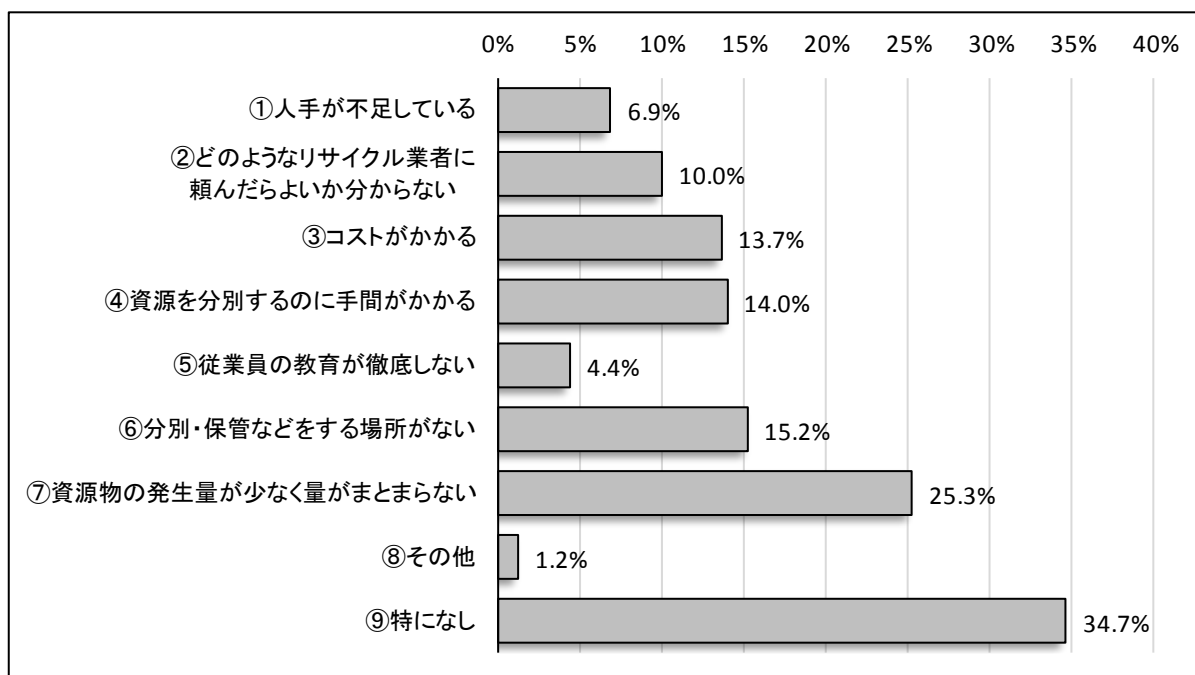


図 II-17 問 6-2 回答結果

表 II-42 過去調査との比較（問 6-2）

選択肢(複数回答)	H22 年度	H24 年度	H27 年度
①人手が不足している	9.0%	11.8%	6.9%
②どのようなリサイクル業者に頼んだらよいか分からない	12.3%	10.2%	10.0%
③コストがかかる	10.1%	17.1%	13.7%
④資源を分別するのに手間がかかる	22.4%	23.5%	14.0%
⑤従業員の教育が徹底しない	8.2%	14.4%	4.4%
⑥分別・保管などをする場所がない	24.3%	15.0%	15.2%
⑦資源物の発生量が少なく量がまとまらない	25.4%	24.1%	25.3%
⑧その他	6.3%	6.4%	1.2%
⑨特になし	17.2%	22.5%	34.7%

### 8.3 ごみ情報の入手方法

問6-3 ごみの情報はどこから収集していますか。(〇はいくつでも)

「④集積所の掲示」(33.6%)の回答割合が最も高く、次いで「③区のホームページ」(25.5%)、「①区に問い合わせ」(18.6%)と続いている。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「④集積所の掲示」の回答割合が最も高いが、業種別では『⑦金融・保険業』、『⑧不動産業』、『⑨サービス業・その他』で、従業者数別では『③10~29人』以上で、延べ床面積別では『③300~1,000㎡未満』以上で、「③区のホームページ」の回答が最も高い。

表 II-43 問6-3 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①区に問い合わせ	165	18.6%
②冊子「かたつむりのおやくそくハンドブック」	112	12.6%
③区のホームページ	226	25.5%
④集積所の掲示	298	33.6%
⑤ビルの管理会社から	51	5.8%
⑥商店街や商工会から	34	3.8%
⑦収集を委託している民間業者から	145	16.4%
⑧本社や本部から	29	3.3%
⑨その他	25	2.8%
回答数(n=)	886	

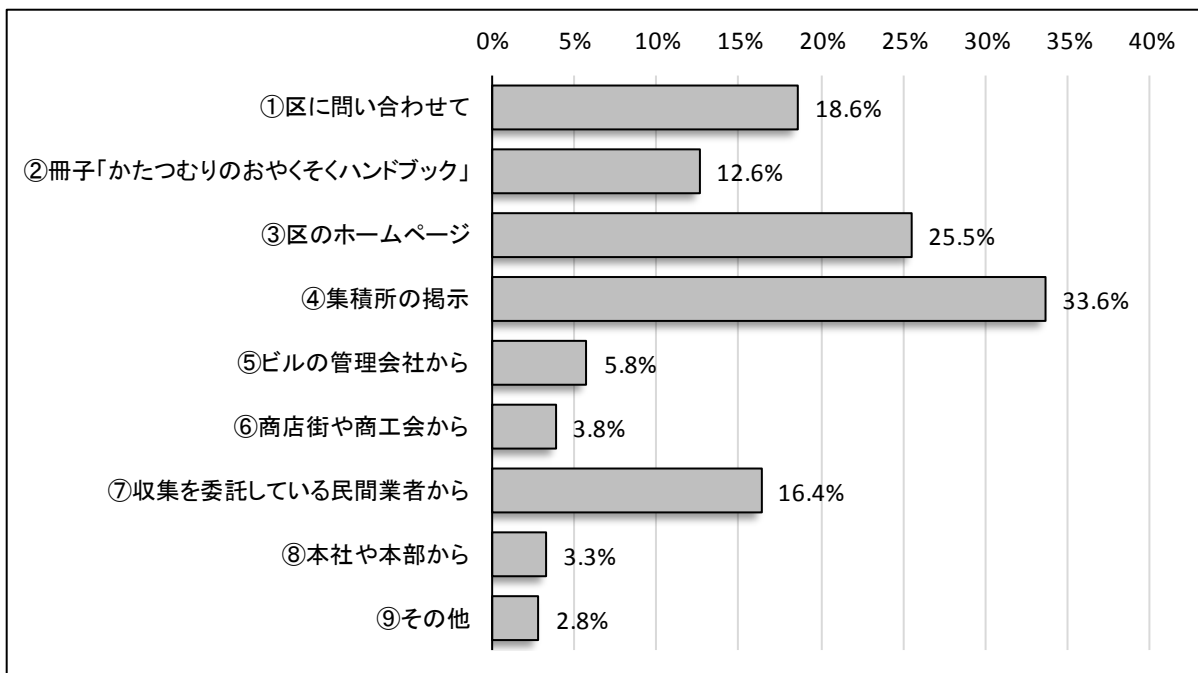


図 II-18 問6-3 回答結果

#### 8.4 板橋区に進めてほしい情報提供や PR 活動

問 6-4 今後区に進めてほしい情報提供や PR 活動は何ですか。(〇はいくつでも)

「⑨特にほしい情報は無い」(33.4%)の回答割合が最も高く、次いで「①事業系ごみの正しい分け方や適正処理の方法、法制度に関する情報」(30.5%)、「②資源回収業者、再生処理業者に関する情報」(23.5%)と続いている。なお、「⑧その他」の具体的内容は「個人情報を守れるごみの出し方」、「同業他社のごみ減量リサイクルの状況」などである。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では、ほとんどの属性で「⑨特にほしい情報は無い」の回答割合が最も高いが、業種別では『⑦金融・保険業』と『⑧不動産業』で、建物形態別では『②共同ビル』で、従業者数別では『③10~29人』以上で、延べ床面積別では『④1,000~3,000 m<sup>2</sup>未満』で、「①事業系ごみの正しい分け方や適正処理の方法、法制度に関する情報」の回答割合が最も高い。

表 II-44 問 6-4 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①事業系ごみの正しい分け方や適正処理の方法、法制度に関する情報	270	30.5%
②資源回収業者、再生処理業者に関する情報	208	23.5%
③事業所のタイプ別のごみ減量取り組みマニュアルや、行動指針	123	13.9%
④板橋区オフィス・商店街リサイクルの PR	94	10.6%
⑤ごみ減量やリサイクルで先進的な取り組みを行っている事業所の事例紹介	86	9.7%
⑥環境配慮やごみ減量・リサイクルに取り組む事業所やお店の区民に対する PR	40	4.5%
⑦社会貢献活動として参加できそうな地域団体の活動や区内イベント等の情報	33	3.7%
⑧その他	5	0.6%
⑨特にほしい情報は無い	296	33.4%
回答数(n=)	886	

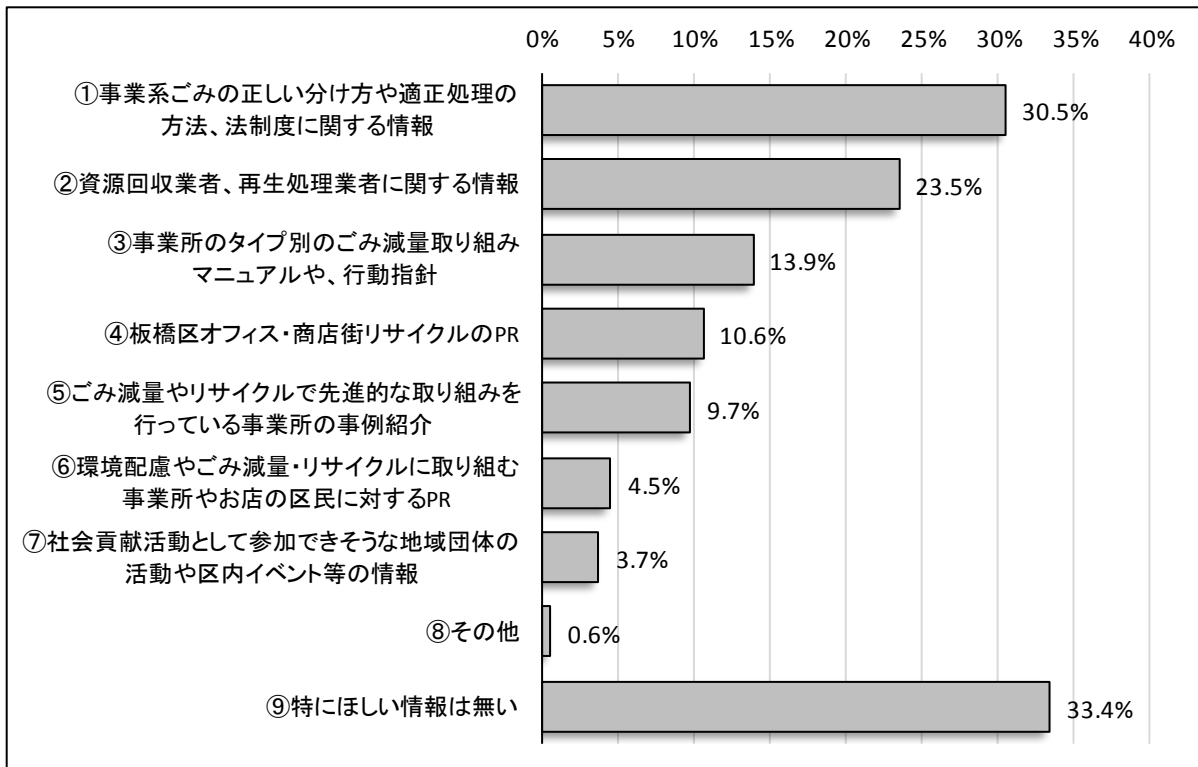


図 II-19 問 6-4 回答結果

## 第9章 食品関連の事業所

問7 食品関連の事業所にお聞きします。

### 9.1 食品廃棄物等多量発生事業者の該当

問7-1 貴事業所は、食品廃棄物等多量発生事業者（食品廃棄物等の前年度の発生量が100トン以上の食品関連事業者）に該当しますか。（○は1つ）

「②該当しない」（80.5%）の回答割合が最も高く大多数を占めており、次いで「③わからない」（7.3%）、「①該当する」（2.4%）と続いている。

事業所属性とのクロス集計（Pエラー! ブックマークが定義されていません。）では特徴的な傾向はなかった。

表 II-45 問7-1 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①該当する	5	2.4%
②該当しない	165	80.5%
③わからない	15	7.3%
無回答	20	9.8%
合計	205	100.0%

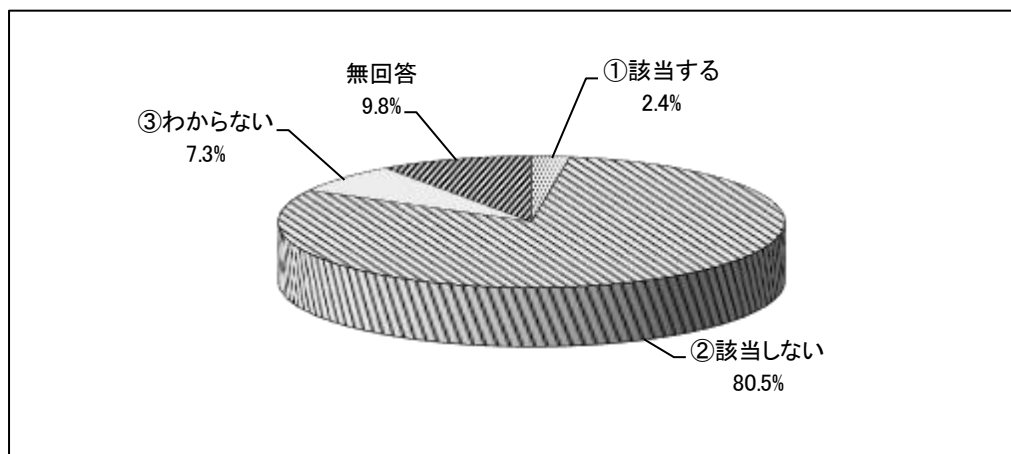


図 II-20 問7-1 回答結果

## 9.2 生ごみの排出量を抑えるための取り組み

問 7-2 貴事業所内では、生ごみの排出量を抑えるため、どのような取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

「⑧特に行っている取り組みはない」(23.4%)の回答割合が最も高く、次いで「③水切りを行っている」(22.9%)、「②売れ残りや消費期限切れを少なくするよう、工夫を行っている」(21.0%)と続いている。なお、「⑦その他」の具体的内容は「作った食事は各自でなるべく持ち帰るようにしている」などである。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 II-46 問 7-2 回答結果

選択肢(複数回答)	回答数	回答割合
①仕入れや調理工程で、食品残さが少なくなるよう工夫を行っている	41	20.0%
②売れ残りや消費期限切れを少なくするよう、工夫を行っている	43	21.0%
③水切りを行っている	47	22.9%
④事業所内で乾燥処理を行っている		
⑤事業所内でたい肥化やメタン発酵処理を行っている	3	1.5%
⑥客等に食べ残しの削減を働きかけている	11	5.4%
⑦その他	3	1.5%
⑧特に行っている取り組みはない	48	23.4%
回答数(n=)	205	

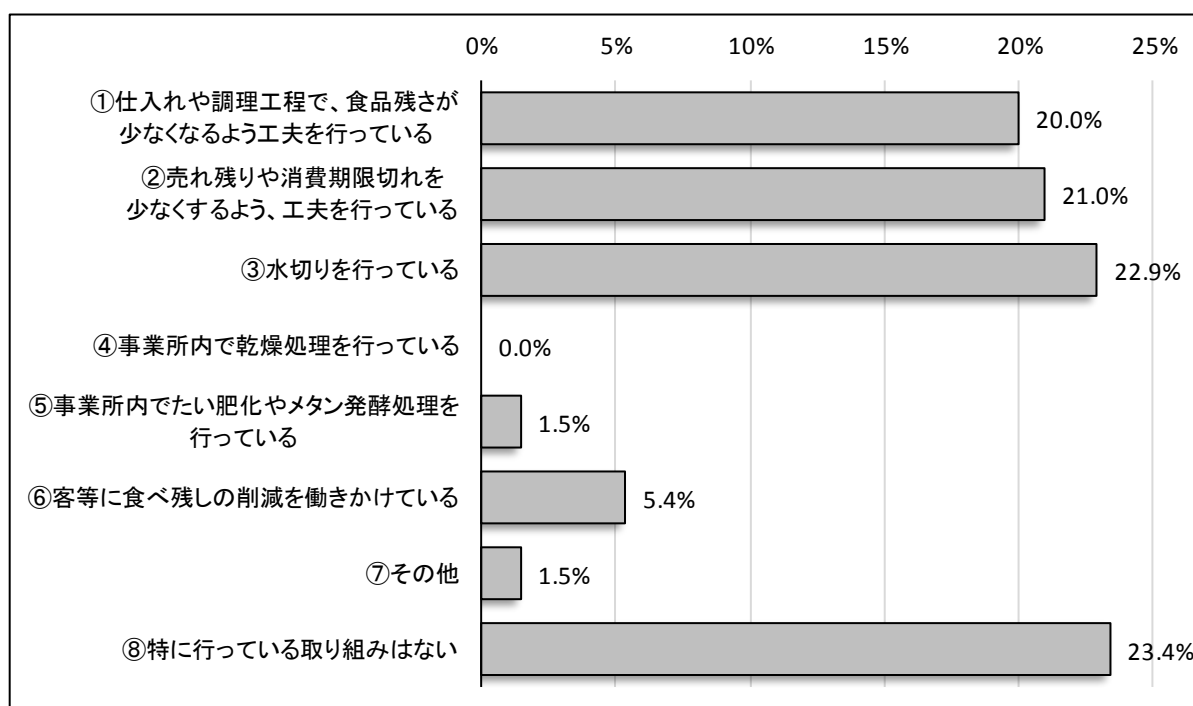


図 II-21 問 7-2 回答結果

### 9.3 生ごみの処理方法

問 7-3 貴事業所では、生ごみをどのように処理されていますか。(主なもの 1 つに○)

「①他のごみと一緒に区の可燃ごみ収集に出す」(52.7%)の回答割合が最も高く過半数を占めており、次いで「②他のごみと一緒に許可業者収集に委託する」(15.6%)、「④その他」(3.9%)と続いている。なお、「④その他」の具体的内容は「生ごみは発生しない。(6件)」などである。

事業所属性とのクロス集計(P エラー! ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 II-47 問 7-3 回答結果

選択肢	回答数	回答割合
①他のごみと一緒に区の可燃ごみ収集に出す	108	52.7%
②他のごみと一緒に許可業者収集に委託する	32	15.6%
③食品再生業者(飼料化や肥料化、たい肥化)に委託する	6	2.9%
④その他	8	3.9%
無回答	51	24.9%
合計	205	100.0%

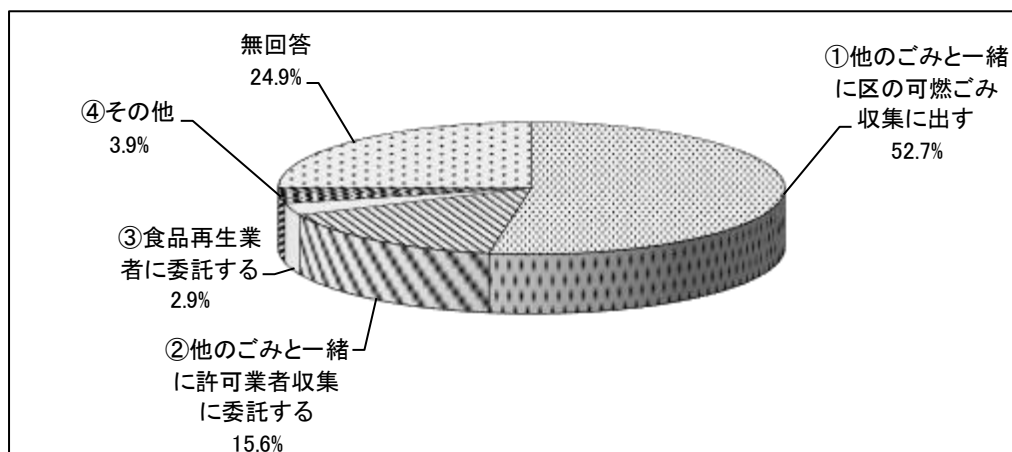


図 II-22 問 7-3 回答結果



## 第10章 販売店での消費者向けの取り組み

問8 販売店での消費者向けの取り組みについてお聞きします。

貴店では、環境問題に貢献するために、消費者に対してどのような取り組みを行っていますか。下表の(1)～(9)の各項目について、1～4のどれか1つに○をおつけください。(1)～(9)以外に独自で行っているものがあれば、(10)にご記入ください。

「④該当しない」を除いた場合、各設問で最も回答割合が高いのは、(1)～(3)は「①行っている」で、(4)～(9)は「②行っていない」である。

事業所属性とのクロス集計(Pエラー!ブックマークが定義されていません。～Pエラー!ブックマークが定義されていません。)では特徴的な傾向はなかった。

表 II-48 問8 回答結果 (件数)

設問	選択肢					合計
	①行っている	②行っていない	③検討中	④該当しない	無回答	
(1) 食品トレイの削減など簡易包装の推進	28	19	4	82	18	151
(2) 買い物袋持参の奨励(レジ袋の削減)	44	37	11	47	12	151
(3) レジ袋が必要かどうかの確認	75	22	5	41	8	151
(4) レジ袋の有料化	8	67	7	52	17	151
(5) 使い捨て容器や製品の販売の自粛、リターナブル容器等の積極的な取り扱い	16	34	5	76	20	151
(6) ペットボトルや食品トレイの消費者からの回収	15	34		83	19	151
(7) 再生紙や再生ポリエステル衣料など、再生品を用いた商品の積極的な販売	13	32	1	85	20	151
(8) エコマーク製品等、環境にやさしい商品の積極的な販売	10	33	3	87	18	151
(9) 電気製品などの修理サービスの充実	18	23	3	90	17	151

表 II-49 問8 回答結果 (割合)

設問	選択肢					合計
	①行っている	②行っていない	③検討中	④該当しない	無回答	
(1) 食品トレイの削減など簡易包装の推進	18.5%	12.6%	2.6%	54.3%	11.9%	100.0%
(2) 買い物袋持参の奨励(レジ袋の削減)	29.1%	24.5%	7.3%	31.1%	7.9%	100.0%
(3) レジ袋が必要かどうかの確認	49.7%	14.6%	3.3%	27.2%	5.3%	100.0%
(4) レジ袋の有料化	5.3%	44.4%	4.6%	34.4%	11.3%	100.0%
(5) 使い捨て容器や製品の販売の自粛、リターナブル容器等の積極的な取り扱い	10.6%	22.5%	3.3%	50.3%	13.2%	100.0%
(6) ペットボトルや食品トレイの消費者からの回収	9.9%	22.5%		55.0%	12.6%	100.0%
(7) 再生紙や再生ポリエステル衣料など、再生品を用いた商品の積極的な販売	8.6%	21.2%	0.7%	56.3%	13.2%	100.0%
(8) エコマーク製品等、環境にやさしい商品の積極的な販売	6.6%	21.9%	2.0%	57.6%	11.9%	100.0%
(9) 電気製品などの修理サービスの充実	11.9%	15.2%	2.0%	59.6%	11.3%	100.0%

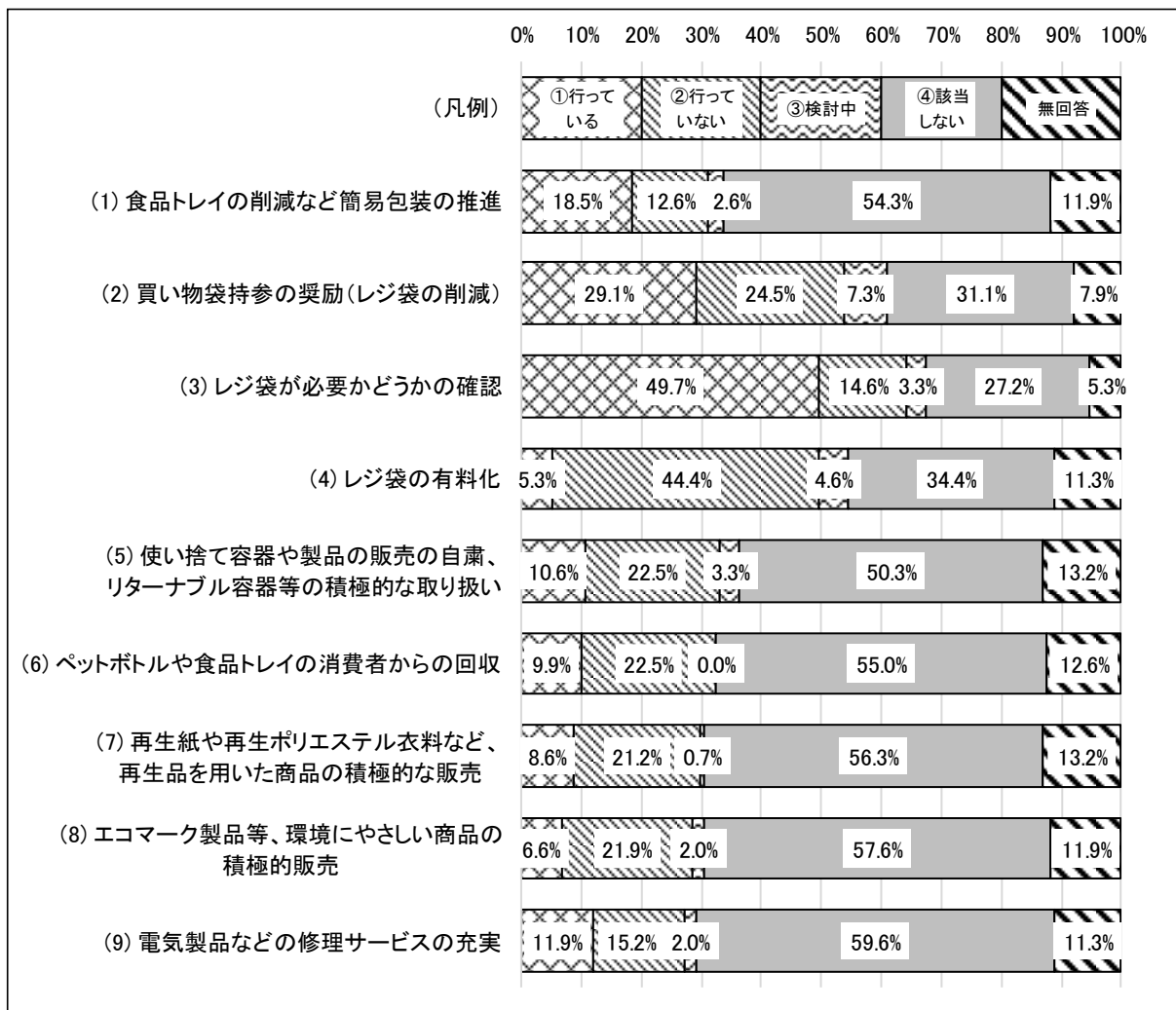


図 II-23 問 8 回答結果

(10) <(1)~(9)以外に独自で行っている取り組みの主な内容>

- リサイクル インクカードリッジの回収
- 蛍光管の回収
- 電池の回収
- 人や環境に優しい洗剤の輸入、販売
- 梱包用紙の再利用